新専門医制度　内科領域

# 名古屋大学医学部附属病院
# 基幹プログラム

# 名古屋大学医学部附属病院
# 内科専門研修プログラム

作成日:**2024/5/01 ver1.0**

目次

1. 名古屋大学医学部附属病院内科専門研修プログラムの概要・・・・ page 4
2. 内科専門研修はどのように行なわれるのか・・・・・・・・・・・・ page 6
3. 専攻医の到達目標（修得すべき知識・技能・態度など）・・・・・ page 10
4. 各種カンファレンスなどによる知識・技能の習得・・・・・・・・・ page 11
5. 学問的姿勢・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ page 11
6. 医師に必要な倫理性、社会性・・・・・・・・・・・・・・・・・・ page 12
7. 研修施設群による研修プログラムおよび地域医療についての考え方 page 12
8. 年次毎の研修計画・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ page 14
9. 専門医研修の評価・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ page 16
10. 専門研修プログラム管理委員会・・・・・・・・・・・・・・・・・ page 17
11. 専攻医の就業環境（労働管理）・・・・・・・・・・・・・・・・・ page 18
12. 専門研修プログラムの改善方法・・・・・・・・・・・・・・・・・page 18
13. 修了判定・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・page 18
14. 専攻医が専門研修プログラムの修了に向けて行なうべきこと・・・page 19
15. 研修プログラムの施設群・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・page 19
16. 専攻医の受け入れ数・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・page 19
17. subspecialty 領域・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・page 20
18. 研修の休止・中断、プログラム移動、プログラム外研修の条件・・page 20
19. 専門研修指導医・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・page 20
20. 専門研修実績記録システム、マニュアル等・・・・・・・・・・・・page 21
21. 研修に対するサイトビジット（訪問調査）・・・・・・・・・・・・ page 21
22. 専攻医の採用と修了・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・page 21

## 1. 名古屋大学医学部附属病院内科専門研修プログラムの概要

**理念・使命・特性**

**理念【整備基準 1】**

1) 名古屋大学医学部附属病院（以下、名大病院）は、【診療・教育・研究を通じて社会に貢献する】という基本理念のもと診療を行なっています。本プログラムは、名大病院を基幹施設として東海医療圏にある名古屋大学(以下、名大)内科関連病院と密な連携体制を保ち、社会に貢献できる内科専門医の育成を行ないます。
2) 本プログラムにおける内科専門研修を通じて、名大病院の特徴を生かして全人的な内科医療の実践に必要な知識と技能を備えた高度な内科領域 subspecialty 専門医と次代を担う医療開拓を行なえる physician scientist を養成します。
3) 初期臨床研修を修了した内科専攻医は、本プログラム専門研修施設群での 3 年間（異動を伴う 12 カ月以上の必須研修を含む）に、豊富な臨床経験を持つ指導医の適切な指導の下で、内科専門医制度研修カリキュラムに定められた内科領域全般にわたる研修を通じて、標準的かつ全人的な内科領域全般の診療能力を修得して、専門的診療能力を習得する上での礎を築きます。

内科領域全般の診療能力とは、臓器別の内科領域 subspecialty 分野の専門医にも共通して求められる基礎的な診療能力を指します。また、知識や技能に偏らずに、患者に人間性をもって接すると同時に、医師としてのプロフェッショナリズムとリサーチマインドの素養を修得して可塑性が高く様々な環境下で全人的な内科医療を実践する先導者の持つ能力です。

**使命　【整備基準 2】**

我々は、名大病院が掲げる基本理念を遂行するために、以下の 4 つの基本方針を常に意識して診療を行なっています。

1) 安全かつ最高水準の医療を提供します。
2) 優れた医療人を養成します。
3) 次代を担う新しい医療を開拓します。
4) 地域と社会に貢献します。

上記のマインドをもって本プログラムを通じて内科専攻医を育成することにより、本プログラム履修者が東海医療圏の名大内科関連病院において常に進歩する医療を最善に提供することを可能として、グローバル化を見据えた

次代を担う医療開拓を行なうための礎を築けることを使命としています。
そのために、

・内科専門医プログラムから内科領域 subspecialty プログラムへの橋渡しを行ないます。
・内科専門医キャリアパス形成への万全なサポート体制を構築します。
・早期に専門的臨床研究へ参加ができる環境を提供します。
・常に進歩する医療をけん引する physician scientist を養成します。

特性

1) 本プログラムは、東海医療圏において【臓器別のサブスペシャルティ領域に支えられた高度な急性期医療の役割と地域の病診・病病連携の中核としての役割】を担っている名大病院が基幹施設として、62 施設の名大内科関連病院が連携病院として参画することによって構成される内科専門研修プログラムであります。
2) 本プログラムは、名大病院が基幹病院になることにより、将来的に東海医療圏において内科医として臨床を研鑽したいと考える全国からの医学生・初期研修医の受け皿となり、多様な内科専門医としてのキャリアパスを全力でサポートするものであります。
3)名大内科関連病院中 24 施設は、基幹病院プログラムを有する東海医療圏の中心的な急性期病院で中核的な病院です。さらに、さまざまな病床規模の地域に根差した名大内科関連病院も連携病院・特別連携施設として参画しています。本プログラムで研修することによって、名大病院の理念を習得しつつ、さまざまな規模の病院を複合的に研修することが可能となり、標準的かつ全人的な内科的医療の実践に必要な知識と技能を修得して、専門的診療能力を習得する上での礎を築くことができます。
4) 本プログラムは、三つの内科専門研修コースを設けて名大病院の特徴を生かした内科専門医を養成します。一つは、高度な内科領域 subspecialty 専門医を育成するための橋渡しとなる subspecialty 専門医コースです。二つは、次代を担う医療開拓を行なえる名古屋大学独自の physician scientist 養成コースです。三つめは日本専門医機構が定めた臨床研究医コースです。
5) 基幹施設である名大病院で、研修開始から 12 (~18)カ月の期間でローテーション研修を行なうことによって特定の分野に偏らない内科全分野において主担当者として 56 疾患群、160 症例以上を症例登録ができるようにします。そして可能な限り 70 疾患群、200 症例以上の経験できることを目標とします。専攻医 2 年修了時点で、指導医による形成的な指導を通じて、内科専門医ボードによる評価に合格できる 29 症例の病歴要約を作成できるようにしま

す。

6) 研修開始から 2 年間で症例を経験することにより、経験症例登録にとらわれず、本プログラムに参画する地域に密着した多種多様な連携施設・特別連携施設で最低 12 ヵ月間研修し、大学病院とは違った総合内科的な研修をすることができます。これによって、さまざまな環境に対応できる内科キャリアパスを構築できます。

7) 本プログラムに参画している連携病院において初期研修を行なった後に本プログラムへ参加する場合には、原則、その病院からプログラムを開始していくこととします。研修期間での経験症例数に応じて、基幹病院である名大病院で原則 12 カ月以上の研修を行なうこととします。

8) 3)で述べた 24 施設は各地域の名大内科関連病院と連携を取り独自の基幹施設プログラムを提供しています。その結果、東海医療圏の内科患者が安心して最善の医療を受けられるように配慮がなされています。名大病院はこれらの基幹プログラムへ連携病院として参画して、密接な連携を維持することにより東海医療圏の極端な医師不足を回避・調整することとしています。

**専門研修後の成果　【整備基準 3】**

本プログラムの成果として、本プログラム履修者が名大病院の理念を習得して、さまざまな規模の病院を複合的に研修することによって、標準的かつ全人的な内科的医療の実践に必要な知識と技能を修得して、専門的診療能力を習得する上での礎を築きます。その上で、高度な内科領域 subspecialty 専門医育成の橋渡しとなる subspecialty 専門コースと次代を担う医療開拓を行なうに必要な素養を身につける physician scientist コースを通じて、社会に貢献できる医療人を育成します。

**2. 内科専門研修はどのように行なわれるのか　【整備基準：13~16，30】**

1）研修段階の定義：内科専門医は 2 年間の初期臨床研修後に設けられた専門研修（専攻医研修）3 年間の研修を行ないます。日本専門医機構が定めた臨床研究医コースは、初期臨床研修後、大学院 4 年間の研究期間を含めた 5 年間の専門研修（専攻医研修）を行います。

2）専門研修の 3 年間は、初期研修中に経験・習得した内科領域の基本的診療能力・態度・資質をもとに、主担当者として診療を実践して日本内科学会が定める「内科専門研修カリキュラム」にもとづいて「内科専門医に求められる知識・技能の修得目標」の到達度を評価します。具体的な評価方法は後の項目で示します。

3）臨床現場での学習：日本内科学会では内科領域を 70 疾患群（経験すべき病

態等を含む）に分類して、代表的なものについては病歴要約や症例報告として記載することを定めています。専攻医登録評価システム（以下、J-OSLER）への登録と指導医の評価・承認によって目標達成までの段階を up to date に明示することとします。各年次の到達目標は以下の基準を目安とします。

4) 指導医は、皆さんの内科専門研修期間中、内科専門医としてのキャリアパス形成に責任を持って指導を行ないます。内科領域 subspecialty 専門医および physician scientist へのキャリアパス形成を自発的・意欲的に考えて、専攻する subspecialty 領域を決定して内科専門研修を開始する先生が当然いると想定しています。その場合、指導医が必ずしも専攻する subspecialty 領域の指導医ではないかもしれません。安心してください。指導医、ローテーション研修科、名大病院、および、名大内科関連病院では、本プログラムの理念と使命を十分に理解して、指導医を代表とする全員で皆さんの“メンター”として指導をしていきます。

〇専門研修 1 年

・症例：カリキュラムに定める 70 疾患群のうち、56 疾患群、160 症例以上を経験して、J-OSLER に登録することを目標とします。また、外来診療をローテーション研修の中で一部行ない、主に外来で診療を行なうことの多い症例を経験します。

・技能：疾患の診断と治療に必要な身体診察、検査所見解釈、および、治療方針決定を指導医とローテーションの上級医師の指導・承認のもと行なえるようにします。

・態度：専攻医自身の自己評価、指導医とメディカルスタッフによる 360 度評価を複数回行なって態度の評価を行ない担当指導医がフィードバックを行ないます。

・日本専門医機構が定めた臨床研究医コースでは、基幹施設 6 カ月、連携施設 6 カ月の臨床研修を行います。

〇専門研修 2 年

・疾患：主担当医として、カリキュラムに定める全 70 疾患群、計 200 症例の経験を目標とします。その中で外来診療を行ない主に外来で診療を行なうことの多い症例を経験して、J-OSLER に登録することも目標とします。

・技能：疾患の診断と治療に必要な身体診察、検査所見解釈、および治療方針決定を指導医の監督下で行なうことができるようにします。

・態度：専攻医自身の自己評価、指導医とメディカルスタッフによる 360 度評

価を複数回行なって態度の評価を行ないます。専門研修 1 年次に行なった評価についての省察と改善とが図られたか否かを指導医がフィードバックします。

・Physician scientist 養成コース選択者はこの時期に 12 ヶ月の異動を伴う必須研修を実施します。

・日本専門医機構が定めた臨床研究医コースでは、研修 2 年次に大学院へ入学し、研究と臨床研修を行います。臨床研修 1 年間と大学院 4 年間の計 5 年間で専門研修を終えます。臨床研修に加え、研修期間中に 2 本以上の論文発表が必要です。

○専門研修 3 年

・疾患：いずれのコース選択においても、内科領域全般の診療能力をより高める日々の努力が必要です。主担当医として臨床を研鑽できる環境を維持します。既に登録を終えた病歴要約は、日本内科学会病歴要約評価ボード（仮称）による査読を受けます。

・技能：内科領域全般について、診断と治療に必要な身体診察、検査所見解釈、および、治療方針決定を自立して行なうことができるようにします。

・態度：専攻医自身の自己評価、指導医とメディカルスタッフによる 360 度評価を複数回行なって態度の評価を行ないます。専門研修 2 年次に行なった評価についての省察と改善とが図られたか否かを指導医がフィードバックします。また、基本領域専門医としてふさわしい態度、プロフェッショナリズム、自己学習能力を修得しているか否かを指導医が専攻医と面談して、さらなる改善を図ります。

・subspecialty 専門医コースにおいては、この時期に 12 ヶ月の異動を伴う必須研修を実施します。

【専門研修 1-3 年を通じて行なう現場での経験】

a) 主担当医として入院から退院、外来通院、かかりつけ医への紹介まで可能な範囲で経時的に診断・治療の流れを経験します。

b) 初診を含む外来を通算で 6 カ月以上行ないます。

c) ローテーション診療科夜間当番・待機当番・救急当番をローテーション上級医の指導・承認のもと経験します。

d) 当直を経験します。

4）臨床現場を離れた学習

当院では、年間を通じて病院内の臨床部門・診療科がさまざまな内容でセ

ミナーを開催しています。これらの講義内容は、標準的かつ全人的な内科的医療の実践に必要な知識を系統だって整理できる内容であります。また、臨床治験や医師主導治験などの質の高い臨床研究を行なうための基礎的な知識を学ぶセミナーも開催されていて、いち早く臨床研究を行なうために必要な知識を習得する機会が有ります。内科系学術集会 (学会活動)、JMECC（内科救急講習会）等に参加・発表する機会を提供します。

5）自己学習

名大病院の総合医学教育センターには、”スキルス＆IT ラボラトリー”が開設されていて、臨床技能教育を効果的に行なうために、実際の医療現場を模した擬似が学生、初期研修医、各科専攻医、新技術を習得する目的の各科専門医に提供されて、技能面での自学自習に役立てられる環境があります。研修カリキュラムにある疾患について、内科系学会が行なっているセミナーの DVD やオンデマンドの配信を用いて自己学習します。個人の経験に応じて適宜 DVD の視聴ができるよう図書館または IT 教室に設備を準備されています。また、日本内科学会雑誌の MCQ やセルフトレーニング問題を解き、内科全領域の知識のアップデートの確認手段とします。週に 1 回、指導医との weekly summary discussion を行ない、その際、当該週の自己学習結果を指導医が評価して、研修手帳に記載します。

6）大学院進学

初期研修、内科専攻医研修の臨床経験から芽生えた臨床的課題を解決したいというマインドは、今後の臨床医としてのキャリアアップに極めて重要なものとなります。本プログラムは、研修 2 年目までに特定の分野に偏らない内科全分野において主担当者として 56 疾患群、160 症例以上を症例登録して、内科専門医ボードによる評価に合格できる 29 症例の病歴要約が作成できたと認められる内科専攻医に対して専攻医 3 年目に大学院進学ができる環境を整えています（physician scientist 養成コース）。臨床研究の期間も専攻医の研修期間として認められます（項目 8：Page 14~を参照）。自主性のある専攻医がカリキュラムに定める全 70 疾患群、計 200 症例を経験できるようにサポートをします。

日本専門医機構が定めた臨床研究医コースでは、研修 2 年目に大学院に入学し、他のコースよりも研究を早期に開始します。必要な症例登録数は他コースと同数です。大学院入学後も臨床研修を継続し、カリキュラムに定める全 70 疾患群、計 200 症例を経験できるようにサポートをします。

7）subspecialty 研修

本プログラムは、それぞれの領域の専門医像に応じた研修を準備しています (subspecialty 専門医コース)。研修開始から 12 (~18)カ月の期間でローテーション研修を行なうことによって特定の分野に偏らない内科全分野において主担当者として 56 疾患群、160 症例以上を症例登録して、内科専門医ボードによる評価に合格できる 29 症例の病歴要約が作成できたと認められる内科専攻医に対して、専門領域に対する subspecialty 研修を行なうものです。内科専門研修中に経験した症例の一部も subspecialty 経験症例として登録することが可能です。自主性のある専攻医に対して全 70 疾患群、計 200 症例を経験できる環境を整えます。

8) 初期研修期間における症例取り扱いについて

大学在学中から内科領域 subspecialty 専門医および physician scientist へのキャリアパス形成を自発的・意欲的に考えて、初期研修期間に日常診療を深く研鑽する姿勢で行なっている内科専攻医志望者は、将来の医療をけん引する貴重な人材と考えています。一方、患者に対する診療技能・態度・経験（知識）の習得途中であるために症例から得た経験を十分に咀嚼して自分のものにできていない場合もあり得ます。初期研修期間中に研修カリキュラムの中にある疾患群の症例を経験症例として登録する場合は、初期研修期間中に内科指導医による指導下において主たる担当医として専攻研修と同様な症例経験を行なったと判断できるものとします。該当症例について、担当指導医から報告を受けて研修プログラム管理委員会内で協議して最終判断を統括責任者が行ないます。その経験症例は 53 症例を上限とします。病歴要約への適応も 9 症例を上限とします。

**3. 専攻医の到達目標（修得すべき知識・技能・態度など）項目 2 を参照[整備基準：4、5、8～11]**

1）3 年間の専攻医研修期間で、以下に示す内科専門医受験資格を完了することとします。日本専門医機構が定めた臨床研究医コースでは 5 年間の専攻医研修期間となります。

a) 70 に分類された各カテゴリーのうち、最低 56 のカテゴリーから 1 例を経験すること。

b) 日本内科学会専攻医登録評価システムへ症例(定められた 200 例のうち、最低 160 例)を登録して、それを指導医が確認・評価すること。

c) 登録された症例のうち、29 症例を病歴要約として内科専門医制度委員会へ提出して、査読委員から合格の判定をもらうこと。

d) 技能・態度：初期研修期間中に経験・習得した内科領域全般について診断と治療に必要な身体診察、検査所見解釈、および、治療方針を決定する能力、基本領域専門医としてふさわしい態度、プロフェッショナリズム、自己学習能力を各症例で実践すること。

尚、習得すべき疾患、技能、態度については多岐にわたるため、研修手帳を参照してください。

2）専門知識について

内科研修カリキュラムは、総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病および類縁疾患、感染症、救急の 13 領域から構成されています。名大病院には 9 つの内科系診療科があり(呼吸器内科、循環器内科、消化器内科、神経内科、腎臓内科、糖尿病・内分泌内科、血液内科、老年科、総合診療科)、複数領域を担当しています。また、化学療法部、中央感染制御部の診療支援を受けて、救急疾患は各診療科や救急科によって管理されており、名大病院においては内科領域全般の疾患が網羅できる体制が敷かれています。これらの診療科での研修を通じて、専門知識の習得を行ないます。さらに名大内科関連施設を加えた専門研修施設群を構築することで、より総合的な研修や地域における医療体験が可能となります。患者背景の多様性に対応するため、東海 4 県での研修を通じて幅広い活動を推奨しています。

**4. 各種カンファレンスなどによる知識・技能の習得 [整備基準：13]**

1) 朝カンファレンス・チーム回診

朝、患者申し送りを行ない、チーム回診を行なって指導医からフィードバックを受け、指摘された課題について学習を進めます。

2) 総回診：受持患者について教授をはじめとした指導医陣に報告してフィードバックを受けます。受持以外の症例についても見識を深めます。

3) 症例検討会（毎週）：診断・治療困難例、臨床研究症例などについて、専攻医が報告して指導医からのフィードバック・質疑などを行ないます。

4) 診療手技セミナー（毎週）：
例：心臓エコーを用いて診療スキルの実践的なトレーニングを行ないます。

5) CPC：死亡・剖検例、難病･稀少症例についての病理診断を検討します。

6) 関連診療科との合同カンファレンス：関連診療科と合同で、患者の治療方針について検討して、内科専門医のプロフェッショナリズムについても学びます。

7）抄読会・研究報告会（毎週）：受持症例等に関する論文概要を口頭説明し、

意見交換を行ないます。研究報告会では各講座で行なわれている研究について討論を行ない、学識を深め、国際性や医師の社会的責任について学びます。

8）weekly summary discussion：週に 1 回指導医と行ない、その際、当該週の自己学習結果を指導医が評価し、研修手帳に記載します。

9）学生・初期研修医に対する指導：病棟や外来で医学生･初期研修医を指導します。後輩を指導することは、自分の知識を整理・確認することにつながることから、当プログラムでは、専攻医の重要な取組と位置づけています。

**5. 学問的姿勢[整備基準 [整備基準：6、30]**

患者から学ぶという姿勢を基本として、科学的な根拠に基づいた診断、治療を行ないます（evidence based medicine の精神）。最新の知識、技能を常にアップデートして、生涯を通して学び続ける習慣を作ります。また、日頃の診療で得た疑問や発想を科学的に追求するため、症例報告あるいは研究発表を奨励します。論文の作成は科学的思考や病態に対する深い洞察力を磨くために極めて重要なことであり、内外へ広く情報発信する姿勢も高く評価されます。

**6. 医師に必要な倫理性、社会性 [整備基準：7]**

医師の日々の活動や役割に関わってくる基本となる能力・資質・態度を患者への診療を通して医療現場から学びます。

内科専門医として高い倫理観と社会性を獲得します。

1) 患者とのコミュニケーション能力、
2) 患者中心の医療の実践、
3) 患者から学ぶ姿勢、
4) 自己省察の姿勢、
5) 医の倫理への配慮、
6) 医療安全への配慮、
7) 公益に資する医師としての責務に対する自律性（プロフェッショナリズム）、
8) 地域医療保健活動への参画、
9) 他職種を含めた医療関係者とのコミュニケーション能力、
10) 後輩医師への指導、

基幹施設・連携施設を問わず、患者への診療を通して、医療現場から学ぶ姿勢の重要性を知ることができます。インフォームド・コンセントを取得す

る際には上級医に同伴して、接遇態度、患者への説明、予備知識の重要性などについて学習します。医療チームの重要な一員としての責務（患者の診療、カルテ記載、病状説明など）を果たして、リーダーシップをとれる能力を獲得できるようにします。

医療安全と院内感染症対策を充分に理解するため、年に 2 回以上の医療安全講習会、感染対策講習会に出席します。出席回数は常時登録されて、年度末近くになると受講履歴が個人にフィードバックされて、受講を促されます。

**7. 研修施設群による研修プログラムおよび地域医療についての考え方 [整備基準 25、26、 28、 29]**

本プログラム研修において症例経験や技術習得に関して単独で履修可能であっても、習得した内科領域全般の診療能力を異なる環境で実際に実践することは内科研修の到達度を確認する上でも重要であると考えます。病病連携や病診連携を依頼・受ける立場を経験することにより、地域医療を実施します。その結果、皆さんの深みある内科専門医としてのキャリアパス形成にも役立つと考えます。この考えのもと、複数施設での研修を行なうことが望ましく、全てのコースにおいてその経験を積みます。研修開始から 12 (~18)カ月の期間で症例を経験することにより、連携施設において経験症例登録にとらわれない研修を選択することができるようになります。本プログラムは、さまざまな規模の病院への異動を伴う 12 カ月以上の必須研修を通じて身につける全人的な内科的医療の実践に必要な知識と技能を備えた内科領域全般の診療能力を深めることを期待したいと考えています。その間に、入院症例だけでなく外来での経験を積み、施設内で開催されるセミナーへ参加します。連携施設での研修期間は異なる環境での実践内容の習熟度を考慮して、1 施設につき 3 カ月の研修を最低タームとすることを想定しています。連携病院から内科研修を開始した場合でも、名大病院での 12 カ月以上の研修を行なうことによって、キャリアパス形成に生かせるように調整していきます。また、連携病院で研修を開始することによって本プログラムが求める症例数を研修期間内に経験できないことがあるかもしれません。その場合に、プログラム参加施設での異動を伴う必須研修によって不足症例の経験をスムーズに行なえるように調整を行ないます。異動期間内においても担当する指導医が地域における指導の質および評価の正確さを担保するため、常にメールなどを通じて研修センターと連絡ができる環境を整備して、月に 1 回、指定日に基幹病院を訪れて、指導医と面談して、プログラムの進捗状況を報告します。

日本専門医機構が定めた臨床研究医コースでは、1 年間の臨床研修と 4 年間の大学院を合わせて計 5 年間が専攻医研修期間となります。臨床研修期間中、6 カ月以上の連携施設での臨床研修を行います。

＊入局について

我々は、入局して内科専攻医の皆さんが得ることができる最大のメリットは、【医局は入局者のキャリアパス形成を保障する】という点にあると考えます。皆さんがどのような内科医師像を思い描いているかということが、内科医師のキャリアパス形成にとって極めて重要なことになります。医局は、国内外を問わずさまざまな分野の第一線で活躍する医師、開業医の OB、国内・海外の基礎研究者、行政、学会や研究会関係の人とのつながりを持っています。医局はそのつながりを最大限に生かすことで、皆さんが思い描く内科医師像のキャリアパスを加速度的に推進することを支援できます。一方、実際にどのようにキャリアパスを描けばよいのかを決めることは時に難しいものです。医局はキャリアパス形成を含めた相談に対する最大の支援者になり得ます。さらに、自分の思い描くキャリアパスがうまくいかないこともあると思います。医局は皆さんの思いを受け止め最適なキャリアパスへの修正を支援します。卒後のキャリアパスを「自己決定」で切り開く先生の存在は認識しています。我々は、皆さんが思い描くキャリアパス形成実現に向けて医局がもつポテンシャルを最大限に生かして、皆さんを支援できると考えています。さらに、我々はその先を見据えた内科領域 subspecialty 専門医あるいは physician scientist へのキャリアパス形成を円滑に、かつ、最大限に支援します。

我々の入局に対する考え方をお伝えした上で、本プログラムでの入局のタイミングと方法を下記に示します。

内科専門研修開始前に入局を行なうことは、キャリアパス形成における入局のメリットを最大限に生かせるタイミングと考えています。入局を早く行なうと、指導医やローテーション研修の時に十分な指導を受けられないのではないかと心配されるかもしれません。安心してください。指導医、ローテーション研修科、名大病院、および、名大内科関連病院では、本プログラムの理念と使命を十分に理解して、指導医を代表とする全員で皆さんの“メンター”として指導をしていきます。また、内科専門医プログラム内で期間の定められた(3 年間の研修期間の内、原則 12 カ月以上) 異動を伴う必須研修を行なうためには、基幹病院および連携病院間での異動の調整が必要になります。皆さんの異動を伴う必須研修を円滑に行なうために、入局を内科専攻研修 1 年目の 12 月までに行なうことを促します。これは、本プログラムの

特性 8)で示したように名大内科関連病院である 24 施設の基幹プログラムでも同様に入局を促すこととなっています。名大病院が各地域での基幹プログラムへ連携病院として参画することで、密接な連携を維持することにより東海医療圏の極端な医師不足を回避・調整するように配慮されて、東海医療圏の患者さんが安心して最善の医療を受けられるようにしています。本プログラムにおける異動を伴う必須研修後は、原則として、研修開始時の施設で研修を行なうことを想定しています。

**8. 年次毎の研修計画 [整備基準：16、25、 31]**

本プログラムでは内科領域 subspecialty 専門医コースと physician scientist 養成コース、日本専門医機構が定めた臨床研究医コースの 3 コースを準備しています。コース選択後も他のコースへの移行も認められます。

本プログラムでは、まず、標準的かつ全人的な内科的医療の実践に必要な知識と技能をできる限り深く修得できるように、豊富な臨床経験を持つ指導医の適切な指導の下で研修を行ないます。この期間は 3 コースに共通しています。研修開始から 12 カ月の期間で 2 カ月毎のローテーション研修を行ないます。各 2 カ月間の研修は、症例登録に必要な疾患群の中で関連する疾患群を日頃診療する可能性の高い診療科が共同指導体制を構築して、期間内により多くの症例を経験できるように配慮しています。このローテーション研修を行なうことによって特定の分野に偏らない内科全分野において主担当者として 56 疾患群、160 症例以上を症例登録して、内科専門医ボードによる評価に合格できる 29 症例の病歴要約が作成できるように指導していきます。研修手帳内の疾患群項目表に含まれる疾患群の中には、2 カ月毎のローテーション研修期間内においても経験しない症例も含まれているかもしれません。このような疾患症例については、J-OSLER などを活用して各内科専攻医の経験症例数の集積状況を把握しながら、2 カ月毎のローテーション研修以外に 3 年間の研修期間を通じて主担当医として症例経験できるような工夫を取りたいと考えています。研修 3 年目（physician scientist コースは原則 2 年目）はその経験症例数の集積状況を把握しながら、異動を伴う必須研修を行ないます。その時期と研修方法は、専攻医の希望と指導医からあがる報告をもとに専攻医研修 2 年目後半（physician scientist コースは 1 年目後半）に研修プログラム管理委員会が調整を図ります。異動を伴う必須研修の期間については、原則 12 カ月以上の期間となります。

## 基幹施設での研修を重点的に行う場合

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1年目 | groupA | | groupB | | groupC | | groupD | | groupE | | groupF | |
| 2年目 | 基幹病院での内科研修・<br>physician scientistコース選択者は連携病院での異動を伴う必須研修 | | | | | | | | プログラムに対する調整期間 | | | |
| 3年目 | 連携病院での異動を伴う必須研修・physician scientistとして大学院博士課程進学 | | | | | | | | | | | |

**groupA-F:**
**グループ化したローテーション**

**groupA(11):「消化器」9、Ⅲ（腫瘍）1、総合内科Ⅰ（一般）1、**
**groupB(14):「循環器」10、「救急」4、**
**groupC(14):「呼吸器」8、「アレルギー」2、「感染症」4、**
**groupD(10):「神経」9、Ⅱ（高齢者）1、**
**groupE(9):「腎臓」7、「膠原病および類縁疾患」2、**
**groupF(12):「内分泌」4、「代謝」5、「血液」3、**

- 各専攻医に対する指導医は、不足の疾患群の把握を行い、必要症例数を経験させる
- 連携病院での異動を伴う必須研修期間は12ヶ月
- 異動を伴う必須研修施設と研修時期は専攻医研修2年目の後半に調整を図る
- 選択カリキュラム数（1個・複数）およびその期間は自由度を持たせる
- 3年目にはsubspecialty研修やphysician scientistとしての大学院博士課程進学などの選択を行うとともに、内科症例の継続的な経験を行う。

## 連携施設での研修を重点的に行う場合

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1年目 | 連携施設での研修 | | | | | | | | | | | |
| 2年目 | 基幹病院での異動を伴う必須研修 | | | | | | | | プログラムに対する調整期間 | | | |
| 3年目 | 基幹病院での異動を伴う必須研修・physician scientistとして大学院博士課程進学 | | | | | | | | | | | |

- 連携施設から本プログラムへエントリーする場合には1年目には連携施設で研修を開始して必要症例を経験することを想定する。
- 基幹病院への異動を伴う必須研修の時期は、原則専攻医研修2年目の後半に調整を図る。
- 1年目での連携施設における研修で経験できなかった疾患群については、2年目以降での基幹病院での研修によって該当疾患群の症例を積極的に経験することとする
- 基幹病院での異動を伴う必須研修期間は12ヶ月以上を想定する
- 3年目にはsubspecialty研修やphysician scientistとしての大学院博士課程進学などの選択を行うとともに、内科症例の継続的な経験を行う。

週間スケジュール例：循環器、救急の週間スケジュール例

<table>
<tr><th></th><th>月</th><th>火</th><th>水</th><th>木</th><th>金</th><th>土・日</th></tr>
<tr><td rowspan="3">午前</td><td>集中治療室患者の<br>回診・症例検討</td><td>集中治療室患者の<br>回診・症例検討</td><td>集中治療室患者の<br>回診・症例検討</td><td>集中治療室患者の<br>回診・症例検討</td><td>集中治療室患者の<br>回診・症例検討</td><td rowspan="7">緊急カテーテル検査・治療<br>への参加</td></tr>
<tr><td>心エコー実習</td><td>心不全カテーテル検査</td><td>心筋シンチ　セミナー</td><td>心エコー実習</td><td>心エコー実習</td></tr>
<tr><td>専門外来</td><td rowspan="2">肺高血圧カテーテル<br>検査・治療</td><td>虚血性疾患カテーテル<br>検査・治療</td><td>不整脈疾患カテーテル<br>検査・治療</td><td>虚血性疾患カテーテル<br>検査・治療</td></tr>
<tr><td rowspan="4">午後</td><td>虚血性疾患カテーテル<br>検査・治療</td><td>総回診</td><td>虚血性疾患カテーテル<br>検査・治療</td><td rowspan="2">不整脈疾患カテーテル<br>検査・治療</td><td>不整脈疾患カテーテル<br>検査・治療</td></tr>
<tr><td rowspan="2">心臓外科とのカンファレンス<br>・<br>循環器症例検討会、抄読会<br>・<br>医局会</td><td>循環器病棟</td><td>不整脈疾患カテーテル<br>検査・治療</td><td>循環器病棟</td></tr>
<tr><td>集中治療室患者の<br>回診・症例検討</td><td>集中治療室患者の<br>回診・症例検討</td><td>集中治療室患者の<br>回診・症例検討</td><td>集中治療室患者の<br>回診・症例検討</td></tr>
<tr><td colspan="5">緊急カテーテル検査・治療への参加</td></tr>
</table>

・ローテーション診療科夜間当番・待機当番・救急当番をローテーション上級医の指導・承認のもと経験します。
・当直を経験します。
・主たる担当医となっている症例については、毎日診察を行ない、カルテ記載と必要な評価・指示をすることは当然の業務として含まれています。

1) 内科領域 subspecialty 専門医コース

希望する subspecialty 領域を重点的に研修するコースです。2-8)の項に示した【初期研修期間における内科症例の取り扱いについての考え方】と同様に、豊富な臨床経験を持つ subspecialty 領域の専門医による適切な指導の下で自発的に研修を行なうこととします。内科専攻研修期間に研修した subspecialty 領域の経験症例を subspecialty 研修の経験症例として登録できます。

2) physician scientist コース

先に記載したように(項目 2-6)参照)、本プログラムは、その研修期間中に特定の分野に偏らない内科全分野において主担当者として 56 疾患群、160 症例以上を症例登録して、内科専門医ボードによる評価に合格できる 29 症例の病歴要約が作成できたと認められる内科専攻医に対して専攻医 3 年目に大学院進学を認めるコースです。臨床研究の期間も専攻医の研修期間として認められます。自主性のある専攻医がカリキュラムに定める全 70 疾患群、計 200 症例の経験できる環境をサポートします。Physician scientist コースを希望の場合は原則異動研修を専攻医 2 年目までに 12 ヶ月行うこととなります。

**9. 専門医研修の評価[整備基準：17～22]**

1) 形成的評価（指導医の役割）

指導医およびローテーション先の上級医は専攻医の日々のカルテ記載と専攻医が J-OSLER に登録した当該科の症例登録を経時的に評価して、症例要約の作成についても指導します。また、技術・技能についての評価も行ないます。年に 1 回以上、目標の達成度や各指導医・メディカルスタッフの評価に基づき、研修責任者は専攻医の研修の進行状況の把握と評価を行ない、適切な助言を行ないます。

研修センターは指導医のサポートと評価プロセスの進捗状況についても追跡して、必要に応じて指導医へ連絡を取り、評価の遅延がないようにリマインドを適宜行ないます。

2) 総括的評価

専攻医研修 3 年目の 3 月に研修手帳を通して経験症例、技術・技能の目標達成度について最終的な評価を行ないます。29 例の病歴要約の合格、所定の講習受講や研究発表なども判定要因になります。

最終的には指導医による総合的評価に基づいてプログラム管理委員会によってプログラムの修了判定が行なわれます。

この修了後に実施される内科専門医試験（毎年夏～秋頃実施）に合格して、内科専門医の資格を取得します。

3) 研修態度の評価

指導医や上級医のみでなく、メディカルスタッフ（病棟看護師長、臨床検査・放射線技師・臨床工学技士など）を含めた複合的な研修態度の評価を行ないます。毎年 3 月に評価します。評価法については別途定めるものとします。

4) 専攻医による自己評価とプログラムの評価

日々の診療・教育的行事において指導医から受けたアドバイス・フィードバックに基づき、weekly summary discussion を行ない、研修上の問題点や悩み、研修の進め方、キャリア形成などについて考える機会を持ちます。

毎年 3 月に現行プログラムに関するアンケート調査を行ない、専攻医の満足度と改善点に関する意見を収集し、次期プログラムの改訂の参考とします。アンケート用紙は別途定めます。

## 10. 専門研修プログラム管理委員会[整備基準：35～39]

1）研修プログラム管理運営体制

本プログラムを履修する内科専攻医の研修について責任を持って管理するプログラム管理委員会を名大病院に設置して、その委員長と各内科から 1 名ずつ管理委員を選任します。また、連携施設の研修委員長を管理委員として選任します。

プログラム管理委員会の下部組織として、基幹病院および連携施設に専攻医の研修を管理する研修委員会を置き、委員長が統括します。

2）専攻医外来対策委員会

外来トレーニングとしてふさわしい症例（主に初診）を経験するために、連携病院とのスケジュール調整の上で、外来にて診療します。専攻医は外来担当医の指導の下、当該症例の外来主治医となり、一定期間外来診療を担当して、研修を進めます。

**11. 専攻医の就業環境（労務管理）　[整備基準：40]**

専攻医の勤務時間、休暇、当直、給与等の勤務条件に関しては、専攻医の就業環境を整えることを重視します。

労働基準法を順守して、名大病院の「※専攻医就業規則及び給与規則」に従います。専攻医の心身の健康維持の配慮については各施設の研修委員会と労働安全衛生委員会で管理します。特に精神衛生上の問題点が疑われる場合は臨床心理士によるカウンセリングを行ないます。専攻医は採用時に上記の労働環境、労働安全、勤務条件の説明を受けることとなります。プログラム管理委員会では各施設における労働環境、労働安全、勤務に関して報告されて、これらの事項について総括的に評価します。

※本プログラムでは基幹施設、連携施設の所属の如何に関わらず、内科専門研修を行なう施設における就業規則と給与規則に準じで就業環境を整えていますが、異動を伴う必須研修の場合には、病院間の調整で定めた就労規則と給与規則に従って内科専門研修を行ないます。

**12. 専門研修プログラムの改善方法　[整備基準：49～51]**

3 カ月毎に研修プログラム管理委員会を名大病院にて開催して、プログラムが遅滞なく遂行されているかを全ての専攻医について評価して、問題点を明らかにします。また、各指導医と専攻医の双方からの意見を聴取して適宜プログラムに反映させます。また、研修プロセスの進行具合や各方面からの意見を基に、プログラム管理委員会は毎年、次年度のプログラム全体を見直すこととします。

専門医機構によるサイトビジット（ピアレビュー）に対しては研修管理委員会が真摯に対応して、専門医の育成プロセスの制度設計と専門医の育成が保証されているかのチェックを受けて、プログラムの改善に繋げます。

**13.修了判定　[整備基準：21、53]**

日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）に以下のすべてが登録

されて、かつ担当指導医が承認していることをプログラム管理委員会が確認して修了判定会議を行ないます。

1）修了認定には、主担当医として通算で最低 56 疾患群以上の経験と計 160 症例以上の症例（外来症例は登録症例の 1 割まで含むことができる）を経験して、登録しなければなりません。
2）所定の受理された 29 編の病歴要約
3）所定の 2 編の学会発表または論文発表
4）JMECC 受講
5）プログラムで定める講習会受講
6）指導医とメディカルスタッフによる 360 度評価の結果に基づき、医師としての適性に疑問がないこと。

**14. 専攻医が専門研修プログラムの修了に向けて行なうべきこと[整備基準：21、22]**

専攻医は申請様式を専門医認定申請年の 1 月末までにプログラム管理委員会に送付してください。プログラム管理委員会は 3 月末までに修了判定を行ない、研修証明書を専攻医に送付します。その後、専攻医は日本専門医機構内科専門医委員会に専門医認定試験受験の申請を行なってください。

**15. 研修プログラムの施設群　[整備基準：23～27]**

名大病院が基幹施設となり、東海 4 県の 57 施設の名大内科関連病院が専門研修施設群を構築することで、より総合的な研修や地域における医療体験が可能となります。(参照; 別添資料: 基幹プログラムを有する名大内科関連病院 24 施設を含む連携施設情報)

**16. 専攻医の受け入れ数**

名大病院における専攻医の上限（学年分）は 10 名です。

1) 2018 年度にプログラムを開始した、プログラム採用人数は、2018 年 2 人、2019 年 4 人、2020 年度 1 人、2021 年度 1 人、2022 年度 2 人、2023 年度 3 人、2024 年度 3 人です。
2) 名大病院には各医局に割り当てられた雇用人員数に応じて、募集定員を一医局あたり数名の範囲で調整することは可能です。
3) 剖検体数は 2018 年度 11 体、2019 年度 12 体、2020 年度 13 体、2021 年度 12 体、2022 年度 3 体、2023 年度 9 体です。

4) 経験すべき症例数の充足について
入院患者について DPC 病名を基本とした各診療科における疾患群別の入院患者数と外来患者疾患を分析したところ、全 70 疾患群の充足は可能でした。
5) 異動を伴う必須研修を行なう連携施設・特別連携施設は、内科専攻医のさまざま希望・将来像に対応可能です。

**17. subspecialty 領域**

大学在学中から内科領域 subspecialty 専門医および physician scientist へのキャリアパス設計を自発的・意欲的に考えて、初期研修期間に臨床を深く研鑽する姿勢で研修を行なっている内科専攻医は、将来の医療をけん引する貴重な人材と考えています。内科専攻医になる時点で将来目指す subspecialty 領域が決定していれば、各科重点コースを選択することになります。physician scientist を途中で選択することも可能ですが、専攻医 2 年目までに必要な症例を経験していることが必要になります。

**18. 研修の休止・中断、プログラム移動、プログラム外研修の条件[整備基準：33]**

1) 出産、育児によって連続して研修を休止できる期間を 6 カ月として、研修期間内の調整で不足分を補うこととします。6 カ月以上の休止の場合は、未修了とみなして、不足分を予定修了日以降に補うこととします。また、疾病による場合も同じ扱いとします。
2) 研修中に居住地の移動、その他の事情により、研修開始施設での研修続行が困難になった場合は、移動先の基幹研修施設において研修を続行できます。その際、移動前と移動先の両プログラム管理委員会が協議して調整されたプログラムを摘要します。この一連の経緯は専門医機構の研修委員会の承認を受ける必要があります。

**19. 専門研修指導医[整備基準： 36]**

指導医は下記の基準を満たした内科専門医です。専攻医を指導して、評価を行ないます。

【必須要件】

1. 内科専門医を取得していること。
2. 専門医取得後に臨床研究論文（症例報告含む）を発表する（「first author」もしくは「corresponding author」であること）。もしくは、学位を有していること 。

3. 厚生労働省もしくは学会主催の指導医講習会を修了していること。
4. 内科医師として十分な診療経験を有すること。

【(選択とされる要件（下記の 1、2 いずれかを満たすこと】

1. CPC、CC、学術集会（医師会含む）などへ主導的立場として関与・参加すること。
2. 日本内科学会での教育活動（病歴要約の査読、JMECC のインストラクターなど)。

※但し、当初は指導医の数も多く見込めないことから、すでに「総合内科専門医」を取得している方々は、そもそも「内科専門医」より高度な資格を取得しているため、申請時に指導実績や診療実績が十分であれば、内科指導医と認めます。また、現行の日本内科学会の定める指導医については、内科系 subspecialty 専門医資格を 1 回以上の更新歴がある者は、これまでの指導実績から、移行期間（2025 年まで）においてのみ指導医と認めます。

**20. 専門研修実績記録システム、マニュアル等[整備基準： 41～48]**

専門研修は名大病院内科専門研修プログラム内科専攻医研修マニュアルにもとづいて行なわれます。専攻医は専攻医研修実績記録に研修実績を記載して、指導医より評価表による評価およびフィードバックを受けます。総括的評価は臨床検査専門医研修カリキュラムに則り、少なくとも年 1 回行ないます。

**21. 研修に対するサイトビジット（訪問調査）[整備基準：51]**

研修プログラムに対して日本専門医機構からのサイトビジットがあります。サイトビジットにおいては研修指導体制や研修内容について調査が行なわれます。その評価はプログラム管理委員会に伝えられて、必要な場合は研修プログラムの改良を行ないます。

**22. 専攻医の採用と修了[整備基準： 52、53]**

1) 採用方法

プログラムへの応募者は、研修プログラム責任者宛に所定の形式の『名大病院内科専門研修プログラム応募申請書』および履歴書を提出してください。申請書は (1) 電話で問い合わせ(052-744-1913)、もしくは、(2) e-mail で問い合わせ（intjimu@med.nagoya-u.ac.jp）により入手可能です。書類選考および面接を行ない、採否を決定して本人に文書で通知します。

2) 研修開始届け

研修を開始した専攻医は、専攻医氏名報告書を、名大病院内科専門研修プ

ログラム管理委員会(intjimu@med.nagoya-u.ac.jp)および、日本専門医機構内科領域研修委員会に提出します。

・専攻医の氏名と医籍登録番号、内科医学会会員番号、専攻医の卒業年度、専攻医の研修開始年度

・専攻医の履歴書)

・専攻医の初期研修修了証

3) 研修の修了

全研修プログラム終了後、プログラム統括責任者が召集するプログラム管理委員会にて審査して、研修修了の可否を判定します。

審査は書類の点検と面接試験からなります。

点検の対象となる書類は以下の通りです。

(1) 専門研修実績記録

(2)「経験目標」で定める項目についての記録

(3)「臨床現場を離れた学習」で定める講習会出席記録

(4) 指導医による「形成的評価表」

面接試験は書類点検で問題にあった事項について行なわれます。

以上の審査により、内科専門医として適格と判定された場合は、研修修了となり、修了証が発行されます。

# 名古屋大学医学部附属病院基幹プログラム管理委員会

## (令和 6 年 5 月現在)

名古屋大学医学部附属病院

| | |
|---|---|
| 川嶋啓揮 | 消化器内科学教授/専門研修プログラム統括責任者 |
| 清井仁 | 血液内科学教授 |
| 室原豊明 | 循環器内科学教授 |
| 有馬寛 | 糖尿病・内分泌内科学教授 |
| 丸山彰一 | 腎臓内科学教授 |
| 石井誠 | 呼吸器内科学教授 |
| 勝野雅央 | 脳神経内科学教授 |
| 梅垣宏行 | 老年内科学教授 |
| 佐藤寿一 | 総合診療科病院教授 |
| 安藤雄一 | 化学療法部教授 |
| 八木哲也 | 中央感染制御部教授 |
| 竹藤幹人 | 循環器内科学講師/研修プログラム委員長 |

連携施設研修委員長

| | |
|---|---|
| 愛知県がんセンター | 山本一仁 |
| 渥美病院 | 三谷幸生 |
| 安城更生病院 | 竹本憲二 |
| 一宮市立市民病院 | 新田華代 |
| 総合犬山中央病院 | 竹腰篤 |
| 稲沢市民病院 | 坂田豊博 |
| 大垣市民病院 | 傍島裕司 |
| 岡崎市民病院 | 田中寿和 |
| 海南病院 | 鈴木聡 |
| 春日井市民病院 | 坂洋祐 |
| 可児とうのう病院 | 伊藤貴彦 |
| 刈谷豊田総合病院 | 中江康之 |
| 岐阜県立多治見病院 | 日比野剛 |
| 協立総合病院 | 森英樹 |
| 久美愛厚生病院 | 横山敏之 |
| 江南厚生病院 | 髙田康信 |
| 公立陶生病院 | 黒岩正憲 |

| | |
|---|---|
| 小牧市民病院 | 川口克廣 |
| 静岡済生会総合病院 | 鈴木康弘 |
| 市立四日市病院 | 渡邊純二 |
| 聖霊病院 | 春田純一 |
| 総合上飯田第一病院 | 小栗彰彦 |
| 総合大雄会病院 | 寺沢彰浩 |
| 大同病院 | 志水英明 |
| 中京病院 | 加田賢治 |
| 中東遠総合医療センター | 赤堀利行 |
| 中部ろうさい病院 | 原田憲 |
| 国立長寿医療研究センター | 松浦俊博 |
| 津島市民病院 | 新美由紀 |
| 東海病院 | 西村英哉 |
| 東海中央病院 | 小島克之 |
| 東濃厚生病院 | 柴田尚宏 |
| 土岐市立総合病院 | 村山慎一郎 |
| 常滑市民病院 | 富田亮 |
| トヨタ記念病院 | 石木良治 |
| 豊田厚生病院 | 篠田政典 |
| 豊橋医療センター | 山下克也 |
| 豊橋市民病院 | 岩井克成 |
| 中津川市民病院 | 林和德 |
| 名古屋医療センター | 飯田浩充 |
| 名古屋掖済会病院 | 島浩一郎 |
| 名古屋記念病院 | 椎野憲二 |
| 名古屋共立病院 | 春日弘毅 |
| 名古屋セントラル病院 | 曽村富士 |
| 名古屋第一病院 | 鷲見肇 |
| 名古屋第二病院 | 東慶成 |
| 西尾市民病院 | 田中俊郎 |
| 西知多総合病院 | 牧野光恭 |
| 浜松医療センター | 小笠原隆 |
| 知多半島総合医療センター | 山本寿彦 |
| 東名古屋病院 | 中川拓 |
| 碧南市民病院 | 土井英樹 |
| 南生協病院 | 長田芳幸 |

| | |
|---|---|
| 名城病院 | 水谷太郎 |
| 名鉄病院 | 前田惠子 |
| 八千代病院 | 白井修 |
| 藤田医科大学 | 冨田章裕 |

新専門医制度　内科領域

# 名古屋大学医学部附属病院基幹プログラム

# 名古屋大学医学部附属病院内科専門研修プログラム

# 連携施設情報

## 施設名リスト (順不同); #基幹プログラムを有する名大内科関連病院

### 連携施設

1. 愛知県がんセンター・・・・ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・page 4
2. 渥美病院・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・page 6
3. 安城更生病院#・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・page 8
4. 一宮市立市民病院#・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・page 11
5. 総合犬山中央病院・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・page14
6. 稲沢市民病院・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・page 16
7. 大垣市民病院#・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ page 18
8. 岡崎市民病院#・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ page 21
9. 海南病院#・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・page 24
10. 春日井市民病院#・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・page 27
11. 可児とうのう病院・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・page 30
12. 刈谷豊田総合病院#・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・page 32
13. 岐阜県立多治見病院#・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・page35
14. 協立総合病院・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・page 37
15. 久美愛厚生病院・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・page 39
16. 江南厚生病院#・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・page 41
17. 公立陶生病院#・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・page 44
18. 小牧市民病院#・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・page 47
19. 静岡済生会総合病院・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・page 50
20. 市立四日市病院#・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・page 52
21. 聖霊病院・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・page 55
22. 総合上飯田第一病院・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・page 57
23. 大同病院・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・page 59
24. 総合大雄会病院・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・page 62
25. 中京病院#・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・page 64
26. 中東遠総合医療センター#・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・page 67
27. 中部ろうさい病院#・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・page 70
28. 津島市民病院・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・page 72
29. 東海病院・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ page74
30. 東海中央病院・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・page 75
31. 東濃厚生病院・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ page77
32. 土岐市立総合病院・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・page 79
33. 常滑市民病院・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・page 81

34. トヨタ記念病院#・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・page 82
35. 豊田厚生病院#・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・page 85
36. 豊橋医療センター・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・page 88
37. 豊橋市民病院#・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・page 90
38. 中津川市民病院・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・page 93
39. 名古屋医療センター#・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・page 95
40. 名古屋掖済会病院#・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・page 98
41. 名古屋記念病院・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・page101
42. 名古屋共立病院・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・page 103
43. 名古屋セントラル病院・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・page 105
44. 名古屋第一病院#・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・page107
45. 名古屋第二病院#・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・page 110
46. 西尾市民病院・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・page 112
47. 西知多総合病院・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・page 114
48. 浜松医療センター・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・page 116
49. 知多半田総合医療センター#・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ page 119
50. 東名古屋病院・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・page 121
51. 碧南市民病院・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・page 123
52. 南生協病院・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・page 125
53. 名城病院・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・page 127
54. 名鉄病院・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・page 129
55. 八千代病院・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・page 130
56. 国立長寿医療研究センター・・・・・・・・・・・・・・・・・・・page 132
57. 藤田医科大学病院・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・page 134
参考. 名古屋大学医学部附属病院・・・・・・・・・・・・・・・・・・page 137

**特別連携施設**

1. 済衆館病院
2. はるひ呼吸器病院
3. みよし市民病院
4. AOI 名古屋病院
5. 山下病院

## 1. 愛知県がんセンター

| | |
|---|---|
| 認定基準<br>【整備基準 24】<br>1) 専攻医の環境 | ・協力型臨床研修病院です。<br>・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。<br>・シニアレジデントもしくは医員として労務環境が保障されています。<br>・ハラスメント委員会が整備されています。<br>・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、シャワー室、仮眠室、当直室が整備されています。<br>・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。 |
| 認定基準<br>【整備基準 24】<br>2) 専門研修プログラムの環境 | ・指導医が 30 名在籍しています(下記)。<br>・医員・レジデント・臨床研修医等委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。<br>・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催(2022 年度実績 医療倫理 1 回、医療安全 2 回、感染対策 2 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。<br>・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。<br>・CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 |
| 認定基準<br>【整備基準 24】<br>3)診療経験の環境 | カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 |
| 認定基準<br>【整備基準 24】<br>4)学術活動の環境 | 日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表をしています。<br>各サブスペシャルティ分野で学会発表や論文発表を行っています。 |
| 指導責任者 | 山本一仁<br>【内科専攻医へのメッセージ】<br>がん専門病院で基礎的な面から臨床面まで学習することができます。全国から研修に来ており、名大のみならず他大学や国立がんセンター関連のつながりもあります。研究所も併設しており、基礎的な勉強もできる環境にあります。 |
| 指導医数<br>(常勤医) | 日本内科学会指導医 30 名、日本内科学会総合専門医 20 名、日本消化器病学会消化器専門医 26 名、日本肝臓学会肝臓専門医 2 名、日本循環器学会循環器専門医 1 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 7 名、日本血液学会血液専門医 5 名、消化器内視鏡専門医 10 名、日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医 21 名 |
| 外来・入院患者数 | 2023 年度:外来患者 11,901 名(1 ヵ月平均)　　入院患者 10,145 名(1 ヵ月平均) |

| | |
|---|---|
| 経験できる技術・技能 | 技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。 |
| 経験できる地域医療・診療連携 | 急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診、病病連携なども経験できます。 |
| 学会認定施設<br>(内科系) | 日本内科学会認定医制度における教育関連病院<br>日本消化器病学会認定施設<br>日本呼吸器学会認定施設<br>日本消化器内視鏡学会認定専門医制度指導施設<br>日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設<br>日本血液学会認定血液研修施設<br>日本大腸肛門病学会認定施設<br>日本呼吸器内視鏡学会専門医制度規制による認定施設<br>日本臨床腫瘍学会認定研修施設<br>日本胆道学会認定指導施設<br>日本消化管学会指導施設<br>など |
| | |

## 2. 渥美病院

| | |
|---|---|
| 認定基準<br>【整備基準 24】<br>1）専攻医の環境 | ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。<br>・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。<br>・シニアレジデントもしくは指導医診療医として労務環境が保障されます。<br>・メンタルヘルスに適切に対処する部署（健康管理室）があります。<br>・ハラスメント委員会が整備されています。<br>・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、シャワー室、仮眠室、当直室が整備されています。<br>・敷地内に院内保育所があり、病児保育、病後児保育を含め利用可能です。 |
| 認定基準<br>【整備基準 24】<br>2）専門研修プログラムの環境 | ・指導医が 4 名在籍しています（下記）。<br>・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。<br>・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。（2023 年度実績　医療倫理 0 回、医療安全 2 回、感染対策 2 回）<br>・研修施設群合同カンファレンス（2024 年度予定）を定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。<br>・CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。（2023 年度実績 1 回、剖検数 1 回）<br>・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 |
| 認定基準<br>【整備基準 24】<br>3)診療経験の環境 | カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科を除く、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病、感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 |
| 指導責任者 | 三谷幸生<br>【内科専攻医へのメッセージ】<br>　当院は東三河南部医療圏にあり、渥美半島唯一の総合病院として地域に密着して「医療・健診・介護」を幅広く事業展開しています。病棟機能としては急性期病棟、地域包括ケア病棟、療養病棟を有し、急性期から回復期、療養期・終末期までのシームレスな医療を提供しています。<br>　また、豊橋市の急性期病院との病病連携、併設の老健施設・地域の介護施設、地域開業医との連携も密に行っており、「地域包括ケアシステム」を学び実践する研修になると考えます。特に大病院では経験しづらい急性期以後の臨床を実践することは貴重な経験になると考えています。<br>　当院内科では消化器疾患・循環器疾患だけではなく、各医師が内科領域全般を総合的に診療しております。皆さんも内科全般を広く診療できるよう指導いたし |

| | |
|---|---|
| | ます。豊橋市民病院・刈谷豊田総合病院を基幹施設とする内科専門研修プログラムの連携施設として内科専門研修を行い、内科専門医の育成を行います。 |
| 指導医数<br>(常勤医) | ・日本内科学会指導医 4 名<br>・日本消化器病学会指導医 1 名<br>・日本循環器学会指導医 2 名 |
| 外来・入院患者数 | 外来患者 10,508 名(1 ヵ月平均)　入院患者 7,087 名(1 ヵ月平均延数)<br>うち、内科外来患者数 3,759 名　内科入院患者数 3,539 名 |
| 経験できる疾患群 | きわめて稀な症例を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができます。 |
| 経験できる技術・技能 | 技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。 |
| 経験できる地域医療・診療連携 | 急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診、病病連携なども経験できます。 |
| 学会認定施設<br>(内科系) | ◎日本内科学会認定制度教育関連病院(旧制度指定)<br>○日本消化器病学会専門医制度認定施設<br>○日本消化器内視鏡学会認定指導施設<br>○日本循環器学会認定循環器専門医研修施設<br>・日本脳卒中学会認定研修教育病院 |

3. 安城更生病院

| | |
|---|---|
| 認定基準<br>【整備基準 24】<br>1）専攻医の環境 | ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。<br>・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。<br>・安城更生病院常勤医師として労務環境が保障されています。<br>・メンタルストレスに適切に対処します。<br>・ハラスメントに適切に対処します。<br>・女性専攻医が安心して勤務できるように、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。<br>・敷地内に院内保育所があり、利用することが可能です。 |
| 認定基準<br>【整備基準 24】<br>2）専門研修プログラムの環境 | ・指導医が 36 名在籍しています。<br>・内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者、プログラム管理者、各診療部長）は、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。<br>・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門医研修委員会を設置します。<br>・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2022 年度実績 6 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。<br>・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。<br>・CPC を定期的に開催（2022 年度実績 12 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。<br>・地域参加型のカンファレンス（イブニングカンファレンス、DM カンファレンス、西三河神経内科カンファレンス、安城循環器疾患病診の会、TAK 循環器症例検討会、三河血液疾患診療ネットワーク、西三河心不全多職種連携セミナー、緩和医療センター地域医療交流会、病棟マネジメントセミナーin 西三河、西三河在宅医療連携 WEB セミナー、救急症例検討会、安城市医師会との講演会・症例検討会）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。<br>・JMECC 受講（2022 年度 1 回：受講者 11 名）を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。<br>・日本専門医機構による施設実地調査に教育研修・臨床研修センターが対応します。 |
| 認定基準<br>【整備基準 24】<br>3）診療経験の環境 | ・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。<br>・70 疾患群のうちほぼ全疾患群について研修できます。<br>・専門研修に必要な剖検（2022 年度実績 9 体）を行っています。 |
| 認定基準<br>【整備基準 24】<br>4）学術活動の環 | ・臨床研究に必要な図書室などを整備しています。<br>・倫理委員会を設置し、講演会も定期的に開催（2022 年度実績 1 回）しています。<br>・治験管理室を設置し、定期的に治験審査委員会を開催（2022 年度 9 回）しています。 |

| | |
|---|---|
| 境 | ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2022 年度実績 3 演題）をしています。 |
| 指導責任者 | 竹本憲二<br>【内科専門医へのメッセージ】<br>安城更生病院は、愛知県西三河南部西医療圏の中心的な急性期病院であるとともに、地域の病診連携・病病連携の中核です。内科入院患者数約 8,600 名/年間、新外来患者数約 16,100 名/年間、救急車来院患者数約 9,000 台/年間と、専攻医にとって多くの症例が経験できるのが魅力です。包括的で全人的な医療を実践できる人間性豊かな内科医を育成する場であるとともに、実践的な研修が行える病院です。指導医が充実しており、かつ教育体制も整っております。 |
| 指導医数<br>(常勤医) | 日本内科学会指導医 36 名、日本内科学会総合内科専門医 26 名、日本消化器病学会専門医 4 名、日本循環器学会専門医 8 名、日本内分泌学会専門医 3 名、日本糖尿病学会専門医 3 名、日本腎臓病学会専門医 3 名、日本呼吸器学会専門医 4 名、日本血液学会専門医 6 名、日本神経学会専門医 4 名、日本アレルギー学会専門医（内科）3 名、日本リウマチ学会専門医 2 名、日本肝臓学会専門医 1 名　ほか |
| 外来・入院患者数 | 外来患者 809.8 名（1 日平均）　　入院患者 308.7 名（1 日平均） |
| 経験できる疾患群 | きわめて稀な症例を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。 |
| 経験できる技術・技能 | 技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。 |
| 経験できる地域医療・診療連携 | 急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診、病病連携なども経験できます。 |
| 学会認定施設<br>(内科系) | 日本内科学会認定教育施設<br>日本血液学会認定血液研修施設<br>日本臨床細胞学会認定研修施設<br>日本糖尿病学会認定教育施設<br>日本甲状腺学会認定専門医施設<br>日本内分泌学会認定教育施設<br>日本アレルギー学会専門医制度認定教育施設<br>日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医認定施設<br>日本肝臓学会特別連携施設<br>日本消化器病学会認定施設<br>日本消化器内視鏡学会認定指導施設<br>日本胆道学会認定指導医制度指導施設 |

| | |
|---|---|
| | 日本神経学会認定教育施設<br>日本腎臓学会研修施設<br>日本透析医学会認定施設<br>日本心血管インターベンション治療学会研修施設<br>日本高血圧学会高血圧認定研修施設<br>日本循環器学会認定循環器専門医研修施設<br>日本緩和医療学会認定研修施設<br>日本がん治療医認定機構認定研修施設<br>日本リウマチ学会教育施設<br>日本脳卒中学会認定研修教育施設<br>日本てんかん学会てんかん専門医認定研修施設<br>日本認知症学会専門医認定研修施設<br>日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設<br>日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医認定施設　など |

## 4. 一宮市立市民病院

| | |
|---|---|
| 認定基準<br>【整備基準 24】<br>1）専攻医の環境 | ・初期臨床研修制度基幹型研修病院（NPO 法人卒後臨床研修評価機構認定）です。<br>・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。<br>・常勤医師として労務環境が保障されています。<br>・メンタルストレスに適切に対処する部署があります。<br>・ハラスメントに適切に対処する部署があります。<br>・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。<br>・院内保育所があり、利用可能です。 |
| 認定基準<br>【整備基準 24】<br>2）専門研修プログラムの環境 | ・内科常勤医師は 57 名で総合内科専門医は 28 名、内科指導医は 35 名在籍しています（2024 年 4 月現在）。<br>・内科専攻医研修プログラム管理委員会にて基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会と連携を図ります。<br>・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会があります。<br>・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。<br>・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。<br>・CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。<br>・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。<br>・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、年 1 回当院で講習会を行っています。<br>・日本専門医機構による施設実地調査に教育研修管理委員会が対応します。<br>・特別連携施設の専門研修では、一宮市立市民病院での面談・カンファレンスなどにより指導医がその施設での研修指導を行います。 |
| 認定基準<br>【整備基準 24】<br>3)診療経験の環境 | ・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。<br>・70 疾患群のうちほぼ全疾患群について研修できます。<br>・専門研修に必要な剖検を行っています。 |
| 認定基準<br>【整備基準 24】<br>4)学術活動の環境 | ・臨床研究に必要な図書室などを整備し、臨床研究審査小委員会を定期的（年 4 回）に開催しています。<br>・倫理委員会を設置し、定期的に開催しています。<br>・治験管理室を設置し、治験審査委員会を定期的（年 4 回）に開催しています。 |

| | |
|---|---|
| | ・日本内科学会講演会、同地方会、各内科系学会に多くの学会発表をしています。 |
| 指導責任者 | 伊藤宏樹<br>【内科専攻医へのメッセージ】<br>一宮市立市民病院は尾張西部医療圏の急性期医療を担う中核病院です。内科常勤医は 57 名で各科の指導スタッフも充実しており(内科学会指導医 35 名)、血液内科、脳神経内科、腎臓内科、内分泌内科も症例数が多く希少疾患も経験可能です。救急救命センターで 3 次救急に対応しており急性期重症患者搬送も多く高度な急性期医療が学べます。初期研修医を毎年 13-16 名迎えており若い先生にも活躍しています。 |
| 指導医数<br>(常勤医) | 日本内科学会指導医 35 名、日本内科学会総合内科専門医 28 名、日本消化器病学会専門医 7 名、日本循環器学会専門医 9 名、日本腎臓病学会専門医 1 名、日本呼吸器学会専門医 3 名、日本血液学会専門医 5 名、日本神経学会専門医 3 名、日本内分泌学会専門医 5 名、日本糖尿病学会専門医 5 名、 |
| 外来・入院患者数 | 外来患者延数 296185 名　　年間入院患者 165689 名　(2023 年度) |
| 経験できる疾患群 | きわめて稀な症例を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。 |
| 経験できる技術・技能 | 技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。 |
| 経験できる地域医療・診療連携 | 急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診、病病連携なども経験できます。 |
| 学会認定施設<br>(内科系) | 日本内科学会認定医制度教育病院<br>日本消化器病学会認定施設<br>日本循環器学会専門医研修施設<br>日本呼吸器学会関連施設<br>日本神経学会教育施設<br>日本腎臓病学会研修施設<br>日本糖尿病学会認定教育施設 I<br>日本内分泌学会認定教育施設<br>日本血液学会血液研修施設<br>日本消化器内視鏡学会指導施設<br>日本アレルギー学会認定教育施設<br>日本高血圧学会高血圧専門医認定施設<br>日本透析医学会専門医制度認定施設<br>日本脳卒中学会認定研修教育病院<br>日本臨床神経生理学会認定施設 |

| | |
|---|---|
| | 日本がん治療認定医機構認定研修施設<br>日本不整脈学会認定不整脈専門医研修施設<br>日本救急医学会救急科専門医指定施設<br>日本集中治療医学会集中治療専門医研修認定施設<br>など |

5. 総合犬山中央病院

| | |
|---|---|
| 認定基準<br>【整備基準 24】<br>1) 専攻医の環境 | ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。<br>・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。<br>・シニアレジデントもしくは指導医診療医として労務環境が保障されます。<br>・メンタルヘルスに適切に対処する部署（健康管理室）があります。<br>・ハラスメント委員会が整備されています。<br>・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、シャワー室、仮眠室、当直室が整備されています。 |
| 認定基準<br>【整備基準 24】<br>2) 専門研修プログラムの環境 | ・指導医が 1 名在籍しています（下記）。<br>・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。<br>・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。（2023 年度実績　医療倫理 1 回、医療安全 2 回、感染対策 2 回）<br>・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。<br>・CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。（2023 年度実績 2 回）<br>・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。（2023 年度実績 2 回） |
| 認定基準<br>【整備基準 24】<br>3)診療経験の環境 | カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 |
| 認定基準<br>【整備基準 24】<br>4)学術活動の環境 | 日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表をしています。（2015 年度実績 1 演題） |
| 指導責任者 | 竹腰篤<br>【内科専攻医へのメッセージ】<br>長年臨床教育現場での指導に当たって参りました当院では、受験申請に必要な症例数を満たすよう、副院長を専任の教育担当に据え、病院を挙げての万全の体制で研修をサポート致します。当院の研修は常に少数精鋭で行うことに重きを置いています。それは、研修される先生方に様々な手技や症例をご経験頂き、日々ご自身のスキルが上がっていくことを実感してもらう為です。いつでも指導医が隣におり、安心して診療に携わる環境をご準備しています。 |

| | |
|---|---|
| 指導医数<br>(常勤医) | 日本内科学会指導医 1 名、日本内科学会総合内科専門医 3 名、日本消化器病学会専門医 1 名、日本循環器学会専門医 3 名、日本呼吸器学会専門医 2 名、日本神経学会専門医 0 名、日本アレルギー学会専門医 1 名 |
| 外来・入院患者数 | 外来患者 9,633 名(1 ヵ月平均)　　入院患者 5,452 名(1 ヵ月平均延数) |
| 経験できる疾患群 | きわめて稀な症例を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができます。 |
| 経験できる技術・技能 | 技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。 |
| 経験できる地域医療・診療連携 | 急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診、病病連携なども経験できます。 |
| 学会認定施設<br>(内科系) | 日本内科学会認定医制度教育病院<br>日本消化器病学会認定施設<br>日本消化器内視鏡学会認定指導施設<br>日本脳卒中学会認定研修施設 |

## 6. 稲沢市民病院

| | |
|---|---|
| 認定基準<br>【整備基準 24】<br>1) 専攻医の環境 | ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。<br>・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。<br>・シニアレジデントもしくは指導医診療医として労務環境が保障されます。<br>・ハラスメント委員会が整備されています。<br>・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、シャワー室、仮眠室、当直室が整備されています。<br>・敷地内に院内保育所があり、病児保育、病後児保育を含め利用可能です。 |
| 認定基準<br>【整備基準 24】<br>2) 専門研修プログラムの環境 | ・指導医が 9 名在籍しています(下記)。<br>・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。<br>・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。(2021 年度実績　医療倫理 1 回、医療安全 2 回、感染対策 2 回)<br>・CPC(1 回)を開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。<br>・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。(2023 年度実績 2 回) |
| 認定基準<br>【整備基準 24】<br>3)診療経験の環境 | カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 |
| 認定基準<br>【整備基準 24】<br>4)学術活動の環境 | 日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表をしています。 |
| 指導責任者 | 坂田豊博<br>【内科専攻医へのメッセージ】<br>当院は内科医師の総数は 11 人と少ないですが、指導医が 9 名とその割合が高く、研修医の人数も少ないため、十分な指導を受けることができるのが特徴です。消化器内科は症例数に対する専門医の数が比較的少ないため、内視鏡手技や治療に接する機会が多く、多くの症例を経験することが可能です。 |
| 指導医数<br>(常勤医) | 日本内科学会指導医 9 名、日本内科学会総合専門医 8 名、日本消化器病学会専門医 3 名、日本循環器学会専門医 4 名、日本内分泌学会専門医 2 名、日本糖尿病学会専門医 2 名、日本老年医学会専門医 1 名 |
| 外来・入院患者数 | 外来患者 3703 名(1 ヵ月平均)　　入院患者 153 名(1 ヵ月平均延数) |

| | |
|---|---|
| 経験できる疾患群 | きわめて稀な症例を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができます。 |
| 経験できる技術・技能 | 技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。 |
| 経験できる地域医療・診療連携 | 急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診、病病連携なども経験できます。 |
| 学会認定施設<br>(内科系) | 日本内科学会認定医制度教育病院<br>日本消化器病学会認定施設<br>日本糖尿病学会認定教育施設<br>日本消化器内視鏡学会認定指導施設<br>日本循環器学会認定循環器専門医研修施設<br>日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設<br>日本内科学会認定専門医研修施設<br>日本がん治療認定医機構認定研修施設<br>など |

7. 大垣市民病院

| | |
|---|---|
| 認定基準<br>【整備基準 23】<br>1)専攻医の環境 | ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。<br>・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。<br>・大垣市民病院正規職員として労務環境が保障されています。<br>・メンタルストレスに適切に対処する部署（精神神経科医師）があります。<br>・ハラスメント委員会が整備されています。<br>・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。<br>・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。 |
| 認定基準<br>【整備基準 23】<br>2)専門研修プログ<br>ラムの環境 | ・指導医は 24 名在籍しています。<br>・内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者（副院長）、プログラム管理者（診療部長）（ともに日本内科学会指導医））にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。<br>・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修センターを設置します。<br>・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2023 年度実績医療倫理 1 回、医療安全 2 回、感染対策 2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。<br>・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催（2024 年度予定）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。<br>・CPC を定期的に開催（2023 年度実績 6 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。<br>・地域参加型のカンファレンス（病診連携カンファレンス 2023 年実績 4 回など）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。<br>・日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センターが対応します。 |
| 認定基準<br>【整備基準<br>23/31】<br>3)診療経験の環境 | ・カリキュラムに示す内科領域 13 分野の全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。<br>・70 疾患群の全疾患群について研修できます。<br>・専門研修に必要な剖検（2021 年度 6 体、2022 年度 9 体、2023 年度 4 体）を行っています。 |
| 認定基準<br>【整備基準 23】<br>4)学術活動の環境 | ・臨床研究に必要な図書室、写真室などを整備しています。<br>・臨床倫理委員会を設置し開催（2023 年度実績 8 回）しています。<br>・臨床研究審査委員会を設置し開催（2023 年度実績 11 回）しています。<br>・治験管理センターを設置し、定期的に治験審査委員会を開催（2023 年度実績 12 回）しています。 |

| | |
|---|---|
| | ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間 3 演題以上の学会発表を予定しています。 |
| 指導責任者 | 傍島裕司<br>【内科専攻医へのメッセージ】<br>大垣市民病院は岐阜県西濃地区（対象人口約 38 万人）の中核病院で、救急医療が盛んで一次から三次まで数多くの救急患者を扱っています。また、各疾患の症例数も東海地区では最も多く、内科の専門研修で症例の収集に困ることはありません。一方で、当院の特徴は市中病院でありながらリサーチマインドが盛んであることです。ホームページ（http://www.ogaki-mh.jp）を見ていただければわかりますが英語を含めた多くの論文および全国レベルでの発表をしています。各分野で多くの指導医、専門医もそろっており、内科専門医制度で資格を取得するには最適の病院と自負しています。 |
| 指導医数<br>（常勤医） | 日本内科学会指導医 24 名、日本内科学会総合内科専門医 22 名<br>日本肝臓学会専門医 3 名、日本消化器学会消化器専門医 10 名、日本循環器学会循環器専門医 8 名、日本糖尿病学会専門医 4 名、日本内分泌学会専門医 1 名、日本腎臓学会専門医 4 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 3 名、日本血液学会血液専門医 4 名、日本神経学会神経内科専門医 2 名、日本アレルギー学会専門医（内科）2 名、日本感染症学会専門医 1 名、日本臨床腫瘍学会 1 名 |
| 外来・入院<br>患者数 | 外来患者 15,418 名（1 ヶ月平均、延べ、時間外を含む）、入院患者 8,744 名（1 ヶ月平均　延べ）　内科分のみ |
| 経験できる疾患群 | 研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域 70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。 |
| 経験できる技術・技能 | 技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。 |
| 経験できる地域医<br>療・診療連携 | 急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病々連携なども経験できます。 |
| 学会認定施設<br>（内科系） | 日本内科学会認定制度教育病院<br>日本消化器病学会認定施設<br>日本呼吸器学会認定施設<br>日本糖尿病学会認定教育施設<br>日本内分泌学会認定教育施設<br>日本腎臓病学会研修施設<br>日本アレルギー学会認定教育施設<br>日本消化器内視鏡学会認定指導施設 |

| | |
|---|---|
| | 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設<br>日本老年医学会認定施設<br>日本肝臓学会認定施設<br>日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設<br>日本透析医学会認定医制度認定施設<br>日本血液学会認定研修施設<br>日本大腸肛門病学会専門医修練施設<br>日本内分泌甲状腺外科学会認定医専門医施設<br>日本神経学会専門医制度認定教育施設<br>日本脳卒中学会認定研修教育病院<br>日本呼吸器内視鏡学会認定施設<br>日本神経学会専門医研修施設<br>日本内科学会認定専門医研修施設<br>日本老年医学会教育研修施設<br>日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設<br>日本東洋医学会研修施設<br>ＩＣＤ/両室ペーシング植え込み認定施設<br>日本臨床腫瘍学会認定研修施設<br>日本肥満学会認定肥満症専門病院<br>日本感染症学会認定研修施設<br>日本がん治療認定医機構認定研修施設<br>日本高血圧学会高血圧専門医認定施設<br>ステントグラフト実施施設<br>日本緩和医療学会専門医認定制度認定研修施設<br>日本認知症学会教育施設<br>日本心血管インターベンション治療学会研修施設<br>など |

8. 岡崎市民病院

| | |
|---|---|
| 認定基準<br>【整備基準 24】<br>1）専攻医の環境 | ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。<br>・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。<br>・常勤医師もしくは医員として労務環境が保障されます。<br>・メンタルヘルスに適切に対処します。<br>・ハラスメント委員会が設置されています。<br>・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、シャワー室、仮眠室、当直室が整備されています。<br>・敷地内に院内保育所があり、病児保育、病後児保育を含め利用可能です。 |
| 認定基準<br>【整備基準 24】<br>2）専門研修プログラムの環境 | ・指導医が 29 名在籍しています（下記）。<br>・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。<br>・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。（2023 年度実績　医療倫理 1 回、医療安全 3 回、感染対策 2 回）<br>・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。<br>・JMECC 開催。（2023 年度実績 1 回、受講者 4 名）<br>・CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。（2023 年度実績 10 回）<br>・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。（2023 年度実績 7 回） |
| 認定基準<br>【整備基準 24】<br>3)診療経験の環境 | カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。<br>専門研修に必要な剖検（2022 年度 3 体、2023 年度 3 体）を行っています。 |
| 認定基準<br>【整備基準 24】<br>4)学術活動の環境 | 日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表をしています。（2023 年度実績 9 演題） |

| | |
|---|---|
| 指導責任者 | 田中寿和<br>【内科専攻医へのメッセージ】<br>岡崎市民病院は岡崎市，幸田町からなる圏域人口約 42 万人を有する愛知県西三河南部東 2 次医療圏の 3 次救急医療機関です．そのため様々な重症度の急性期疾患、common disease まで幅広い疾患群の診療を行っています.したがって当院での内科専門研修の大きな特徴は非常に多くのバラエティに富んだ症例を経験できることにあります.また、年間の救急搬送数は約 9000 台と救急疾患の症例数も多く、非常に実践的な診療技術を身に着けることができます。また，様々な合同カンファレンスが連日開催されており，診療科の垣根を超えた総合的な医療にも容易に接することができます．さらに各診療部門のメディカルスタッフの向上心も非常に高く，かつ協力的で，高難度医療に対するチーム医療のみならず、日ごろから高齢化社会のための並存疾患に対して院内全体で様々な高いレベルのチーム医療を実践しており，チームの一員としても活動でき、医師の働き方改革にもつながっております.このように実践的な診療技術のみならず，幅広い医療知識を身に着けることが可能であることが当院の内科専門研修の魅力であり、特色です．勤務環境としての魅力としては，正規雇用になるため公務員として安定した福利厚生や実労働時間の時間外手当支給，当直明けの半日休暇などが挙げられます．また、学術支援では取り寄せ文献複写の無料化や海外での発表を含む学会出張の十分な援助などがあります． |
| 指導医数<br>(常勤医) | 日本内科学会指導医 29 名、日本内科学会総内科合専門医 26 名、日本消化器病学会専門医 5 名、日本循環器学会専門医 7 名、日本内分泌学会専門医 4 名、日本糖尿病学会専門医 4 名、日本腎臓学会専門医 2 名、日本呼吸器学会専門医 2 名、日本血液学会専門医 5 名、日本神経学会専門医 5 名、日本消化器内視鏡学会専門医 3 名、日本アレルギー学会アレルギー専門医 1 名、日本糖尿病学会 4 名、日本肝臓学会専門医 1 名 |
| 外来・入院患者数 | 外来患者 24,748 名（1 ヵ月平均）　　入院患者 16,183 名（1 ヵ月平均） |
| 経験できる疾患群 | きわめて稀な症例を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。 |
| 経験できる技術・技能 | 技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。 |

| | |
|---|---|
| 経験できる地域医療・診療連携 | 急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診、病病連携なども経験できます。 |
| 学会認定施設（内科系） | 日本内科学会認定医教育病院<br>日本血液学会血液研修教育施設<br>日本消化器病学会専門医制度認定施設<br>日本消化器内視鏡学会専門医指導施設<br>日本循環器学会認定循環器専門医研修施設<br>日本心血管インターベンション治療学会認定研修施設（CVIT）<br>日本不整脈学会心電学会認定不整脈専門医研修施設<br>日本神経学会専門医制度教育施設<br>日本脳卒中学会認定研修教育病院<br>日本脳卒中学会一次脳卒中センター（PSC）認定施設<br>日本腎臓学会認定教育施設<br>日本透析医学会専門医制度認定施設<br>日本呼吸器学会認定施設<br>日本内分泌学会内分泌代謝科専門医認定教育施設<br>日本糖尿病学会認定教育施設Ⅰ<br>日本がん治療認定医機構認定研修施設<br>日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医認定施設　など |

9. 海南病院

| | |
|---|---|
| 認定基準<br>【整備基準 24】<br>1) 専攻医の環境 | ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。<br>・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。<br>・シニアレジデントもしくは指導診療医として労務環境が保障されています。<br>・メンタルストレスに適切に対処する部署（健康管理室）があります。<br>・ハラスメント委員会が整備されています。<br>・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、シャワー室、仮眠室、当直室が整備されています。<br>・敷地内に院内保育所があり、病児保育を含め利用可能です。 |
| 認定基準<br>【整備基準 24】<br>2) 専門研修プログラムの環境 | ・指導医が 33 名在籍しています（下記）。<br>・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。<br>・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。（2023 年度実績　医療安全 2 回、感染対策 2 回）<br>・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。<br>・CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。（2022 年度実績 8 回）<br>・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。（2023 年度実績 12 回） |
| 認定基準<br>【整備基準 24】<br>3)診療経験の環境 | カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科を除く、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病、感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 |
| 認定基準<br>【整備基準 24】<br>4)学術活動の環境 | 日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表をしています。（2022 年度実績 6 演題） |
| 指導責任者 | 鈴木聡<br>【内科専攻医へのメッセージ】<br>海南病院は、愛知県西部に位置し、木曽川を挟んだ三重県や岐阜県境も医療圏とした地域完結型の基幹病院です。救命救急センター、ドクターカー、ヘリポート、ICU、CCU を備え、320 列マルチスライス CT、3.0 テスラ MRI、手術支援ロボット「da Vinci」等も有する高度急性期病院でありながら、がん拠点病院として緩和ケア病棟も有し、老年内科を中心に在宅医療を早くから展開し、訪問看護ステーションも併設しており、地域に根差した |

| | |
|---|---|
| | 幅広い研修が可能です。内科各診療科の指導体制も整っており、Common disease から専門性の高い稀少疾患まで経験することができ、全般的な内科研修から将来的な各内科 Subspeciality の修得が可能です。職員は「和を大切に心ある医療を」の海南精神のもと、たいへん協調的で働きやすい環境となっています。 |
| 指導医数<br>(常勤医) | 日本内科学会指導医 33 名、日本内科学会総合専門医 30 名、日本消化器病学会専門医 9 名、日本循環器学会専門医 8 名、日本内分泌学会専門医 2 名、日本糖尿病学会専門医 2 名、日本腎臓病学会専門医 3 名、日本呼吸器学会専門医 4 名、日本血液学会専門医 2 名、日本神経学会専門医 4 名、日本リウマチ学会専門医 3 名、日本救急医学会専門医 5 名 |
| 外来・入院患者数 | 外来患者 1,201 名(1 日平均)　　入院患者 489 名(1 日平均) |
| 経験できる疾患群 | きわめて稀な症例を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができます。 |
| 経験できる技術・技能 | 技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。 |
| 経験できる地域医療・診療連携 | 急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診、病病連携なども経験できます。 |
| 学会認定施設<br>(内科系) | 日本内科学会認定制度教育病院<br>日本消化器病学会認定施設<br>日本呼吸器学会認定施設<br>日本糖尿病学会認定教育施設<br>日本腎臓病学会研修施設<br>日本消化器内視鏡学会認定指導施設<br>日本循環器学会認定循環器専門医研修施設<br>日本老年医学会認定施設<br>日本肝臓学会認定施設<br>日本血液学会認定研修施設<br>日本神経学会専門医制度認定研修教育施設<br>日本脳卒中学会認定研修教育病院<br>日本呼吸器内視鏡学会認定施設<br>日本神経学会専門医研修施設<br>日本内科学会認定専門医研修施設<br>日本老年医学会教育研修施設<br>日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設<br>IDC/両室ペーシング植え込み認定施設 |

| | |
|---|---|
| | 日本臨床腫瘍学会認定研修施設<br>日本がん治療認定医機構認定研修施設<br>日本高血圧学会高血圧専門医認定施設<br>ステントグラフト実施施設<br>日本緩和医療学会専門医認定制度認定研修施設<br>日本認知症学会教育施設<br>日本心血管インターベンション治療学会研修施設<br>など |

## 10. 春日井市民病院

| | |
|---|---|
| 認定基準<br>1）専攻医の環境 | ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。<br>・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。<br>・春日井市常勤医師として労務環境が保障されています。<br>・メンタルヘルスに適切に対処する部署（春日井市人事課）があります。<br>・ハラスメント委員会が春日井市人事課に整備されています。<br>・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。<br>・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。 |
| 認定基準<br>2）専門研修プログラムの環境 | ・指導医が 19 名在籍しています（下記）。<br>・内科専門研修プログラム管理委員会にて、基幹施設、連携施設に設置されている内科専門研修委員会との連携を図ります。事務局を春日井市民病院研修管理室に置きます。<br>・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会を設置します。<br>・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2023 年度実績 6 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。<br>・研修施設群合同カンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。<br>・CPC を定期的に開催（2023 年度実績 5 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。<br>・地域参加型のカンファレンス（春日井医師会学術講演会、糖尿病研究会、消化器病研究会、春日井循環器研究会、春日井 CKD 連携セミナー）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。<br>・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講（2023 年度開催 1 回：受講者 12 名）を義務付け、そのたの時間的余裕を与えます。<br>・日本専門医機構による施設実地調査は、研修管理室が対応します。 |
| 認定基準<br>3）診療経験の環境 | ・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくても 7 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。（上記）<br>・70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくても 35 以上の疾患群）について研修できます。（上記）<br>・専門研修に必要な剖検（2022 年度 14 体、2023 年度 12 体）を行っています。 |
| 認定基準<br>4)学術活動の環境 | ・臨床研修に必要な図書室などを整備しています。<br>・倫理委員会を設置し、定期的に開催（2023 年度実績 3 回）しています。<br>・治験審査委員会を設置し、定期的に開催（2023 年度実績 6 回）しています。<br>・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表 |

| | |
|---|---|
| | (2023 年度実績 8 演題)をしています。 |
| 指導責任者 | 坂　洋祐<br>【内科専攻医へのメッセージ】<br>春日井市民病院は尾張北部医療圏の中心的な急性期病院であり、地域の病診、病病連携の中核として地域の第一線で急性期医療を展開しています。当院では臓器別専門性を発揮しつつかつ社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践しています。内科の幅広い診療能力を身につけると共に医療人としてのプロフェッショナリズムを磨き、3 年目には志望する subspecialty 研修に進こともできるプログラムです。また、症例報告や臨床研究などリサーチマインドを養うことをサポートします。将来どの分野に進んでも通用する幅広い知識・技能を身につけた内科専門医の育成を目指しています。 |
| 指導医数<br>(常勤医) | 日本内科学会指導医 19 名、日本内科学会総合内科専門医 17 名、<br>日本消化器病学会消化器病専門医 7 名、日本循環器学会循環器専門医 3 名、<br>日本糖尿病学会専門医 4 名、日本腎臓病学会腎臓専門医 4 名、<br>日本呼吸器学会呼吸器専門医 4 名、日本神経学会神経内科専門医 4 名、<br>日本アレルギー学会アレルギー専門医(内科)2 名ほか |
| 外来・入院患者数 | 外来患者 28,920 名(1 ヵ月平均)　　入院患者 13,051 名(1 ヵ月平均延数) |
| 経験できる疾患群 | きわめて稀な症例を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができます。 |
| 経験できる技術・技能 | 技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。 |
| 経験できる地域医療・診療連携 | 急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診、病病連携なども経験できます。 |
| 学会認定施設<br>(内科系) | 日本内科学会認定医制度教育病院<br>日本透析医学会専門医制度認定施設<br>日本神経学会専門医制度教育施設<br>日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医制度認定施設<br>日本消化器病学会専門医制度認定施設<br>日本消化器内視鏡学会認定指導施設<br>日本腎臓学会認定教育施設<br>日本肝臓学会認定施設<br>日本循環器学会認定循環器専門医研修施設<br>日本呼吸器学会認定施設<br>日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設<br>日本糖尿病学会認定教育施設 I<br>日本がん治療認定医機構認定研修施設 |

| | |
|---|---|
| | 日本臨床腫瘍学会認定研修施設（特別連携施設）<br>日本内分泌学会認定教育施設<br>日本胆道学会認定指導医制度指導施設<br>日本消化管学会胃腸科指導施設<br>日本アレルギー学会アレルギー専門医教育研修施設（呼吸器科）<br>日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設<br>浅大腿動脈ステントグラフト実施施設<br>日本膵臓学会認定指導施設 |

## 11. 可児とうのう病院

| | |
|---|---|
| 認定基準<br>【整備基準 24】<br>1）専攻医の環境 | ・初期臨床研修制度協力型研修指定施設です。<br>・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。<br>・シニアレジデントもしくは指導診療医として労務環境が保障されています。<br>・メンタルストレスに適切に対処する部署（健康管理室）があります。<br>・ハラスメント委員会が整備されています。<br>・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。<br>・敷地内に院内保育所があり、病児保育、病後児保育を含め利用可能です。 |
| 認定基準<br>【整備基準 24】<br>2）専門研修プログラムの環境 | ・指導医が 5 名在籍しています。<br>・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。<br>・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2023 年度実績　医療倫理 1 回、医療安全 3 回、感染対策 2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。<br>・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専門医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。<br>・機会があれば CPC を開催（2023 年度実績 0 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。<br>・カリキュラムに示す内科領域 13 分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。幅広くプライマリケアを研修することが可能です。 |
| 認定基準<br>【整備基準 24】<br>4)学術活動の環境 | 日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2023 年度実績 0 演題）をしています。 |
| 指導責任者 | 伊藤貴彦<br>【内科専攻医へのメッセージ】<br>公的病院でありながら健診、医療（訪問診療を含む）、介護、ターミナルケアまでをシームレスに行う、地域の基幹病院です。プライマリケア、二次救急を主体とし、コモンな疾患から感染症、膠原病を含む稀な疾患まで経験ができます。循環器、消化器、血液内科では専門研修も可能です。常勤医（任期付）の処遇で宿舎も用意できます。 |
| 指導医数<br>(常勤医) | 日本内科学会指導医 5 名、日本内科学会総合内科専門医 2 名、日本消化器病学会消化器専門医 1 名、日本循環器学会循環器専門医 3 名、日本肝臓学会認定肝臓専門医 1 名、日本血液学会血液専門医 1 名、日本救急医学会救急科専門医 1 名 |
| 外来・入院患者数 | 外来患者　1 日平均 98.8 名　　入院患者　1 日平均 303.3 名 |

| | |
|---|---|
| 学会認定施設<br>(内科系) | 日本内科学会認定医制度教育病院<br>日本消化器病学会認定施設<br>日本消化器内視鏡学会認定指導施設<br>日本循環器学会認定循環器専門医研修施設<br>日本血液学会認定研修施設 |

## 12. 刈谷豊田総合病院

| | |
|---|---|
| 認定基準<br>【整備基準 23】<br>1)専攻医の環境 | ･初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です.<br>･多彩な文献（雑誌文献，オンラインジャーナル，大学図書館等とのネットワーク）入手が可能な図書室があります．インターネット環境が整備され，図書室，医局にそれぞれ共用パソコンが設置されています.<br>･常勤医師として労務環境が保障されています.<br>･メンタルストレスに適切に対処する部署（人事グループ）があります.<br>･ハラスメント委員会があります.<br>･女性医師専用の休憩室，更衣室（シャワー室含む），仮眠室，当直室が整備されています.<br>･敷地内にある院内保育所（病児保育、病後時保育を含む．3 才まで）を利用できます. |
| 認定基準<br>【整備基準 23】<br>2)専門研修プログラムの環境 | ･指導医は 20 名在籍しています（うち総合内科専門医は 16 名）.<br>･内科専門研修プログラム管理委員会は，下部組織である研修委員会および連携施設の研修委員会と連携し，専攻医の研修を管理し，その最終責任を負います.<br>･医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2023 年度実績：医療倫理 0 回、医療安全各 3 回，感染対策各 3 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます.<br>･CPC を定期的に開催（2022 年度実績 6 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます.<br>･地域参加型のカンファレンス（2022 年度実績合計 2 回（消化器 1 回、呼吸器 1 回）、2023 年度実績 消化器 5 回、呼吸器+循環器 4 回、腎臓+内分泌 1 回）.<br>･プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. |
| 認定基準<br>【整備基準 23/31】<br>3)診療経験の環境 | ・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち，全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています.<br>･70 疾患群のうち，ほぼ全疾患群について研修できます.<br>･専門研修に必要な剖検（2022 年度 11 体，2023 年度 6 体）を行っています. |
| 認定基準<br>【整備基準 23】<br>4)学術活動の環境 | ･倫理委員会を設置し，定期的に開催（2022 年度実績 5 回、2023 年度実績 4 回）しています.<br>･日本内科学会講演会あるいは同地方会に、年間で計 3 演題以上の学会発表（2021 年度 7 演題，2022 年度 11 演題、2023 年度 6 演題）をしています. |
| 指導責任者 | 中江康之<br>【内科専攻医へのメッセージ】<br>当院は西三河南部西医療圏の DPC 特定病院であり，総床 704 床，救命救急センターや愛知県がん診療拠点病院に認定，地域医療支援病院として認可されて |

| | |
|---|---|
| | います．内科は 330 床を受け持っており，消化器内科，呼吸器内科，循環器内科，脳神経内科，腎臓内科，糖尿病・内分泌内科で構成されています．診療圏が広く救急車も年間 9800 台近く受け入れており，主要臓器疾患については症例数が豊富で，日常診療から救急まで十分な経験が可能と考えます．また専門臓器に分類できない症例を受け持って頂くことで，感染症や総合内科に該当する疾患も経験できます．常勤医のいない血液内科については名古屋大学から週２回の外来（診療支援）、常勤医のいない膠原病内科については大同病院（名古屋）から週 1 回の外来（診療支援）をして頂いています．どの診療科をローテートしていただいても上級医と気軽に相談していただける体制を整えておりますので，安心して研修して下さい．院内で講演会，緩和ケアや JMECC などの研修会，CPC が年数回ずつ行われており専門医，診療技術以外の知識も身につけて頂けると思います．内科専攻医は常勤医員の身分で，総合内科に所属します．医局には，仮眠室やシャワー室，女性専用スペースが確保されています． |
| 指導医数<br>（常勤医） | 日本内科学会指導医 20 名，日本内科学会総合内科専門医 16 名<br>日本消化器病学会消化器専門医 7 名，日本肝臓学会専門医 2 名、日本循環器学会循環器専門医 8 名，日本内分泌学会専門医 1 名，日本糖尿病学会専門医 1 名、日本腎臓病学会専門医 3 名，日本呼吸器学会呼吸器専門医 3 名，日本神経学会神経内科専門医 2 名，日本アレルギー学会専門医 2 名，日本救急医学会救急科専門医（内科以外）2 名 |
| 外来・入院患者数 | 外来患者 33,770 名（1 ヶ月平均）　入院患者 17,615 名（1 ヶ月平均）＜病院全体＞ |
| 経験できる疾患群 | きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を幅広く経験することができます． |
| 経験できる技術・技能 | 技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます． |
| 経験できる地域医療・診療連携 | 急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます． |
| 学会認定施設<br>（内科系） | 日本内科学会認定医制度教育病院<br>日本消化器病学会専門医制度認定施設<br>日本呼吸器学会認定施設<br>日本糖尿病学会認定教育施設<br>日本腎臓学会研修施設<br>日本アレルギー学会アレルギー専門医教育研修施設<br>日本消化器内視鏡学会指導施設<br>日本循環器学会認定循環器専門医研修施設<br>日本肝臓学会認定施設 |

| | |
|---|---|
| | 日本透析医学会認定施設<br>日本神経学会専門医制度准教育施設<br>日本脳卒中学会研修教育施設<br>日本呼吸器内視鏡学会専門医制度認定施設<br>日本内分泌学会内分泌代謝科専門医制度における認定教育施設<br>日本東洋医学会指定研修施設<br>日本がん治療認定医機構認定研修施設<br>腹部ステントグラフト実施施設<br>日本心血管インターベンション治療学会研修施設<br>日本栄養療法推進協議会・NST 稼働施設<br>日本高血圧学会認定施設<br>日本不整脈学会心電学会不整脈専門医研修施設<br>日本緩和医療学会認定研修施設 |

## 13. 岐阜県立多治見病院

| | |
|---|---|
| 1)　専攻医の環境 | ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。<br>・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。<br>・岐阜県立多治見病院常勤医師として労務環境が保障されています。<br>・メンタルストレスに適切に対処する部署（精神科部長が担当）があります。<br>・ハラスメント委員会は、要請に応じて幹部会が開催します。また、暴言、暴力などに対しては、医事課、警備部門が対処します。<br>・女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています。<br>・敷地内に院内保育所があり，利用可能です。（条件あり） |
| 2)　専門研修プログラムの環境 | ・指導医は 13 名在籍しています。<br>・内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者（副院長）、プログラム管理者（内科部長）（ともに総合内科専門医かつ指導医）にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。<br>・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修センターを設置しています。<br>・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2023 年度実績４回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。<br>・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催（2023 年度実績 2 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。<br>・CPC を定期的に開催（2023 年度実績 5 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。<br>・地域参加型のカンファレンス（基幹施設：尾張北部医療圏緩和ケア病棟連絡会議，東濃循環器研究会（オリベの会）、東濃地域連携パス合同委員会、多治見市糖尿病病診連携の会、東濃地区 ICT 活動研究会、東濃医学会学術集会）<br>・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講（2023 年度開催実績 1 回：受講者 6 名）を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。<br>・日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センターが対応します。 |
| 3)　診療経験の環境 | ・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくとも 7 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。<br>・70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくとも 35 以上の疾患群）について研修できます。<br>・専門研修に必要な剖検（2023 年度 9 体）を行っています。 |
| 4)　学術活動の環境 | ・臨床研究に必要な図書室などを整備しています.<br>・倫理委員会を設置し、定期的に開催（2023 年度実績 9 回）しています。また、臨床研究に関しては 25 件を審議し承認しています。<br>・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表をしています。 |

| | |
|---|---|
| 指導責任者 | 日比野剛<br>【内科専攻医へのメッセージ】<br>岐阜県立多治見病院は，岐阜県東濃医療圏の中心的な急性期病院であり，東農医療圏・近隣医療圏にある連携施設・特別連携施設とで内科専門研修を行い、必要に応じた可塑性のある，地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。主担当医として，入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで経時的に，診断・治療の流れを通じて，社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります。 |
| 指導医数<br>（常勤医） | 日本内科学会指導医 13 名，日本内科学会総合内科専門医 24 名、日本消化器病学会消化器病専門医 7 名，日本循環器学会循環器専門医 6 名，日本腎臓学会専門医 2 名，日本呼吸器学会呼吸器専門医 6 名，日本神経学会神経内科専門医 2 名、日本血液学会血液専門医 5 名，日本アレルギー学会アレルギー専門医（内科）3 名，日本救急医学会救急科専門医 2 名 ほか |
| 外来・入院患者数 | 外来患者 21,411 名(1 ヵ月平均)　　入院患者 11,585 名（1 ヵ月平均） |
| 経験できる疾患群 | きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。 |
| 経験できる技術・技能 | 技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。 |
| 経験できる地域医療・診療連携 | 急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます。 |
| 学会認定施設<br>（内科系） | 日本内科学会新専門医制度基幹施設<br>日本消化器病学会専門医制度認定施設<br>日本循環器学会認定循環器専門医研修施設<br>日本腎臓学会認定教育施設<br>日本呼吸器学会認定施設<br>日本神経学会専門医制度認定教育施設<br>日本血液学会認定研修施設<br>日本感染症学会連携研修施設<br>日本不整脈学会心電学会認定不整脈専門医研修施設<br>日本膵臓学会認定指導施設<br>日本心血管インターベンション治療学会研修施設<br>日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設<br>日本呼吸器内視鏡学会認定施設<br>日本がん治療認定医機構認定研修施設<br>日本救急医学会救急科専門医指定施設　ほか |

## 14. 協立総合病院

| | |
|---|---|
| 認定基準<br>【整備基準 24】<br>1）専攻医の環境 | ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。<br>・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。<br>・シニアレジデントもしくは指導医診療医として労務環境が保障されます。<br>・メンタルヘルスに適切に対処する部署（健康管理室）があります。<br>・ハラスメント委員会が整備されています。<br>・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、シャワー室、仮眠室、当直室が整備されています。<br>・提携保育所があり、利用可能です。 |
| 認定基準<br>【整備基準 24】<br>2）専門研修プログラムの環境 | ・指導医が 11 名在籍しています（下記）。<br>・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。<br>・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。（2022 年度実績　医療倫理 1 回、医療安全 2 回、感染対策 2 回）<br>・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。<br>・CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。<br>・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 |
| 認定基準<br>【整備基準 24】<br>3)診療経験の環境 | カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 |
| 認定基準<br>【整備基準 24】<br>4)学術活動の環境 | 日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表をしています。 |
| 指導責任者 | 森　英樹<br>【内科専攻医へのメッセージ】<br>協立総合病院は、名古屋市熱田区にあり、積極的に救急医療を行う急性期病院でありながら、6つの診療所、老人保健施設、訪問看護ステーションなどを有し、都市型の地域医療を積極的に展開しています。内科頻発疾患から重症疾患、希少疾患まで多彩な症例を幅広く経験することができ、総合的なマネジメント力を身に着けた内科専門医になることができます。消化器、循環器などは特に専門性の高い診療を経験することがで |

| | |
|---|---|
| | きます。院内の医局全体が自由な雰囲気で、科の枠を越えて気軽に相談ができます。研修カリキュラム内での症例選択の自由度も比較的高く、指導医の下で研修医自身が主体的に研修をつくっていけます。 |
| 指導医数<br>(常勤医) | 日本内科学会指導医 11 名、日本内科学会総合専門医 6 名、日本消化器病学会専門医 4 名、日本循環器学会専門医 4 名、日本内分泌学会専門医 2 名、日本糖尿病学会専門医 1 名、日本腎臓病学会専門医 1 名、日本呼吸器学会専門医 3 名、日本リウマチ学会専門医 2 名、日本救急医学会専門医 1 名 |
| 外来・入院患者数 | 外来患者 16070 名(1 ヵ月平均)　　入院患者 8050 名(1 ヵ月平均延数) |
| 経験できる疾患群 | きわめて稀な症例を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができます。 |
| 経験できる技術・技能 | 技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。 |
| 経験できる地域医療・診療連携 | 急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診、病病連携なども経験できます。 |
| 学会認定施設<br>(内科系) | 日本内科学会認定医制度教育病院<br>日本消化器病学会認定施設<br>日本呼吸器学会認定施設<br>日本腎臓病学会研修施設<br>日本消化器内視鏡学会認定指導施設<br>日本循環器学会認定循環器専門医研修施設<br>日本神経学会専門医制度認定研修教育施設<br>日本脳卒中学会認定研修施設<br>日本内科学会認定専門医研修施設<br>日本高血圧学会高血圧専門医認定施設<br>日本緩和医療学会専門医認定制度認定研修施設<br>など |

## 15. 久美愛厚生病院

| | |
|---|---|
| 認定基準<br>【整備基準 24】<br>1) 専攻医の環境 | ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。<br>・久美愛厚生病院常勤医師として労務環境が保障されます。<br>・メンタルストレスに適切に対処する部署（企画総務課）があります。<br>・ハラスメントに対する窓口を設置し、男女別の担当者を配置しています。<br>・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、シャワー室、仮眠室、当直室が整備されています。<br>・院内に保育所「あいりすルームたかやま」があり、利用可能です。 |
| 認定基準<br>【整備基準 24】<br>2) 専門研修プログラムの環境 | ・指導医が 5 名在籍しています。<br>・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。<br>・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。<br>・CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 |
| 認定基準<br>【整備基準 24】<br>3)診療経験の環境 | カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、消化器、循環器、腎臓、呼吸器、感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。内分泌、代謝、神経、血液については外来診療の研修が可能です。 |
| 認定基準<br>【整備基準 24】<br>4)学術活動の環境 | 日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計1演題以上の学会発表をしています。 |
| 指導責任者 | 横山敏之<br>【内科専攻医へのメッセージ】<br>当院は、飛騨地域において急性期医療から慢性期にいたるまで、また、予防医療についても役割を担っており、地域に根付いた全人的な内科診療を経験することができます。地域包括ケア病棟や緩和ケア病棟もあり、幅広い医療の研修が可能です。<br>内科は専門で細分化されていません。コモンな疾患から希な疾患まで、幅広く診療できるように優先的に主治医になっていただきます。入院患者の主治医になっていただき、副主治医として各専門科の指導医が担当します。外来は、初診外来を担当していただきます。再診枠については、6カ月以下の研修の場合は曜日を固定せず、専攻医の希望の日時に予約を入れて診察します。へき地診療所の診察に出張していただく場合があります。 |
| 指導医数<br>(常勤医) | 日本内科学会総合内科専門医 7 名、日本消化器病学会消化器専門医 2 名、日本循環器学会循環器専門医 3 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 4 名、日本感染症学会専門医 1 名 |

| | |
|---|---|
| 外来・入院患者数 | ・内科外来患者:延べ 45,035 名 （1 日平均 185 名）<br>・内科入院患者:延べ 35,069 名 （1 月平均 2,756 名） |
| 経験できる疾患群 | きわめて稀な症例を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができます。 |
| 経験できる技術・技能 | 技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。また、付随する緩和ケア治療、終末期医療についても経験できます。 |
| 経験できる地域医療・診療連携 | 急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診、病病連携なども経験できます。住民健診や保健指導など地域の健康維持に関わる活動ができます。 |
| 学会認定施設（内科系） | 日本内科学会認定医制度教育関連病院<br>日本消化器病学会認定施設<br>日本呼吸器学会関連施設<br>日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 |

## 16. 江南厚生病院

| | |
|---|---|
| 認定基準<br>【整備基準 23】<br>1）専攻医の環境 | ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。<br>・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。<br>・江南厚生病院常勤医師として労務環境が保障されています。<br>・メンタルヘルスに適切に対処する部署があります。<br>・ハラスメント対策委員会が整備されています。<br>・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。<br>・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。 |
| 認定基準<br>【整備基準 23】<br>2）専門研修プログラムの環境 | ・指導医が 24 名在籍しています（下記）。<br>・内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者、プログラム管理者、各診療部長）は、基幹施設・連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。<br>・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と教育研修課を設置します。<br>・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2023 年度実績 5 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。<br>・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に参加を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。<br>・CPC を定期的に開催（2023 年度実績 12 回、15 症例）し、専攻医に参加を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。<br>・地域参加型のカンファレンス（地域連携カンファレンス、消化器内科・外科合同カンファレンス、消化器レントゲン読影会、呼吸器レントゲン読影会、透析勉強会など）を定期的に開催し、専攻医に参加を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。<br>・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講（江南厚生病院にて 2016 年より年 1 回開催）を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。<br>・日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センター（仮称）が対応します。<br>・特別連携施設（足助病院）の研修中においても指導の質および評価の正確さを担保するため、基幹施設である江南厚生病院の研修センターおよび指導医と専攻医が電話またはメールで常に連絡可能な環境を整備します。また、月 2 回の江南厚生病院での面談・カンファレンスなどにより指導医が直接的な指導を行います。 |
| 認定基準<br>【整備基準 23/31】<br>3)診療経験の環 | ・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。（上記）<br>・70 疾患群のうちほぼ全疾患群について研修できます。（上記）<br>・専門研修に必要な剖検（内科症例で、2019 年度 15 症例、2020 年度 20 |

| | |
|---|---|
| 境 | 症例、2021 年度 12 症例、2022 年度 15 症例、2023 年度 11 症例)を行っています。 |
| 認定基準<br>【整備基準 23】<br>4)学術活動の環境 | ・臨床研究に必要な図書館などを整備しています。<br>・倫理委員会を設置し、定期的に開催(2023 年度実績 6 回)しています。<br>・治験管理室を設置し、定期的に治験・臨床研究審査委員会を開催(2023 年度実績 12 回)しています。<br>・日本内科学会講演会あるいは同地方会に学会発表(2018 年度 2 演題、2019 年度 1 演題、2020 年度 16 演題、2021 年度 12 演題、2022 年度 21 演題)をしています。 |
| 指導責任者 | 高田康信<br>【内科専攻医へのメッセージ】<br>江南厚生病院は愛知県尾張北部医療圏の北部地域の急性期医療を担う中核病院で、近隣医療圏にある連携施設・特別連携施設を合わせた研修施設群における幅広い内科専門研修によって、様々な臨床現場において求められる内科専門医の使命を果たすことのできる、可塑性のある人材を育成することを目標としています。<br>当院内科では、認定内科医・総合内科専門医の取得を目標の一つとして、幅広い内科全般の研修とサブスペシャルティの専門領域の研修のバランスを考慮しながら、これまでにも多くの後期研修医を指導してきました。定期に(毎月 2 回)開催する内科会では、研修医から上級医・指導医までが一堂に会して症例検討を含む勉強会を行うなど、各専門科の垣根なく内科全体で専攻医を教育し、自らも学ぼうとする姿勢が浸透しています。<br>また、地域の基幹病院という立場から病診連携・病病連携も充実しており、個々の患者の社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践する場ともなります。 |
| 指導医数<br>(常勤医) | 日本内科学会指導医 24 名、日本内科学会総合内科専門医 18 名、日本消化器病学会消化器病専門医 5 名、日本肝臓学会肝臓専門医 2 名、日本循環器学会循環器専門医 7 名、日本内分泌学会内分泌代謝科専門医 2 名、日本糖尿病学会糖尿病専門医 2 名、日本腎臓病学会腎臓専門医 2 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 4 名、日本血液学会血液専門医 4 名、日本リウマチ学会リウマチ専門医 2 名、日本感染症学会感染症専門医 3 名、日本救急医学会救急科専門医 2 名、日本アレルギー学会専門医 2 名　ほか |
| 外来・入院患者数 | 外来患者 581 名(1 日平均)　　入院患者 290 名(1 日平均) |
| 経験できる疾患群 | きわめて稀な症例を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。 |
| 経験できる技術・技能 | 技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。 |

| | |
|---|---|
| 経験できる地域医療・診療連携 | 急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診、病病連携なども経験できます。 |
| 学会認定施設<br>(内科系) | 日本内科学会認定医制度教育病院<br>日本消化器病学会専門医制度認定施設<br>日本循環器学会認定循環器専門医研修施設<br>日本呼吸器学会認定施設<br>日本血液学会認定血液研修施設<br>日本腎臓病学会研修施設<br>日本リウマチ学会教育施設<br>日本透析医学会認定医制度認定施設<br>日本アレルギー学会認定教育施設（呼吸器科）<br>日本救急医学会救急科専門医指定施設<br>日本呼吸器内視鏡学会専門医認定施設<br>日本臨床腫瘍学会認定研修施設<br>日本消化器内視鏡学会専門医認定指導施設<br>日本がん治療認定医機構認定研修施設<br>日本内分泌学会内分泌代謝科専門医制度認定教育施設<br>日本甲状腺学会認定専門医施設<br>日本糖尿病学会認定教育施設<br>日本高血圧学会専門医認定施設<br>日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設<br>日本プライマリ・ケア学会認定医制度研修施設<br>日本感染症学会認定研修施設<br>など |

## 17. 公立陶生病院

| | |
|---|---|
| 認定基準<br>【整備基準 24】<br>1）専攻医の環境 | ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。<br>・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。<br>・公立陶生病院常勤医師として労務環境が保障されています。<br>・メンタルストレスに適切に対処する部署（人事課）があります。また、メンタルヘルスに関する相談窓口を設けています。<br>・ハラスメント対策委員会が整備されています。<br>・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。<br>・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。 |
| 認定基準<br>【整備基準 24】<br>2）専門研修プログラムの環境 | ・指導医が 31 名在籍しています。<br>・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。<br>・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2023 年度実績 2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。<br>・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。<br>・CPC を定期的に開催（2023 年度実績 6 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。<br>・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 |
| 認定基準<br>【整備基準 24】<br>3)診療経験の環境 | カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 |
| 認定基準<br>【整備基準 24】<br>4)学術活動の環境 | 日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2023 年度実績 4 演題）をしています。 |
| 指導責任者 | 近藤康博<br>【内科専攻医へのメッセージ】<br>公立陶生病院は、最重症の内科救急を最先端医療で対応しドクターヘリ患者搬送の受け入れも行う3次救急病院であるとともに、慢性・難治性疾患にも対応し、がん診療拠点病院でもあります。内科における 13 領域すべての専門医と緩和ケア専従医が在籍し、豊富な症例数から、全領域において必要十分な内科専門医としての修練が可能です。代々培われた屋根瓦方式の研修が行われ、熱い上級医の指導のもと、各種内科救 |

| | |
|---|---|
| | 急、慢性・難治性疾患、癌診療、緩和医療から在宅医療まで、内科医としての幅広い技量を身に着けられます。Common disease から専門性の高い疾患の経験、subspecialty 研修まで個人のニーズに合った幅広い研修と、院内研究会、国内・国際学会発表、論文作成に対してのアカデミック・サポートも充実しています。<br>連携病院としての受け入れは、各個人の症例経験達成度も配慮し希望配属部署の調整が可能です。 |
| 指導医数<br>(常勤医) | 日本内科学会指導医 31 名、日本内科学会総合内科専門医 26 名、<br>日本消化器病学会消化器病専門医 6 名、日本循環器学会循環器専門医 6 名、<br>日本呼吸器学会呼吸器専門医 7 名、日本アレルギー学会専門医(内科)3 名、<br>日本血液学会血液専門医 4 名、日本腎臓学会専門医 5 名、<br>日本糖尿病学会糖尿病専門医 3 名、日本内分泌学会内分泌代謝科専門医 4 名、<br>日本神経学会神経内科専門医 4 名、日本肝臓学会肝臓専門医 1 名、<br>日本感染症学会専門医 1 名、日本救急医学会救急科専門医 2 名、ほか |
| 外来・入院患者数 | 外来患者 1,595 名(1 日平均)　　入院患者 521 名(1 日平均) |
| 経験できる疾患群 | きわめて稀な症例を除いて、疾患群項目表にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。 |
| 経験できる技術・技能 | 技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。 |
| 経験できる地域医療・診療連携 | 急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、地域医療連携なども経験できます。 |
| 学会認定施設<br>(内科系) | 日本消化器内視鏡学会指導施設<br>日本消化器病学会専門医制度認定施設<br>日本呼吸器学会認定施設<br>日本循環器学会認定循環器専門医研修施設<br>日本神経学会専門医制度教育施設<br>日本アレルギー学会アレルギー専門医教育研修施設<br>日本透析医学会専門医制度認定施設<br>日本リウマチ学会教育施設<br>日本東洋医学会研修施設<br>日本心血管インターベンション治療学会研修施設<br>日本呼吸器内視鏡学会専門医制度認定施設<br>日本臨床腫瘍学会認定研修施設<br>日本腎臓学会研修施設<br>日本脳卒中学会専門医認定制度研修教育病院 |

| | |
|---|---|
| | 日本がん治療学会認定医機構認定研修施設<br>浅大腿動脈ステントグラフト実施施設<br>日本緩和医療学会認定研修施設<br>日本血液学会認定研修施設<br>日本内分泌学会認定教育施設<br>日本糖尿病学会認定教育施設<br>日本認知症学会専門医制度認定教育施設<br>日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設<br>日本カプセル内視鏡学会指導施設<br>日本膵臓学会指導施設 |

## 18. 小牧市民病院

| | |
|---|---|
| 認定基準<br>【整備基準 24】<br>1）専攻医の環境 | ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。<br>・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。<br>・小牧市非常勤医師（会計年度任用職員）として労務環境が保障されています。<br>・メンタルヘルスに適切に対処する部署（精神科部長が対応）があります。<br>・ハラスメント委員会は随時幹部会により招集されます。<br>・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、当直室、パウダールーム、シャワー室が整備されています。<br>・敷地内に院内保育所があり利用可能です。 |
| 認定基準<br>【整備基準 24】<br>2）専門研修プログラムの環境 | ・指導医が 23 名在籍しています。<br>・内科専門研修プログラム管理委員会にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。<br>・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と研修センターを設置します。<br>・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2023 年度実績 4 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。<br>・研修施設群合同カンファレンス、CPC（2023 年度実績 11 回）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。<br>・地域参加型のカンファレンス（尾張臨床懇話会;2023 年度は WEB で 3 回開催）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。<br>・プログラムに所属する全専攻医に、JMECC 受講（2023 年度第 8 回開催、5 名参加）を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。<br>・日本専門医機構による施設実地調査に研修センターが対応します。 |
| 認定基準<br>【整備基準 24】<br>3)診療経験の環境 | ・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。<br>・70 疾患群のうちほぼ全疾患群について研修できます。<br>・専門研修に必要な剖検（2022 年度 6 体、2023 年度 5 体）を行っています。 |
| 認定基準<br>【整備基準 24】<br>4)学術活動の環境 | 日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2023 年度 1 演題）をしています。<br>・内科学会以外の学術集会、地方会（発表総数 29 演題）でも積極的に活動しています。<br>・倫理委員会を設置し、要請に応じて開催（2023 年度実績 9 回、うち書面審査 6 回）しています。 |
| 指導責任者 | 川口克廣<br>【内科専攻医へのメッセージ】<br>小牧市民病院は，救命救急センターを持つ愛知県尾張北部医療圏の中心的な高度急性期病院であり，緩和ケア病棟を有するがん診療拠点病院でもあります。 |

| | |
|---|---|
| | 2019 年 5 月に新病院に移転開院し設備は充実しています。近隣医療圏にある連携施設と内科専門研修施設群を構築し，地域医療にも貢献できる内科専門医の育成を目指します．症例数はきわめて豊富で、全内科疾患群の研修はもちろんのこと、高度な専門医療に携わることもできます。内科指導医の指導力には定評があり，主担当医として，入院から退院まで経時的かつ全人的医療が実践できる内科専門医になれるよう全力を尽くします． 学会発表，論文発表などの機会も多く，研究者としてのマインド構築もサポートしていきます。 |
| 指導医数 | 日本内科学会指導医 23 名、日本内科学会総合内科専門医 19 名、日本消化器病学会消化器専門医 5 名、日本循環器学会循環器専門医 7 名、日本腎臓学会専門医 3 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 3 名、日本糖尿病学会専門医 1 名、日本内分泌学会専門医 2 名、日本神経学会神経内科専門医 1 名、日本血液学会血液専門医 4 名、日本肝臓学会肝臓専門医 4 名、日本アレルギー学会アレルギー専門医(内科)2 名 |
| 外来・入院患者数 | 外来患者 22,831 名(1 ヵ月平均)　　入院患者 12,746 名(1 ヵ月平均) |
| 経験できる疾患群 | きわめて稀な症例を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。 |
| 経験できる技術・技能 | 技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。 |
| 経験できる地域医療・診療連携 | 急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診、病病連携なども経験できます。 |
| 学会認定施設<br>(内科系) | 日本消化器病学会専門医制度認定施設<br>日本循環器学会認定循環器専門医研修施設<br>日本腎臓学会認定教育施設<br>日本呼吸器学会認定施設<br>日本糖尿病学会認定教育施設Ⅰ<br>日本内分泌学会認定教育施設<br>日本神経学会専門医制度認定准教育施設<br>日本血液学会専門研修認定施設<br>日本肝臓学会専門医制度認定施設<br>日本アレルギー学会アレルギー専門医教育研修施設<br>日本老年医学会認定施設<br>日本脳卒中学会認定研修教育病院<br>日本心血管インターベンション治療学会研修施設<br>日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設<br>日本透析医学会専門医制度認定施設 |

| | |
|---|---|
| | 日本消化器内視鏡学会認定指導施設<br>日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医認定施設<br>日本臨床腫瘍学会認定研修施設<br>日本がん治療認定医機構認定研修施設<br>日本緩和医療学会認定研修施設<br>日本認知症学会専門医教育施設<br>日本リハビリテーション医学会研修施設<br>日本カプセル内視鏡学会認定指導施設　ほか |

## 19. 静岡済生会総合病院

| | |
|---|---|
| 認定基準<br>【整備基準 24】<br>1）専攻医の環境 | ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。<br>・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。<br>・静岡済生会総合病院常勤医師として労務環境が保障されています。<br>・メンタルストレスに適切に対処する部署（ウエルネスセンター）があります。<br>・ハラスメントに対処する委員会が静岡済生会総合病院に整備されています。<br>・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。<br>・病院近傍に院内保育所があり、病児保育、病後児保育を含め利用可能です。 |
| 認定基準<br>【整備基準 24】<br>2）専門研修プログラムの環境 | ・指導医が 17 名在籍しています（下記）。<br>・内科専攻医研修委員会を設置して、敷地内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。<br>・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。（2023 年度実績　医療倫理 1 回、医療安全 29 回、感染対策 10 回）<br>・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。<br>・CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。（2023 年度実績 5 回）<br>・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講のための時間的余裕を与えます。<br>・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講の機会を与え、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。<br>・日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センターが対応します。 |
| 認定基準<br>【整備基準 24】<br>3)診療経験の環境 | カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科を除く、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病、感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 |
| 認定基準<br>【整備基準 24】<br>4)学術活動の環境 | 日本内科学会総会、日本内科学会地方会において、年間で計 1 演題以上の学会発表をしています。（2023 年度実績 3 演題） |
| 指導責任者 | 戸川証（臨床研修センター長兼腎臓内科部長）<br>【内科専攻医へのメッセージ】<br>当院では内科系疾患を偏りなく経験できる環境にあります。急性期の高度医療から、コモンディジーズ、高齢者の複数の病態を持った症例を経験することができます。 |

| | |
|---|---|
| | 熱意あふれる指導医のもとで、充実した研修を希望する専攻医をお待ちしています。 |
| 指導医数<br>(常勤医) | 日本内科学会指導医 17 名、日本内科学会総合内科専門医 15 名、日本消化器病学会消化器専門医 5 名、日本循環器学会循環器専門医 7 名、日本呼吸器病学会呼吸器専門医 4 名、日本腎臓学会専門医 3 名、日本血液学会血液専門医 2 名、日本神経学会神経内科専門医 1 名、日本アレルギー学会専門医 1 名、日本救急医学会救急科専門医 1 名　ほか |
| 外来・入院患者数 | 外来患者 922.2 名(1 日平均)　　入院患者 379.2 名(1 日平均) |
| 経験できる疾患群 | きわめて稀な症例を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができます。 |
| 経験できる技術・技能 | 技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。 |
| 経験できる地域医療・診療連携 | 急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診、病病連携なども経験できます。 |
| 学会認定施設<br>(内科系) | 日本消化器病学会専門医制度認定施設<br>日本腎臓病学会認定教育施設<br>日本消化器内視鏡学会指導連携施設<br>日本循環器学会指定専門医研修施設<br>日本透析医学会専門医制度教育関連施設<br>日本神経学会専門医准教育施設<br>日本呼吸器学会認定施設<br>日本がん治療認定医機構認定研修施設<br>日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設<br>日本心血管インターベンション治療学会研修施設<br>日本栄養治療学会 NST 稼働認定施設<br>日本血液学会専門研修教育施設<br>日本胆道学会認定指導施設<br>日本アレルギー学会専門医教育研修施設<br>など |

## 20. 市立四日市病院

| | |
|---|---|
| 認定基準<br>【整備基準 24】<br>1）専攻医の環境 | ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。<br>・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。<br>・常勤の任期付正職員として労務環境が保障されています。<br>・メンタルヘルスに適切に対処する部署（総務課職員担当）があります。<br>・ハラスメント委員会が整備されています。<br>・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。<br>・隣接する敷地内に院内保育所があり、利用可能です。 |
| 認定基準<br>【整備基準 24】<br>2）専門研修プログラムの環境 | ・指導医が 13 名在籍しています（下記）。<br>・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。<br>・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。（2022 年度実績　医療倫理 1 回、医療安全 3 回、感染対策 3 回、2023 年度実績　医療安全 3 回、感染対策 3 回）<br>・研修施設群合同カンファレンス（予定）を定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間敵余裕を与えます。<br>・CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。（2023 年度実績 4 回）<br>・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 |
| 認定基準<br>【整備基準 24】<br>3)診療経験の環境 | ・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科を除く、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病、感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。<br>・専門研修に必要な剖検（2021 年度 3 体、2022 年度 5 体、2023 年度 6 体）を行っています。 |
| 認定基準<br>【整備基準 24】<br>4)学術活動の環境 | ・倫理委員会を定期的に開催しています。（2021 年度 1 回、2022 年度 1 回、2023 年度 1 回）<br>・治験管理室を設置し、定期的に治験審査委員会を開催（2023 年度実績 6 回）しています。<br>・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表を行うようにします。 |
| 指導責任者 | 渡邊純二（診療部長兼内科部長） |
| 指導医数<br>(常勤医) | 日本内科学会指導医 13 名、日本内科学会総合内科専門医 13 名、日本消化器病学会消化器専門医 3 名、日本循環器学会循環器専門医 7 名、日本内分泌学会専門医 2 名、日本糖尿病学会専門医 2 名、日本腎臓病学会専門医 3 名、日本呼吸器学会呼吸器専 |

| | |
|---|---|
| | 門医 3 名、日本血液学会血液専門医 2 名、日本神経学会神経内科専門医 5 名、日本アレルギー学会専門医（内科）1 名、日本リウマチ学会専門医 0 名、日本感染症学会専門医 0 名、日本救急医学会救急科専門医 0 名 |
| 外来・入院患者数 | 外来患者 11,507 名（1 ヵ月平均）入院患者 5,511 名（1 ヵ月平均延数）※2023 年度内科 |
| 経験できる疾患群 | きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができます。 |
| 経験できる技術・技能 | 技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。 |
| 経験できる地域医療・診療連携 | 急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。 |
| 学会認定施設（内科系） | 日本内科学会認定医制度教育病院<br>日本消化器病学会認定施設<br>日本呼吸器学会認定施設<br>日本糖尿病学会認定教育施設<br>日本腎臓病学会研修施設<br>日本アレルギー学会認定教育施設<br>日本消化器内視鏡学会認定指導施設<br>日本循環器学会認定循環器専門医研修施設<br>日本老年医学会認定施設<br>日本肝臓学会認定施設<br>日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設<br>日本透析医学会認定医制度認定施設<br>日本大腸肛門病学会専門医修練施設<br>日本内分泌甲状腺外科学会認定医専門医施設<br>日本神経学会専門医制度認定教育施設<br>日本脳卒中学会認定研修教育病院<br>日本呼吸器内視鏡学会認定施設<br>日本神経学会専門医研修施設<br>日本内科学会認定専門医研修施設<br>日本老年医学会教育研修施設<br>日本内分泌学会内分泌代謝科認定医教育施設<br>日本東洋医学会研修施設<br>IDC/両室ペーシング植え込み認定施設<br>日本臨床腫瘍学会認定研修施設<br>日本肥満学会認定肥満症専門病院 |

| | |
|---|---|
| | 日本感染症学会認定研修施設<br>日本がん治療認定医機構認定研修施設<br>日本高血圧学会高血圧専門医認定施設<br>ステントグラフト実施施設<br>日本緩和医療学会専門医認定制度認定研修施設<br>日本認知症学会教育施設<br>日本心血管インターベンション治療学会研修施設<br>TAVI（経カテーテル大動脈弁置換術）実施施設<br>日本血液学会認定血液研修施設<br>など |

21. 聖霊病院

| | |
|---|---|
| 認定基準<br>【整備基準 24】<br>1）専攻医の環境 | ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。<br>・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。<br>・シニアレジデントもしくは指導診療医として労務環境が保障されています。<br>・メンタルストレスに適切に対処する部署（医療安全管理室）があります。<br>・ハラスメント委員会が整備されています。<br>・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、シャワー室、仮眠室、当直室が整備されています。<br>・院内に保育所があり、利用可能です。 |
| 認定基準<br>【整備基準 24】<br>2）専門研修プログラムの環境 | ・指導医が 1 名在籍しています（下記）。<br>・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。<br>・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2023 年度実績　医療倫理 0 回、医療安全 2 回、感染対策 2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。<br>・研修施設群合同カンファレンス（2024 年度予定）を定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。<br>・CPC を定期的に開催（2023 年度実 1 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。<br>・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。（2023 年度実績 3 回） |
| 認定基準<br>【整備基準 24】<br>3)診療経験の環境 | カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科を除く、消化器、循環器、内分泌、代謝、神経、アレルギー、感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 |
| 認定基準<br>【整備基準 24】<br>4)学術活動の環境 | 日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2023 年度 1 演題）をしています。 |
| 指導責任者 | 春田　純一<br>【内科専攻医へのメッセージ】<br>聖霊病院は名古屋市東部の住宅・教育環境の良い地域にあって、地下鉄いりなか駅から徒歩数分のアクセスのよい恵まれた場所に立地している地域密着型の病院です。急性期一般病棟は 149 床、緩和ケア病棟 15 床、地域包括ケア病棟 34 床。当院には 4 つの大きな柱があります。生命の始まりと終わりを大切に新生児産後ケアセンターと緩和ケア（ホスピス聖霊）、高齢者を中心とする二次救急、特に大腿骨近位部骨折や高齢者肺炎、そ |

| | |
|---|---|
| | して地域包括ケア病棟を中心とするポスト・アキュートな医療です。それらを支えるのが、東海地区唯一のカトリック系病院としての精神性に基づいた、一人ひとりを大切にする温かい医療の提供です。当院の 5Km 圏内には日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院、名古屋大学医学部附属病院を始めとする多くの高度急性期病院があり、それらの病院との緊密な病病連携を行い、周辺の先進的で精力的なかかりつけ医やリハビリ施設、および法人である聖霊会が有する介護老人保健施設と切れ目のない医療介護連携を進めています。このように当院は高齢社会に対応した医療介護連携のかなめ的役割を担っており、患者を地域で支える姿を経験できます。当院はほとんどの診療科が揃う総合病院です。高度な専門性を持った内科診療は行っておりませんが、幅広い領域に渡る問題を総合的に診療できる研修施設として協力できると思います。 |
| 指導医数<br>(常勤医) | 日本内科学会指導医 1 名、日本内科学会総合内科専門医 4 名、日本消化器学会消化器専門医 1 名、日本循環器学会循環器専門医 2 名、日本糖尿病学会専門医 1 名、日本救急医学会救急科専門医 1 名、日本認知症学会専門医 1 名 |
| 外来・入院患者数 | 外来患者 6533 名(1 ヵ月平均)　　入院患者 4430 名(1 ヵ月平均延数) |
| 経験できる疾患群 | きわめて稀な症例を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域、70 疾患 |
| 経験できる技術・技能 | 技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。 |
| 経験できる地域医療・診療連携 | 急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診、病病連携なども経験できます。 |
| 学会認定施設<br>(内科系) | 日本内科学会　認定医制度審議会認定医制度教育関連病院<br>日本がん治療認定医機構認定研修施設<br>など |

## 22. 総合上飯田第一病院

| | |
|---|---|
| 認定基準<br>【整備基準 24】<br>1) 専攻医の環境 | ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。<br>・シニアレジデントもしくは指導医診療医として労務環境が保障されます。<br>・メンタルヘルスに適切に対処する部署（健康管理室）があります。<br>・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、シャワー室、仮眠室、当直室が整備されています。<br>・敷地内に院内保育所があり、病児保育、病後児保育を含め利用可能です。 |
| 認定基準<br>【整備基準 24】<br>2) 専門研修プログラムの環境 | ・指導医が 6 名在籍しています。<br>・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。<br>・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。<br>・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。<br>・CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。<br>・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 |
| 認定基準<br>【整備基準 24】<br>4)学術活動の環境 | カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、消化器、内分泌、代謝、腎臓、神経、膠原病、感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表をしています。(2023 年度実績 1 演題) |
| 指導責任者 | 小栗彰彦<br>【内科専攻医へのメッセージ】<br>本院は中規模病院で研修医の少ない分、きめ細やかな指導が出来ると考えています。 |
| 指導医数<br>(常勤医) | 日本内科学会指導医 6 名、日本内科学会総合専門医 5 名、日本消化器病学会専門医 2 名、日本消化器内視鏡学会専門医 3 名、日本循環器学会専門医 2 名、日本肝臓学会肝臓専門医 1 名、日本糖尿病学会専門医 1 名、日本腎臓学会腎臓認定指導医 1 名、日本腎臓病学会専門医 2 名、日本神経学会専門医 2 名、日本プライマリ・ケア連合学会家庭医療専門医 2 名 |
| | |
| 経験できる技術・技能 | 技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。 |
| 経験できる地域医療・診療連携 | 急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診、病病連携なども経験できます。 |
| | |

| | |
|---|---|
| 学会認定施設<br>(内科系) | 日本消化器病学会認定関連施設<br>日本消化器内視鏡学会指導施設<br>日本腎臓病学会研修施設<br>日本循環器学会認定循環器専門医研修関連施設<br>日本神経学会　准教育施設<br>日本静脈経腸栄養学会・NST（栄養サポートチーム）稼働施設<br>日本栄養療法推進協議会認定 NST（栄養サポートチーム）稼働施設 |

## 23. 大同病院

| | |
|---|---|
| 認定基準<br>【整備基準 24】<br>1）専攻医の環境 | ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。<br>・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。<br>・社会医療法人宏潤会常勤医師または非常勤医師として労務環境が保障されています。<br>・メンタルストレスに適切に対処する部署（健康管理室）があります。<br>・ハラスメントに適切に対処する部署があります。<br>・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。<br>・敷地に隣接し院内保育所（「大同保育所おひさま」）があり、入所対象は職員（パートタイム職員を含む）の子で、延長保育、夜間保育、病児・病後児保育にも利用可能です。 |
| 認定基準<br>【整備基準 24】<br>2）専門研修プログラムの環境 | ・指導医が 23 名在籍しています。<br>・名古屋大学医学部附属病院内科専門研修プログラム管理委員会委員（副院長、腎臓内科部長、総合内科専門医かつ指導医）は、大同病院院内に設置されている名古屋大学医学部附属病院内科専門研修委員会委員長を兼務しており、基幹施設、連携施設との連携を図ります。<br>・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と卒後研修支援センターを設置します。<br>・医療倫理・医療安全・感染対策に関する認定共通講習を開催し、専攻医に年度 2 回の受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。（2023 年度実績　医療倫理 2 回、医療安全 2 回、感染対策 2 回）<br>・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。<br>・CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。（開催実績：2023 年度実績 9 回）<br>・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。（開催実績：例年 20 回前後開催、病診連携の会、消防合同カンファレンス、感染症症例検討会、専攻医セミナー症例検討　など）<br>・全内科専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。（基本毎年度 1 回開催　開催実績：2015～2023 年度　受講者合計 49 名）<br>・日本専門医機構によるサイトビジット（施設実地調査）に大同病院卒後臨床研修支援センターが対応します。<br>・大同病院の外来診療部門であるだいどうクリニックでは、大同病院での研修時の外来研修を行い、外来から入院への一連の診療の流れに沿った研修が可能となるよう研修指導を行います。<br>・志望する Subspecialty にかかわらず、内科各科のローテーション研修を可能としています。 |

| | |
|---|---|
| 認定基準<br>【整備基準 24】<br>3)診療経験の環境 | カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。<br>・70 疾患群のうちほぼ全疾患群(最少でも 56 以上の疾患群)について研修できます。<br>・専門研修に必要な内科剖検(2021 年度 18 体、2022 年度 21 体、2023 年度 15 体)があります。 |
| 認定基準<br>【整備基準 24】<br>4)学術活動の環境 | 教育活動<br>・初期臨床研修医や医学部学生の指導には、専攻医必須の役割として関わります。<br>・後輩専攻医の指導機会があります。<br>・メディカルスタッフへの指導機会があります。<br>学術活動<br>・内科系の学術集会や企画(日本内科学会本部または支部主催の生涯教育講演会、年次講演会、および内科系サブスペシャルティ学会の学術講演会・講習会等)に年 2 回以上参加するための参加費補助があります。<br>・筆頭演者または筆頭著者として、3 年間で 2 件以上の学会発表あるいは論文発表を行うため、内科系の学術集会や企画への参加費補助があります。<br>・症例報告作成や基礎研究を行うために必要な図書室を整備しています。<br>・倫理委員会を設置し、定期的に開催(2023 年度実績 12 回)しています。<br>・治験管理室を設置し、定期的に受託研究審査会を開催(2023 年度実績 12 回)しています。 |
| 指導責任者 | 志水英明<br>【内科専攻医へのメッセージ】<br>当院は名古屋市南部医療圏の中心的な急性期病院です。中規模病院であるが故に、内科系の各領域間に垣根はなく、横断的な研修が可能です。また内科 13 領域のうち、12 領域で専門医が存在し幅広い研修が可能です。著名な外部講師を招いた臨床推論を身につける症例検討会、ベットサイドティーチングなど内科総合力を身につけることを重視しています。 |
| 指導医数<br>(常勤医) | 日本内科学会指導医 23 名、総合内科専門医 15 名、消化器病専門医 6 名、消化器内視鏡専門医 6 名、肝臓専門医 2 名、日本胆道学会指導医 1 名、日本膵臓学会指導医 1 名、循環器専門医 6 名、内分泌代謝科専門医 2 名、糖尿病専門医 2 名、腎臓病専門医 5 名、呼吸器専門医 4 名、血液専門医 1 名、神経内科専門医 3 名、リウマチ専門医 5 名、日本アレルギー学会専門医 1 名、がん薬物療法専門医 2 名、内科専門医 6 名 |
| 外来・入院患者数(2019 年度) | 内科系外来患者 実数 2,547 名/月、(外来部門だいどうクリニック 7,154 名/月)、<br>内科系入院患者 実数 433 名/月 |
| 経験できる疾患群 | きわめて稀な症例を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができます。 |

| | |
|---|---|
| 経験できる技術・技能 | 技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。 |
| 経験できる地域医療・診療連携 | 急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診、病病連携なども経験できます。 |
| 学会認定施設<br>(内科系) | 日本内科学会認定医制度教育病院<br>日本神経学会専門医制度教育施設<br>日本呼吸器学会認定施設<br>日本消化器病学会認定施設<br>日本消化器内視鏡学会認定指導施設<br>日本肝臓学会関連施設<br>日本膵臓学会認定指導施設<br>日本胆道学会認定指導施設<br>日本循環器学会認定循環器専門医研修施設<br>日本内分泌学会認定教育施設<br>日本糖尿病学会認定教育施設<br>日本血液学会認定血液研修施設<br>日本腎臓学会研修施設<br>日本透析医学会認定教育関連施設<br>日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医制度認定施設<br>日本リウマチ学会教育施設<br>日本アレルギー学会認定教育施設<br>日本臨床腫瘍学会認定研修施設<br>日本救急医学会認定救急科専門医指定施設　など |

## 24. 総合大雄会病院

| | |
|---|---|
| 認定基準<br>【整備基準 24】<br>1）専攻医の環境 | ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。<br>・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。<br>・シニアレジデントもしくは指導医診療医として労務環境が保障されます。<br>・メンタルヘルスに適切に対処する部署（健康管理室）があります。<br>・ハラスメント委員会が整備されています。<br>・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、シャワー室、仮眠室、当直室が整備されています。<br>・敷地内に院内保育所があり、病児保育、病後児保育を含め利用可能です。 |
| 認定基準<br>【整備基準 24】<br>2）専門研修プログラムの環境 | ・指導医が 14 名在籍しています（下記）。<br>・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。<br>・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。（2023 年度実績　医療倫理 1 回、医療安全 2 回、感染対策 2 回）<br>・CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。（2023 年度実績 6 回）<br>・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。（2023 年度実績 9 回） |
| 認定基準<br>【整備基準 24】<br>4)学術活動の環境 | 日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表をしています。（2023 年度実績 3 演題） |
| 指導責任者 | 寺沢彰浩<br>【内科専攻医へのメッセージ】<br>・地域の中核病院であり、救命救急センターおよび地域医療支援病院の資格を有するため、一次医療から三次医療まで幅広い診療を経験することができます。<br>・指導医によるマンツーマンの指導が受けられます。<br>・消化器、循環器、呼吸器、内分泌など各分野の検査に積極的に参加することができ、技術・技能を早期に習得することができます。<br>・JMECC のディレクターが在籍しており、JMECC の講習会を開催できます。 |
| 指導医数<br>(常勤医) | 日本内科学会指導医 14 名、日本内科学会総合内科または内科専門医 16 名、日本消化器病学会専門医 1 名、日本循環器学会専門医 6 名、日本糖尿病学会専門医 4 名、日本呼吸器学会専門医 3 名、日本血液学会専門医 1 名、日本腎臓学会専門医 1 名、日本神経学会専門医 2 名、日本救急医学会専門医 4 名 |
| 外来・入院患者数 | 外来患者 5884 名（1 ヵ月平均）　　入院患者 8645 名（1 ヵ月平均延数） |

| | |
|---|---|
| 経験できる地域医療・診療連携 | 急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診、病病連携なども経験できます。 |
| 学会認定施設<br>(内科系) | 日本内科学会認定医制度教育病院<br>日本消化器病学会認定施設<br>日本糖尿病学会認定教育施設<br>日本消化器内視鏡学会認定指導施設<br>日本循環器学会認定循環器専門医研修施設<br>日本血液学会認定研修施設<br>日本脳卒中学会認定研修施設<br>日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設<br>日本がん治療認定医機構認定研修施設<br>日本高血圧学会高血圧専門医認定施設<br>日本呼吸器学会認定施設<br>日本心血管インターベンション治療学会研修施設 |

25. 中京病院

| | |
|---|---|
| 認定基準<br>【整備基準 24】<br>1）専攻医の環境 | ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。<br>・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。<br>・任期付常勤職員として労務環境が保障されています。<br>・メンタルストレスに適切に対処する部署（メンタルヘルス室）があります。<br>・セクハラ・パワハラ委員会が整備されています。<br>・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。<br>・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。 |
| 認定基準<br>【整備基準 24】<br>2）専門研修プログラムの環境 | ・指導医が 25 名在籍しています。<br>・内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者（副院長）、プログラム管理者（診療部長）（ともに総合内科専門医かつ指導医）にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会と連携を図ります。<br>・基幹施設内において研修する専攻医の研修は内科専門研修委員会と専門医プログラム推進室で管理しています。<br>・地域参加型のカンファレンス・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。（2022 年度実績　医療倫理 1 回、医療安全 2 回、感染対策 2 回）<br>・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。<br>・CPC を定期的に（2022 年度実績 5 回）開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。<br>・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。（2022 年度　受講者 2 名）<br>・日本専門医機構による施設実地調査に専門医プログラム推進室が対応します。<br>・特別連携施設（名南病院）の専門研修では、電話や週 1 回の中京病院での面談・カンファレンスなどにより指導医がその施設での研修指導を行います。 |
| 認定基準<br>【整備基準 24】<br>3)診療経験の環境 | カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくても 7 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。研修に必要な 70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくても 35 以上の疾患群）について研修できます。 |
| 認定基準<br>【整備基準 24】<br>4)学術活動の環境 | ・臨床研究に必要な図書室、研究部、閲覧室などを整備しています。<br>・倫理委員会や治験管理室が整備され、臨床研究体制が整っています。<br>・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2022 年度実績 5 演題）をしています。 |
| 指導責任者 | 藤城健一郎 |

| | |
|---|---|
| | 【内科専攻医へのメッセージ】<br>当院は名古屋市南部地域および知多半島を中心とした地域の中核となる高度急性期病院で、臓器別に専門医と指導医資格を持った上級医による高い水準の内科専門医教育を受けることができます。もともと細やかな初期研修指導で定評がありましたが、2005 年より 2 年間の全科総合初期研修後、1 年間の内科総合研修を経てサブスペシャリティ診療内科医の研修へと進む体制を整え、積極的な内科総合後期研修にも努めてきた実績のある病院です。当院は全国に約 450 施設あるがん診療連携拠点病院の一つに指定されており、がん診療に重点を置いています。また、国の 4 疾患に指定されているがん以外の糖尿病・ 循環器病・脳卒中に加え、腎臓病・膠原病リウマチに関しても、関連複数診療科による横断的診療や多職種による包括的カンファレンスが効率的に行えるようセンター化しています。また外来を中心に内科横断的な研修を目的とした総合診療研修や内科全体の検討会など、各内科専門的視点のみならず総合的な質の高い内科医療を研修・実践できる環境を整えています。加えて、1 次・2 次救急医療は勿論、3 次救急に特化した救急科があり、様々なレベルの救急医療における内科専門医としての医療が経験できます。また、禁煙外来や併設健診センターでの患者指導といった疾病予防医療も積極的に実践できます。疾病予防から一般内科・内科専門および高度救急医療といった時代のニーズにあった内科専門医を養成するプログラムを提供します。 |
| 指導医数<br>(常勤医) | 日本内科学会指導医 25 名、日本内科学会総合内科専門医 24 名、日本消化器病学会消化器専門医 7 名、日本循環器学会循環器専門医 5 名、日本内分泌学会専門医 4 名、日本糖尿病学会専門医 3 名、日本腎臓病学会専門医 4 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 2 名、日本血液学会血液専門医 2 名、日本神経学会神経内科専門医 5 名、日本アレルギー学会専門医(内科)1 名、日本リウマチ学会専門医 2 名、日本感染症学会専門医 1 名、日本救急医学会救急科専門医 1 名,日本肝臓学会専門医 4 名、日本臨床腫瘍学会専門医 1 名、日本消化器内視鏡学会専門医 6 名 |
| 外来・入院患者数 | 外来患者 22,629 名(1 ヵ月平均)　　入院患者 13,300 名(1 ヵ月平均延数) |
| 経験できる疾患群 | きわめて稀な症例を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。 |
| 経験できる技術・技能 | 技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。 |
| 経験できる地域医療・診療連携 | 急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診、病病連携なども経験できます。 |

| | |
|---|---|
| 学会認定施設<br>(内科系) | 日本内科学会認定医制度教育病院<br>日本消化器病学会認定施設<br>日本呼吸器学会認定施設<br>日本糖尿病学会認定教育施設<br>日本腎臓病学会研修施設<br>日本アレルギー学会認定教育施設<br>日本消化器内視鏡学会指導施設<br>日本肝臓学会認定施設<br>日本循環器学会認定循環器専門医研修施設<br>日本透析医学会専門医制度認定施設<br>日本血液学会認定血液研修施設<br>日本神経学会専門医制度認定教育施設<br>日本脳卒中学会認定研修教育病院<br>日本内科学会認定専門医研修施設<br>日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設<br>IDC/両室ペーシング植え込み認定施設<br>日本臨床腫瘍学会認定研修施設<br>日本感染症学会認定研修施設<br>ステントグラフト実施施設<br>日本緩和医療学会専門医認定制度認定研修施設<br>日本心血管インターベンション治療学会研修施設<br>など |

## 26. 中東遠総合医療センター

| | |
|---|---|
| 認定基準<br>【整備基準 24】<br>1）専攻医の環境 | ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。<br>・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。<br>・掛川市・袋井市病院企業団常勤医師として労務環境が保障されています。<br>・メンタルストレスに適切に対処する部署（管理課）があります。<br>・ハラスメント委員会が院内に整備されています。<br>・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、シャワー室、当直室が整備されています。<br>・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。 |
| 認定基準<br>【整備基準 24】<br>2）専門研修プログラムの環境 | ・指導医が 14 名在籍しています。<br>・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。<br>・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。<br>・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。<br>・CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。<br>・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 |
| 認定基準<br>【整備基準 24】<br>3)診療経験の環境 | ・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。<br>・70 疾患群のうちほぼ全疾患について研修できます。<br>・専門研修に必要な剖検を行っています。 |
| 認定基準<br>【整備基準 24】<br>4)学術活動の環境 | ・臨床研究に必要な図書室、カンファランス室などを整備しています。<br>・倫理委員会を設置し、定期的に開催しています。<br>・治験管理室を設置し、定期的に受託研究審査会（治験審査委員会）を開催しています。<br>・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表をしています。 |
| 指導責任者 | 若井正一<br>【内科専攻医へのメッセージ】<br>当院内科は、循環器内科、呼吸器内科、消化器内科、腎臓内科、総合内科、脳神経内科、血液・腫瘍内科、糖尿病・内分泌内科の8つの診療科を有し、必要な内科領域のすべてを経験することができます。地域の基幹病院として、救急を断らない姿勢の病院であり、症例には事欠かない状態にあります。また、比較的希少疾患にも出会いやすく、症例を集める点に関しては、全く問題ありません。救命救急センターを有しており、救急症例も |

| | |
|---|---|
| | 豊富で、救急科医師との連携により、ERでの外来診療から、ICUでの集中管理まで、十分な研修を行うことができます。 |
| 指導医数<br>(常勤医) | 日本内科学会指導医 14 名、日本内科学会総合内科専門医 14 名、<br>日本消化器病学会消化器専門医 2 名、日本消化器内視鏡学会専門医 2 名、<br>日本肝臓学会専門医 2 名、日本消化管学会胃腸科専門医 1 名、<br>日本循環器学会循環器専門医 6 名、日本心血管カテーテル治療学会専門医 1 名、<br>日本心血管インターベンション治療学会専門医 2 名、日本糖尿病学会専門医 1 名、<br>日本腎臓病学会専門医 3 名、日本透析医学会専門医 2 名、<br>日本呼吸器学会呼吸器専門医 1 名、日本神経学会神経内科専門医 1 名、日本睡眠学会専門医 1 名、日本認知症学会専門医 1 名、日本漢方学会専門医 1 名、<br>日本アレルギー学会専門医 1 名、日本救急医学会救急科専門医 4 名、ほか |
| 外来・入院患者数 | 外来患者 23,376 名(1 ヵ月平均)　　入院患者 11,877 名(1 ヵ月平均延数) |
| 経験できる疾患群 | きわめて稀な症例を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。 |
| 経験できる技術・技能 | 技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。 |
| 経験できる地域医療・診療連携 | 急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診、病病連携なども経験できます。 |
| 学会認定施設<br>(内科系) | 日本内科学会認定医制度教育関連病院<br>日本消化器病学会認定施設<br>日本呼吸器学会認定施設<br>日本腎臓病学会研修施設<br>日本アレルギー学会認定教育施設<br>日本消化器内視鏡学会認定指導施設<br>日本循環器学会認定循環器専門医研修施設<br>日本肝臓学会認定施設<br>日本透析医学会専門医制度認定施設<br>日本神経学会専門医制度認定教育関連施設<br>日本脳卒中学会認定研修教育病院<br>日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医関連ん認定施設<br>日本神経学会専門医制度准教育施設<br>日本内分泌外科学会・日本甲状腺外科学会専門医制度関連施設<br>日本認知症学会教育施設<br>日本睡眠学会睡眠医療認定医療機関 |

| | |
|---|---|
| | 日本心血管インターベンション治療学会研修施設<br>日本救急医学会救急科専門医指定施設<br>日本集中治療医学会集中治療専門医研修施設<br>日本がん治療認定医機構認定研修施設<br>など |

## 27. 中部ろうさい病院

| | |
|---|---|
| 認定基準<br>【整備基準 24】<br>1) 専攻医の環境 | ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。<br>・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。<br>・中部労災病院嘱託医師として労務環境が保障されています。<br>・メンタルヘルスに適切に対処する部署（総務課）があります。<br>・当機構において「ハラスメント防止規定」が定められており、相談員を 4 名配置し対応します。<br>・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、シャワー室、仮眠室、当直室が整備されています。<br>・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。 |
| 認定基準<br>【整備基準 24】<br>2) 専門研修プログラムの環境 | ・指導医が 22 名在籍しています。<br>・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。<br>・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。（2023 年度実績　医療倫理 1 回、医療安全 2 回、感染対策 2 回）<br>・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。<br>・CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。（2023 年度実績 6 回）<br>・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。（2023 年度実績 36 回） |
| 認定基準<br>【整備基準 24】<br>3)診療経験の環境 | カリキュラムに示す内科領域 13 分野（総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病、感染症および救急）全てで定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。内分泌、血液、アレルギー、救急は領域を横断的に研修します。 |
| 認定基準<br>【整備基準 24】<br>4)学術活動の環境 | 日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表をしています。（2023 年度実績 5 演題　内 優秀演題数 2） |
| 指導責任者 | 原田憲<br>【内科専攻医へのメッセージ】<br>名古屋市南部の急性期病院である中部ろうさい病院を基幹病院とするプログラムであり、主に名古屋市を中心とする名古屋大学関連連携施設群ならびに関東労災病院をはじめとする当院独自の連携施設を含め幅広い内科研修を可能とするプログラムを準備します。「総合力を持った専門医の養成」を目標におき、各専門家ローテーションに加えて、 |

| | |
|---|---|
| | 総合内科研修として内科新患外来を担当するとともに、外来症例カンファランス、研修医との症例検討会、外部講師による講演会参加などを通じて幅広く経験を共有する機会を設けておりますので、将来皆さんが目指す臨床医像を掴んでいただけると思います。 |
| 指導医数<br>(常勤医) | 日本内科学会指導医 10 名、日本内科学会総合内科専門医 20 名、日本消化器病学会専門医 2 名、日本循環器学会専門医 6 名、日本糖尿病学会専門医 4 名、日本腎臓病学会専門医 5 名、日本呼吸器学会専門医 2 名、日本神経学会専門医 5 名、日本リウマチ学会専門医 6 名、日本感染症学会専門医 1 名、日本救急医学会救急科専門医 2 名 |
| 外来・入院患者数 | 外来患者 21,977 名(1 ヵ月平均)　　入院患者 10,319 名(1 ヵ月平均延数) |
| 経験できる疾患群 | きわめて稀な症例を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができます。 |
| 経験できる技術・技能 | 技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。 |
| 経験できる地域医療・診療連携 | 急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診、病病連携なども経験できます。 |
| 学会認定施設<br>(内科系) | 日本内科学会認定医制度教育病院<br>日本消化器病学会認定施設<br>日本呼吸器学会認定施設<br>日本糖尿病学会認定教育施設<br>日本腎臓病学会研修施設<br>日本消化器内視鏡学会認定指導施設<br>日本循環器学会認定循環器専門医研修施設<br>日本透析医学会認定医制度認定施設<br>日本神経学会専門医制度認定教育施設<br>日本脳卒中学会認定研修教育病院<br>日本神経学会専門医研修施設<br>日本内科学会認定専門医研修施設<br>日本肥満学会認定肥満症専門病院<br>日本感染症学会認定研修施設<br>日本がん治療認定医機構認定研修施設<br>日本心血管インターベンション治療学会研修施設<br>日本リウマチ学会認定教育施設 |

## 28. 津島市民病院

| | |
|---|---|
| 認定基準<br>【整備基準 24】<br>1) 専攻医の環境 | ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。<br>・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。<br>・シニアレジデントもしくは指導医診療医として労務環境が保障されます。<br>・メンタルヘルスに適切に対処する部署(健康管理室)があります。<br>・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、シャワー室、仮眠室、当直室が整備されています。 |
| 認定基準<br>【整備基準 24】<br>2) 専門研修プログラムの環境 | ・指導医が 7 名在籍しています(下記)。<br>・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。<br>・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。(2023 年度実績　医療倫理 1 回、医療安全 2 回、感染対策 2 回)<br>・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。<br>・CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。<br>・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 |
| 認定基準<br>【整備基準 24】<br>3)診療経験の環境 | カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科を除く、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、脳神経、アレルギー、膠原病、感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 |
| 認定基準<br>【整備基準 24】<br>4)学術活動の環境 | 日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表をしています。 |
| 指導責任者 | 新美　由紀<br>【内科専攻医へのメッセージ】<br>津島市民病院は、名古屋の西方約 16km に位置し、圏内人口約 30 万人の海部医療圏に属します。建物は 2004 年に全面的に建て変わり、広いアトリウムや通路を利用したギャラリーなどもある、新しくてきれいな病院です。総病床数は 352 床で、救命救急センターは有しないもののほとんどの一般的な疾患には対応可能で、地域の中で主に 2.5 次までの救急を担っています。<br>全科の常勤医数は約 60 余名、そのうち内科の常勤医数は 25 名、全科の医師の顔と名前が一致し、気楽に何でも相談し合え、全体としてアットホームな環境の中で診療が行わ |

| | |
|---|---|
| | れています。病院の規模に比較して放射線科が常勤医 3 名と充実しているのが特徴で、緊急の血管内治療に対応が可能で、CT や MRI などの結果も当日の内に確認できます。それぞれが各診療科のスペシャリストであると同時に、一般的な疾患にも対応できる総合内科医でもある、ということを目標としています。 |
| 指導医数<br>(常勤医) | 日本内科学会指導医 7 名、日本内科学会認定内科医 13 名、日本専門医機構認定内科専門医 6 名、日本内科学会総合内科専門医 11 名、日本消化器病学会消化器病専門医 5 名、日本循環器学会循環器専門医 5 名、日本内分泌学会専門医 2 名、日本糖尿病学会専門医 1 名、日本腎臓病学会専門医 1 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 3 名、日本神経学会神経内科専門医 2 名、日本アレルギー学会専門医(内科)3 名、日本消化器内視鏡学会 6 名、日本肝臓学会 1 名、日本感染症学会専門医 1 名 |
| 外来・入院患者数 | 外来患者 11,163 名(1 ヵ月平均)　　入院患者 6,771 名(1 ヵ月平均延数) |
| 経験できる疾患群 | きわめて稀な症例を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができます。 |
| 経験できる技術・技能 | 技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。 |
| 経験できる地域医療・診療連携 | 急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診、病病連携なども経験できます。 |
| 学会認定施設<br>(内科系) | 日本専門医機構内科専門研修プログラム連携施設<br>日本消化器病学会認定施設<br>日本呼吸器学会認定施設<br>日本糖尿病学会教育関連施設<br>日本腎臓病学会専門医制度研修施設<br>日本循環器学会認定循環器専門医研修施設<br>日本神経学会専門医制度認定教育施設<br>日本内分泌学会認定教育施設<br>日本消化器内視鏡学会指導施設<br>日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医制度関連認定施設<br>日本認知症学会専門医教育施設<br>日本アレルギー学会認定教育施設<br>日本感染症学会研修施設<br>日本消化管学会胃腸科指導施設<br>日本脳卒中学会認定研修教育病院<br>日本脳卒中学会一次脳卒中センター<br>日本肝臓学会肝臓専門医制度関連施設<br>日本臨床神経生理学会認定施設<br>日本がん治療認定医機構認定研修施設 |

## 29. 東海病院

| | |
|---|---|
| 認定基準<br>【整備基準 24】<br>1) 専攻医の環境 | ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。<br>・シニアレジデントもしくは指導医診療医として労務環境が保障されます。<br>・ハラスメント委員会が整備されています。<br>・敷地内に院内保育所があり、病児保育、病後児保育を含め利用可能です。 |
| 認定基準<br>【整備基準 24】<br>2) 専門研修プログラムの環境 | ・指導医が 3 名在籍しています(下記)。<br>・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。(2023 年度実績　医療安全 2 回、感染対策 2 回)<br>・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。(2023 年度実績 1 回) |
| 認定基準<br>【整備基準 24】<br>4)学術活動の環境 | 日本内科学会講演会あるいは同地方会に学会発表をしています。(2023 年度実績 0 回) |
| 指導責任者 | 西村英哉<br>【内科専攻医へのメッセージ】<br>当院の内科常勤医は消化器 4 名、循環器 3 名(健康管理センター所属 1 名を含む)の合計 7 名です。消化器内科はスタッフも多く、内視鏡検査数は年間 8000 件であり、最新の検査治療が可能です。内科の中で細分化されておらず、また比較的小規模な病院であり、入院・外来ともに高齢の患者様が多いため、一人の患者様に専門分野を跨ぐ他疾患を有する患者様が多くなっています。そのため、個々の医師に総合内科医としての能力が必要とされます。また、当院には人間ドックを行う健康管理センターと介護老人保健施設ちよだを併設しており、疾病予防から介護まで幅広い研修が可能です。 |
| 指導医数<br>(常勤医) | 日本内科学会指導医 3 名、日本内科学会総合専門医 3 名、日本消化器病学会専門医 3 名、日本循環器学会専門医 2 名 |
| 外来・入院患者数 | 外来患者 109.7 名(1 ヵ月平均)　　入院患者 52.5 名(1 ヵ月平均延数) |
| 経験できる地域医療・診療連携 | 急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診、病病連携なども経験できます。 |
| 学会認定施設<br>(内科系) | 日本消化器病学会認定施設<br>日本消化器内視鏡学会認定指導施設<br>など |

## 30. 東海中央病院

| | |
|---|---|
| 認定基準<br>【整備基準 24】<br>1）専攻医の環境 | ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。<br>・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。<br>・東海中央病院常勤医師として労務環境が保障されます。<br>・メンタルヘルスに適切に対処する部署（健康管理センター）があります。<br>・ハラスメント委員会が整備されています。<br>・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、当直室が整備されています。<br>・敷地内に院内保育所があり、病児保育を含め利用可能です。 |
| 認定基準<br>【整備基準 24】<br>2）専門研修プログラムの環境 | ・指導医が 11 名在籍しています。<br>・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。<br>・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2023 年度実績　医療倫理 1 回、医療安全 2 回、感染対策 2 回）専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。<br>・各務原市消防本部との救急事後検討会を定期的に開催（月 1 回）し、市と連携を図ります。 |
| 認定基準<br>【整備基準 24】<br>3)診療経験の環境 | カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 |
| 認定基準<br>【整備基準 24】<br>4)学術活動の環境 | 日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2023 年度実績 2 演題）をしています。 |
| 指導責任者 | 小島克之<br>【内科専攻医へのメッセージ】<br>東海中央病院は岐阜県各務原市（人口 15 万人）に位置する二次救急を担う総合病院であるため、幅広い症例を経験できます。名古屋大学医学部附属病院を基幹施設とする内科専門研修プログラムの連携施設として内科専門研修を行い、内科専門医の育成を行います. |
| 指導医数<br>(常勤医) | 日本内科学会指導医 11 名、日本内科学会総合内科専門医 7 名、日本消化器病学会専門医 3 名、日本循環器学会専門医 5 名、日本呼吸器学会専門医 3 名、日本内分泌学会内分泌代謝科専門医 1 名、日本糖尿病学会専門医 1 名、日本甲状腺学会専門医 1 名、日本腎臓学会腎臓専門医 1 名、日本透析医学会透析専門医 1 名　ほか |
| 外来・入院患者 | 外来患者 12,312 名（1 ヵ月平均）　　入院患者 7,263 名（1 ヵ月平均延数） |

| | |
|---|---|
| 数 | |
| 経験できる疾患群 | きわめて稀な症例を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができます。 |
| 経験できる技術・技能 | 技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。 |
| 経験できる地域医療・診療連携 | 急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診、病病連携なども経験できます。 |
| 学会認定施設（内科系） | 日本内科学会認定医制度教育病院<br>日本消化器病学会専門医制度関連施設<br>日本循環器学会認定循環器専門医研修施設<br>日本呼吸器学会関連施設<br>日本脳卒中学会認定研修教育病院<br>日本がん治療認定医機構認定研修施設<br>日本糖尿病学会認定教育施設<br>日本緩和医療学会認定研修施設<br>日本内分泌学会認定教育施設<br>日本甲状腺学会認定専門医施設<br>日本腎臓学会認定教育施設<br>日本透析医学会教育関連施設 |

## 31. 東濃厚生病院

| | |
|---|---|
| 認定基準<br>【整備基準 24】<br>1) 専攻医の環境 | ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。<br>・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。<br>・東濃厚生病院常勤医師として労務環境が保障されています。<br>・メンタルヘルスに適切に対処する部署(健康管理センター)があります。<br>・ハラスメント委員会が整備されています。<br>・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、当直室が整備されています。<br>・敷地内に院内保育所があり、病児保育を含め利用可能です。 |
| 認定基準<br>【整備基準 24】<br>2) 専門研修プログラムの環境 | ・指導医が 4 名在籍しています(下記)。<br>・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。<br>・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。(2021 年度実績　医療倫理 0 回、医療安全 2 回、感染対策 2 回)<br>・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。(2021 年度実績 6 回) |
| 認定基準<br>【整備基準 24】<br>3)診療経験の環境 | カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 |
| 認定基準<br>【整備基準 24】<br>4)学術活動の環境 | 日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表をしています。(2019 年度実績 2 演題) |
| 指導責任者 | 柴田尚宏<br>【内科専攻医へのメッセージ】<br>東濃厚生病院は岐阜県瑞浪市(人口 4 万人)にある、地域の中核病院として救急医療、予防医療など、幅広い症例を経験できます。小牧市民病院を基幹とする内科専門研修プログラムの連携施設として内科専門研修を行い、内科専門医の育成を行います。 |
| 指導医数<br>(常勤医) | 日本内科学会指導医 4 名、日本内科学会総合内科専門医 1 名、日本消化器病学会専門医 2 名、日本循環器学会専門医 1 名、日本腎臓学会専門医 1 名、日本呼吸器学会専門医 2 名、日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医 3 名、日本肝臓学会肝臓専門医 1 名ほか |
| 外来・入院患者数 | 内科外来患者(新規・延べ)543 名・4,897 名(1 ヵ月平均)<br>内科入院患者(新規・延べ)142 名・2,252 名(1 ヵ月平均) |

| | |
|---|---|
| 経験できる疾患群 | きわめて稀な症例を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができます。 |
| 経験できる技術・技能 | 技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。 |
| 経験できる地域医療・診療連携 | 急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診、病病連携なども経験できます。 |
| 学会認定施設（内科系） | 日本内科学会認定医制度教育病院<br>日本消化器病学会専門医修練施設<br>日本消化器内視鏡学会専門医制度認定指導施設<br>日本消化器がん学会認定指導施設<br>日本循環器学会認定循環器専門医研修施設<br>日本呼吸器学会認定指導施設<br>日本がん治療認定医療機構研修施設 |

## 32. 土岐市立総合病院

| | |
|---|---|
| 認定基準<br>【整備基準 24】<br>1) 専攻医の環境 | ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。<br>・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。<br>・シニアレジデントもしくは指導診療医として労務環境が保障されています。<br>・メンタルヘルスに適切に対処する部署（企画総務課）があります。<br>・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室が整備されています。<br>・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。 |
| 認定基準<br>【整備基準 24】<br>2) 専門研修プログラムの環境 | ・指導医が 2 名在籍しています。<br>・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。<br>・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。（2023 年度実績　医療安全 2 回、感染対策 2 回）<br>・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。<br>・CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。（2023 年度実績 2 回）<br>・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。（2023 年度感染症拡大防止の為　実績 0 回） |
| 認定基準<br>【整備基準 24】<br>3)診療経験の環境 | カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病、感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 |
| 認定基準<br>【整備基準 24】<br>4)学術活動の環境 | 日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表をしています。 |
| 指導責任者 | 村山慎一郎<br>【内科専攻医へのメッセージ】<br>・一般内科医として、各サブスペシャリティ領域を横断的に経験する形です。<br>未経験疾患群については優先的に主治医となっていただくことで必要症例数を経験することができます。また、稀な疾患を経験する可能性が生まれます。<br>・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院で、毎年約 5 名の初期臨床研修医を迎えています。<br>・医療安全、感染防止がしっかりしており、メンタルヘルス担当の精神科医がいます。<br>・地域包括ケア病棟、健診業務を経験できます。また、老健を併設しています。<br>・高次急性期医療として、脳卒中センターがあり、脳卒中急性期患者を毎日受け入れて |

| | |
|---|---|
| | います。<br>・医師事務作業補助者が多く(20 対 1)、雑務が比較的少ないです。<br>・土岐市というまとまった地域のただ一つの中核病院であるためプライマリケアから重症疾患までさまざまな症例を経験できます。<br>・神経疾患については、急性期脳血管障害から変性疾患のような慢性疾患を経験できます。<br>・CT、MRI が各2台あるため、画像診断を待つことなく行うことができます。 |
| 指導医数<br>(常勤医) | 日本内科学会指導医 2 名、日本内科学会総合内科専門医 1 名、<br>日本腎臓病学会専門医 1 名、<br>日本血液学会血液専門医 1 名、日本アレルギー学会専門医 1 名、<br>日本甲状腺学会専門医 1 名、日本リウマチ学会専門医 1 名 |
| 外来・入院患者数 | 外来患者　4,530 名(1 ヵ月平均)<br>入院患者　3,074 名(1 ヵ月平均) |
| 経験できる疾患群 | きわめて稀な症例を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができます。 |
| 経験できる技術・技能 | 技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。 |
| 経験できる地域医療・診療連携 | 急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診、病病連携なども経験できます。 |
| 学会認定施設<br>(内科系) | 日本内科学会認定医制度教育関連病院<br>日本血液学会認定研修施設 |

## 33. 常滑市民病院

| | |
|---|---|
| 認定基準<br>【整備基準 24】<br>1）専攻医の環境 | ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。<br>・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。<br>・シニアレジデントもしくは指導医診療医として労務環境が保障されます。<br>・メンタルヘルスに適切に対処する部署（健康管理室）があります。<br>・ハラスメント委員会が整備されています。<br>・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、シャワー室、仮眠室、当直室が整備されています。 |
| 認定基準<br>【整備基準 24】<br>2）専門研修プログラムの環境 | ・指導医が 4 名在籍しています（下記）。<br>・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。<br>・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。（2023 年度実績　医療倫理 0 回、医療安全 4 回、感染対策 2 回）<br>・CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 |
| 指導責任者 | 富田亮 |
| 指導医数<br>（常勤医） | 日本内科学会総合専門医 6 名、日本循環器学会専門医 2 名、日本呼吸器学会専門医 2 名、日本腎臓病学会専門医 2 名、日本アレルギー学会専門医 1 名 |
| 外来・入院患者数 | 外来患者 3840 名（1 ヵ月平均）　　入院患者 2726 名（1 ヵ月平均延数） |
| 経験できる疾患群 | きわめて稀な症例を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができます。 |
| 経験できる技術・技能 | 技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。 |
| 経験できる地域医療・診療連携 | 急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診、病病連携なども経験できます。 |

## 34. トヨタ記念病院

| | |
|---|---|
| 認定基準<br>【整備基準 24】<br>1）専攻医の環境 | ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。<br>・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。<br>・常勤医師として労務環境が保障されています。<br>・メンタルヘルスに適切に対処する部署（ハートフルネット）があります。<br>・ハラスメント委員会がトヨタ自動車株式会社社内に整備されています。<br>・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。<br>・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。0～6 歳児に対応、病児保育も行っています。 |
| 認定基準<br>【整備基準 24】<br>2）専門研修プログラムの環境 | ・指導医が 31 名在籍しています（下記）。<br>・内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者（石木副院長）、副統括責任者（杉野副院長）、プログラム管理者（渥美総合内科科部長）ともに総合内科専門医かつ指導医）にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。<br>・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する卒後研修管理委員会を設置します。<br>・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2023 年度実績 10 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。<br>・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。<br>・CPC を定期的に開催（2023 年度実績 5 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。<br>・今後感染が落ち着けば、地域参加型のカンファレンス（循環器、消化器、呼吸器症例検討会、地域合同 CPC）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。<br>・JMECC を年 1 回開催し、プログラムに所属する全専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。<br>・日本専門医機構による施設実地調査に卒後研修管理委員会が対応します。 |
| 認定基準<br>【整備基準 24】<br>3）診療経験の環境 | ・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。<br>・70 疾患群のうちほぼ全疾患群について研修できます。<br>・専門研修に必要な剖検を行っています。 |
| 認定基準<br>【整備基準 24】<br>4）学術活動の環境 | ・臨床研究に必要な図書室、写真室などを整備しています。<br>・倫理委員会を設置し、定期的に開催しています。<br>・治験管理室を設置し、定期的に治験委員会を開催しています。<br>・日本内科学会講演会あるいは同地方会に 2024 年度は計 4 演題学会発表をしていま |

| | |
|---|---|
| | す。 |
| 指導責任者 | 石木良治<br>【内科専攻医へのメッセージ】<br>内科の全科に専門医が勤務しており、指導体制も整っているため、充実した内科研修をおくることができます。また、総合内科では臓器にとらわれない疾患検索、全身管理や治療を学ぶことが出来ます。感染症科も独立しており、専従の専門医 2 名勤務しているため、質の高い感染症診療実践しています。感染症科ローテーション中だけでなく、各科研修中も感染症診療に関して充実した研修を受けることが出来ます。当院は年間約 34,000 人の ER 受診患者、約 8,500 台の救急車搬入があり、うち半数が内科疾患による受診です。救急科の指導体制も整っており、救急疾患に関しても充実した研修を受けることが可能です。内科全体として症例検討会などのカンファレンスを行っており、各科の交流が多く複数科にオーバーラップした疾患を受け持った際も複数の専門科指導医から指導を受ける事ができます。 |
| 指導医数<br>(常勤医) | 日本内科学会指導医 31 名、日本内科学会総合内科専門医 27 名、日本消化器病学会消化器専門医 3 名、日本循環器学会循環器専門医 11 名、日本内分泌学会専門医 2 名、日本糖尿病学会専門医 2 名、日本腎臓病学会専門医 3 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 5 名、日本血液学会血液専門医 4 名、日本神経学会神経内科専門医 3 名、日本アレルギー学会専門医(内科)2 名、日本リウマチ学会専門医 2 名、日本感染症学会専門医 2 名、日本救急医学会救急科専門医 6 名ほか |
| 外来・入院患者数 | 日あたり外来患者数 1,236 名(1 日平均)　　月当たり新入院患者数 442 名(1 日平均) |
| 経験できる疾患群 | きわめて稀な症例を除いて、「J-OSLER」にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。 |
| 経験できる技術・技能 | 技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。 |
| 経験できる地域医療・診療連携 | 急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診、病病連携なども経験できます。 |
| 学会認定施設<br>(内科系) | 日本内科学会新専門医制度教育病院<br>日本内科学会認定医制度教育病院<br>日本循環器学会認定循環器専門医研修施設<br>日本心血管インターベンション治療学会認定研修施設<br>日本不整脈学会認定不整脈学会専門医研修施設<br>日本高血圧学会高血圧専門医認定施設<br>日本消化器病学会認定施設<br>日本肝臓学会認定施設 |

| | |
|---|---|
| | 日本カプセル内視鏡学会指導施設<br>日本消化管学会胃腸科指導施設<br>日本消化器内視鏡学会認定指導施設<br>日本呼吸器学会認定施設<br>日本呼吸器内視鏡学会認定施設<br>日本呼吸器内視鏡学会専門医認定施設<br>日本内分泌学会内分泌代謝科専門医制度認定教育施設<br>日本糖尿病学会認定教育施設<br>日本内分泌甲状腺外科学会認定医専門医認定施設<br>日本腎臓病学会研修施設<br>日本透析医学会認定施設<br>日本血液学会認定研修施設<br>日本神経学会教育施設<br>日本神経学会専門医制度認定教育施設<br>日本認知症学会教育施設<br>日本脳卒中学会専門医認定制度教育施設<br>日本アレルギー学会認定教育施設<br>日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設<br>日本感染症学会認定研修施設<br>日本がん治療認定医機構認定研修施設<br>日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医認定研修施設<br>日本リウマチ学会教育施設<br>日本静脈経腸栄養学会実地修練認定教育施設<br>日本救急医学会救急科専門医指定施設<br>National Clinical Database 参加施設<br>など |

## 35. 豊田厚生病院

| | |
|---|---|
| 認定基準<br>【整備基準 24】<br>1）専攻医の環境 | ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。<br>・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。<br>・豊田厚生病院常勤医師として労務環境が保障されます。<br>・メンタルヘルスに適切に対処する部署があります。<br>・ハラスメント委員会が整備されています。<br>・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、シャワー室、仮眠室、当直室が整備されています。<br>・敷地内に院内保育所・病児保育があり、利用可能です。 |
| 認定基準<br>【整備基準 24】<br>2）専門研修プログラムの環境 | ・指導医が 28 名在籍しています（下記）。<br>・内科専攻研修プログラム委員会（統括責任者、プログラム管理者、各診療部長）にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。<br>・基幹施設内においても研修する専攻医の研修を管理する内科専門医研修委員会を設置します。<br>・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2022 年度実績　医療倫理 1 回、医療安全・感染対策　各 2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。<br>・研修施設群合同カンファレンス（2023 年度予定）を定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。<br>・CPC を定期的に開催（2022 年度実績 7 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。<br>・地域参加型のカンファレンス（内科体験学習集談会、救急合同カンファレンス、豊田加茂医師会との講演会・症例検討会）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。<br>・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講（2021 年度 2022 年度各 1 回：受講者 11 名、2023 年度も開催）を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。<br>・日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センターが対応します。<br>・特別連携施設（足助病院）での研修中においても指導の質および評価の正確さを担保するため、基幹施設である豊田厚生病院の研修センターおよび指導医と専攻医が電話またはメールで常に連絡可能な環境を整備します。また、月 2 回の豊田厚生病院での面談・カンファレンスなどにより指導医が直接的な指導を行います。 |
| 認定基準<br>【整備基準 24】<br>3)診療経験の環境 | ・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。<br>・70 疾患群のうちほぼ全疾患群について研修できます。<br>・専門研修に必要な剖検（2022 年度実績 10 体、2021 年度実績 14 体、2020 年度 19 体）を行っています。 |

| | |
|---|---|
| 認定基準<br>【整備基準 24】<br>4)学術活動の環境 | ・臨床研修に必要な図書室などを整備しています。<br>・倫理委員会を設置し、講演会も定期的に開催(2022 年度実績 1 回)しています。<br>・治験管理室を設置し、定期的に受託研究審査会を開催(2022 年度実績 6 回)しています。<br>・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表(2022 年度実績 15 演題)をしています。<br>・その他各専門学会などに 2022 年度発表は、27 演題(循環器 12、脳神経内科 3 他)著書・論文は 1 でした。 |
| 指導責任者 | 篠田政典<br>【内科専攻医へのメッセージ】<br>豊田厚生病院は，愛知県西三河北部医療圏の中心的な急性期病院であり，近隣医療圏にある連携施設とで内科専門研修を行い，必要に応じた可塑性のある，地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します.<br>過去２０年にわたり、内科を幅広く、比較的長期にわたるローテート研修を施行し、裾野の広い内科医として多くの専攻医を育ててきました。指導医の専門分野を将来選択しない専攻医に対して熱心に教育する姿勢はすでに確立しており、各専門科の垣根なくアットホームな感覚で研修ができます。症例も豊富であり、各科指導医も充実しています。 |
| 指導医数<br>(常勤医) | 日本内科学会指導医 28 名、日本内科学会総合内科専門医 23 名、日本消化器病学会消化器専門医 7 名、日本循環器学会循環器専門医 8 名、日本糖尿病学会専門医 3 名、日本腎臓病学会専門医 5 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 2 名、日本血液学会血液専門医 3 名、日本神経学会神経内科専門医 3 名、日本アレルギー学会専門医(内科)1(＋1)名、日本リウマチ学会専門医 0(＋1)名、日本肝臓学会専門医 3(＋1)名、日本救急医学会救急科専門医 1(＋3)名、日本内分泌学会内分泌代謝科専門医 1 名<br>(まだ内科指導医ではないが専門医取得の医師数) |
| 外来・入院患者数 | 外来患者 540 名(1 日平均)　　入院患者 301 名(1 日平均) |
| 経験できる疾患群 | きわめて稀な症例を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができます。 |
| 経験できる技術・技能 | 技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。 |
| 経験できる地域医療・診療連携 | 急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診、病病連携なども経験できます。主に感染症・救急症例を経験できます。 |

| | |
|---|---|
| 学会認定施設<br>(内科系) | 日本内科学会認定医制度教育病院<br>日本消化器病学会専門医制度認定施設<br>日本循環器学会循環器専門医研修施設<br>日本呼吸器学会認定施設<br>日本血液学会認定血液研修施設<br>日本腎臓病学会研修施設<br>日本リウマチ学会教育施設<br>日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設<br>日本透析医学会専門医制度認定施設<br>日本神経学会専門医制度教育施設<br>日本アレルギー学会アレルギー専門医教育研修施設<br>日本心血管インターベンション治療学会研修施設<br>日本不整脈心電図学会認定不整脈専門医研修施設<br>日本救急医学会救急科専門医指定施設<br>日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設<br>日本臨床腫瘍学会認定研修施設<br>日本肝臓学会認定施設<br>日本がん治療認定医機構認定研修施設<br>日本糖尿病学会認定教育施設<br>日本高血圧学会専門医認定施設<br>日本甲状腺学会認定専門医施設<br>日本認知症学会専門医制度教育施設<br>日本緩和医療学会認定研修施設　など |

## 36. 豊橋医療センター

| | |
|---|---|
| 認定基準<br>【整備基準 24】<br>1) 専攻医の環境 | ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。<br>・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。<br>・シニアレジデントもしくは指導医診療医として労務環境が保障されます。<br>・メンタルヘルスに適切に対処する部署(健康管理室)があります。<br>・ハラスメント委員会が整備されています。<br>・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、シャワー室、仮眠室、当直室が整備されています。<br>・敷地内に院内保育所があり、病児保育、病後児保育を含め利用可能です。 |
| 認定基準<br>【整備基準 24】<br>2) 専門研修プログラムの環境 | ・指導医が 3 名在籍しています(下記)。<br>・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。<br>・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。(2023 年度実績　医療安全 2 回、感染対策 2 回)<br>・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。<br>・CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。(2023 年度実績 1 回)<br>・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。(2023 年度再開) |
| 認定基準<br>【整備基準 24】<br>3)診療経験の環境 | カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 |
| 認定基準<br>【整備基準 24】<br>4)学術活動の環境 | 日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表をしています。(2023 年度実績 1 演題) |
| 指導責任者 | 山下克也<br>【内科専攻医へのメッセージ】<br>生活習慣病、がん疾患、心及び脳血管疾患の診療に注力、救急医療にも積極的対応しています。以下に、各分野別の当施設の特色を挙げておきます。<br>積極的な循環器科:心臓カテーテル症例数、ペースメーカー埋め込み症例数は多数の症例を誇り、ME スタッフと密接に協力し、人工呼吸管理、透析、補助循環などを積極的に用いた重症者管理を行っています。これら技術の習得を目指す方にはお勧めです。<br>総合内科:幅広い初期対応を心がけていて、救急入院や高齢者の疾患への対応が多く |

| | |
|---|---|
| | なってきていますが、専門的には原因不明の熱性疾患や自己免疫性疾患にもより深く掘り下げて対応しています。総症例数も多いので、そのうちで各人希望の分野の疾患に焦点を絞って研修されるにもうってつけです。 |
| 指導医数<br>(常勤医) | 日本内科学会指導医 3 名、日本リウマチ学会専門医 1 名、日本呼吸器学会専門医 1 名、日本消化器学会専門医 1 名 |
| 外来・入院患者数 | 外来患者 6,646 名(1 ヵ月平均)　　入院患者 7,193 名(1 ヵ月平均延数) |
| 経験できる疾患群 | きわめて稀な症例を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができます。 |
| 経験できる技術・技能 | 技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。 |
| 経験できる地域医療・診療連携 | 急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診、病病連携なども経験できます。 |
| 学会認定施設<br>(内科系) | 日本内科学会認定医制度教育関連病院<br>日本心血管インターベンション治療学会研修施設<br>日本消化器病学会専門医制度認定施設<br>など |

## 37. 豊橋市民病院

| | |
|---|---|
| 認定基準<br>【整備基準 24】<br>1）専攻医の環境 | ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。<br>・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。<br>・正規職員として労務環境が保障されています。<br>・メンタルストレスに適切に対処する部署（職員健康相談室）があります。<br>・ハラスメント委員会が整備されています。<br>・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。<br>・敷地内に院内保育所があり、病児保育、病後児保育を含め利用可能です。 |
| 認定基準<br>【整備基準 24】<br>2）専門研修プログラムの環境 | ・指導医が 25 名在籍しています（下記）。<br>・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、当院ならびに他の基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。<br>・地域医療研修を当院で行う場合は、宿舎を準備します。<br>・日本専門医機構認定共通講習である、医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2023 年度実績　医療倫理 1 回、医療安全 2 回、感染対策 2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。<br>・研修施設群合同カンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。<br>・地域参加型カンファレンス（東三医学会、がん診療フォーラム、MCR フォーラムなど）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。<br>・JMECC 開催（2023 年度実績 1 回）<br>・CPC を定期的に開催（2023 年度実績 9 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 |
| 認定基準<br>【整備基準 24】<br>3)診療経験の環境 | ・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科を除く、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。<br>・専門研修に必要な剖検を行っています（2023 年度実績 6 体）。 |
| 認定基準<br>【整備基準 24】<br>4)学術活動の環境 | 日本内科学会講演会あるいは同地方会に、年間で計 1 演題以上の学会発表（2023 年度実績 5 演題）をしています。 |
| 指導責任者 | 成瀬賢伸<br>【内科専攻医へのメッセージ】<br>・救命救急センターを有する 3 次医療機関で、DPC 特定病院群に属し、地域医療支援病院です。<br>・一般 780 床のうち、内科系は 338 床を有し、総合診療科、消化器内科、呼吸器内科、 |

| | |
|---|---|
| | 循環器内科、脳神経内科、腎臓内科、糖尿病・内分泌科、血液・腫瘍内科を標榜しています。<br>また、総合内科専従医が在籍し、それに相当する患者や感染症、リウマチ・膠原病も多く、経験すべき 200 症例を院内で経験できます。<br>愛知県ならびに静岡県の基幹施設と連携して、短期間に多数の症例を経験することができます。院内で 3 次だけでなく 1 次、2 次救急患者の研修も可能ですが、東三河（北部・南部）医療圏の様々な規模・背景の施設と連携して研修を行います。また隣接する医療圏の同規模の施設との連携を用意し、更に名古屋医療圏の高度先進医療施設での研修連携も備え、地域医療・中小病院・基幹病院・先進医療機関と様々な臨床現場で経験を積むことができます。<br>・シミュレーション研修センター（セミナー室 3 室+スキルスラボ 2 室）があり、実践前に手技をトレーニングできます。<br>・各室シャワー付き当直室と男性仮眠室 12 室、女性仮眠室 6 室（男性、女性エリアにシャワー室完備）が設置されています。<br>・院内グループウエアを完備し、端末ノートブックが各医師に貸与され、インターネットアクセス、online journal が利用でき、業務連絡を院内メール等で行えます。電子カルテには office ソフトと DWH が組み込まれ、電子カルテ内で学会発表の準備が可能です。<br>・学会発表は出張扱いで,年間予算の範囲で海外発表も可能です。<br>・専攻医は正規職員として労務環境が保証され 20 日間の年次休暇と 5 日間の夏季休暇、2 日間の健康保持休暇、5 日間の婚姻休暇があります。また、時間外手当、期末手当等が付与されます。<br>・地域医療研修時には、宿舎を維持することも可能です。（一定の条件あり） |
| 指導医数<br>(常勤医) | 日本内科学会指導医 25 名、日本救急医学会救急科専門医 3 名、日本消化器病学会指導医 3 名、日本消化器病学会消化器病専門医 6 名、日本循環器学会循環器専門医 6 名、日本呼吸器学会指導医 3 名、日本血液学会指導医 2 名、日本血液学会血液専門医 2 名、日本内分泌学会指導医 1 名、日本内分泌学会内分泌代謝科専門医 1 名、日本糖尿病学会指導医 1 名、日本糖尿病学会専門医 1 名、日本腎臓病学会腎臓専門医 1 名、日本肝臓学会指導医 2 名、日本アレルギー学会アレルギー専門医 3 名、日本神経学会指導医 3 名、日本リウマチ学会指導医 2 名、日本消化器内視鏡学会指導医 3 名、日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医 4 名、日本超音波医学会指導医 1 名、日本透析医学会専門医 2 名、日本臨床腫瘍学会指導医 2 名、日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医 2 名、日本膵臓学会認定指導医 3 名、日本胆道学会指導医 2 名、日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医 1 名 |
| 外来・入院患者数 | 外来延べ患者 38,698 名（1 ヶ月平均延数）　　入院延べ患者 20,393 名（一カ月平均延数） |
| 経験できる疾患 | きわめて稀な症例を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例 |

| | |
|---|---|
| 群 | を幅広く経験することができます。 |
| 経験できる技術・技能 | 技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。 |
| 経験できる地域医療・診療連携 | 急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診、病病連携なども経験できます。 |
| 学会認定施設<br>(内科系) | 日本専門医機構専門医制度認定専門研修プログラム基幹施設<br>日本消化器病学会専門医制度認定施設<br>日本循環器学会認定循環器専門医研修施設<br>日本呼吸器学会専門医制度認定施設<br>日本血液学会血液研修認定施設<br>日本内分泌学会認定専門医制度認定教育施設<br>日本糖尿病学会認定教育施設Ⅰ<br>日本神経学会専門医制度教育施設<br>日本腎臓病学会研修施設<br>日本リウマチ学会教育施設<br>日本アレルギー学会アレルギー専門医教育研修施設<br>日本臨床腫瘍学会認定研修施設(連携施設)<br>日本肝臓学会専門医制度認定施設<br>日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設<br>日本膵臓学会認定指導医制度指導施設<br>日本胆道学会認定指導医制度指導施設<br>日本透析医学会専門医制度認定教育施設<br>日本超音波医学会専門医研修施設<br>日本脳卒中学会専門医認定制度研修教育施設<br>日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医制度認定施設<br>日本がん治療認定医機構認定研修施設<br>日本甲状腺学会認定専門医施設<br>日本心血管インターベンション治療学会研修施設<br>日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設<br>など |

## 38. 中津川市民病院

| | |
|---|---|
| 認定基準<br>【整備基準 24】<br>1）専攻医の環境 | ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。<br>・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。<br>・シニアレジデントもしくは指導医診療医として労務環境が保障されます。<br>・メンタルストレスに適切に対処する部署（人事課職員担当）があります。<br>・敷地内に院内保育所・病児保育所があり、利用可能です。 |
| 認定基準<br>【整備基準 24】<br>2）専門研修プログラムの環境 | ・指導医が 4 名在籍しています（下記）。<br>・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。<br>・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。（2023 年度実績、医療安全 2 回、感染対策 18 回）<br>・CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。（2023 年度実績 3 回）<br>・地域参加型のカンファランスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 |
| 認定基準<br>【整備基準 24】<br>3)診療経験の環境 | カリキュラムに示す内科領域 13 分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。<br>・専門研修に必要な剖検（2022 年度実績 4 体、2023 年度 3 体）を行っています。 |
| 認定基準<br>【整備基準 24】<br>4)学術活動の環境 | ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2023 年度 2 演題）をしています。<br>・倫理委員会を設置し、定期的に開催（2023 年度実績 4 回）しています。<br>・治験審査委員会を設置し、随時受託研究審査会を開催しています。<br>・専攻医が国内・海外の学会に参加・発表する機会があり、和文・英文論文の筆頭著者としての執筆も行われています。 |
| 指導責任者 | 林和徳<br>【内科専攻医へのメッセージ】<br>当院は東濃東部に位置し、東濃地域全体としては西部にある県立多治見病院が中核病院としての役割を果たしておりますが、長野県南部と東濃東部の救急医療に関しては当院が中心的役割を担っております。そのため、外来、入院ともに数多くの症例を経験することが可能です。指導医の人数の関係で受け入れ可能な専門研修医には限りがありますが、その分マンツーマンでの指導が可能です。<br>また、当院の特徴として、病院前救急診療科があります。病院前救急診療科は聞きなれない科と思われますが、いわゆるドクターカーといわれるもので、消防署からの要請で、救急現場に医師が赴き、現場での救急処置を行い、その後救急車内での治療を行いながら病院へ搬送するというものです。救急患者の救命に興味のあるかたは、ぜひ体験して |

| | |
|---|---|
| | みてください。 |
| 指導医数<br>(常勤医) | 日本内科学会指導医 4 名、日本内科学会認定医 4 名、日本内科学会総合内科専門医 6 名、日本消化器病学会消化器専門医 2 名、日本消化器内視鏡学会専門医 2 名、日本循環器学会循環器専門医 3 名、日本カプセル内視鏡学会認定医 1 名、日本肝臓学会肝臓専門医 2 名、日本心血管インターベンション治療学会評議員 1 名、日本腎臓学会専門医 1 名、日本腎臓学会腎臓指導医 1 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 1 名、インフェクションコントロールドクター(IDC)専門医 1 名、難病指定医 1 名、日本胆道学会指導医 1 名 |
| 外来・入院患者数 | 外来患者 5,145 名(内科系実数 1 ヵ月平均)　　入院患者 211 名(内科系実数 1 ヵ月平均) |
| 経験できる疾患群 | きわめて稀な症例を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができます。 |
| 経験できる技術・技能 | 技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。 |
| 経験できる地域医療・診療連携 | 急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診、病病連携なども経験できます。 |
| 学会認定施設<br>(内科系) | 日本消化器学会専門医制度関連施設<br>日本循環器学会認定循環器専門医研修施設<br>日本肝臓学会認定関連施設<br>日本消化器内視鏡学会指導連携施設<br>日本胆道学会認定指導医制度指導施設<br>日本がん治療認定医機構認定研修施設 |

39. 名古屋医療センター

| | |
|---|---|
| 認定基準<br>【整備基準 24】<br>1) 専攻医の環境 | ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。<br>・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。<br>・専門研修、後期研修もしくは指導医に対する労務環境が保障されています。<br>・メンタルストレスに適切に対処する部署があります。<br>・ハラスメントに対処する部署が整備されています。<br>・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。<br>・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。 |
| 認定基準<br>【整備基準 24】<br>2) 専門研修プログラムの環境 | ・指導医が 36 名在籍しています。<br>・内科専門研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。<br>・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2022 年度実績　医療倫理 1 回、医療安全 2 回、感染対策 2 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。<br>・2022 年度 臨床研究審査委員会：12 回開催、治験審査委員会：12 回開催、研究倫理委員会：11 回開催<br>・研修施設群合同カンファレンスに関しては定期的に参画し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。<br>・CPC を定期的に開催（2021 年度実績 3 回、2022 年度 4 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。<br>・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 |
| 認定基準<br>【整備基準 24】<br>3)診療経験の環境 | カリキュラムに示す内科領域 13 分野（総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病、感染症および救急）の全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。<br>専門研修に必要な剖検（2021 年度 7 体、2022 年度 7 体）を行っています。 |
| 認定基準<br>【整備基準 24】<br>4)学術活動の環境 | 日本内科学会講演会あるいは同地方会に毎年約 5 演題以上の学会発表をしています。 |
| 指導責任者 | 飯田浩充<br>【内科専攻医へのメッセージ】<br>名古屋医療センターは、名古屋の官庁街にある総合病院で内科系以外にも各診療科がそろっています。内科系全体としての症例数は東海地区で最も豊富な類に属し、一般的な内科診療科以外に、総合内科、膠原病内科、HIV |

| | |
|---|---|
| | 感染症科、腫瘍内科があり、希少な症例も経験可能です。また、集中治療科（ER/ICU）でも研修が可能で、心肺停止にて搬送される患者数も全国有数のレベルであり、重症内科救急疾患を中心とした研修が可能です。<br>初期研修医に対する研修指導に関しても長年の実績を有し、専門研修制度が始まる以前から後期研修医が各専門内科をローテーションする体制をとってきた当院では、各内科診療科を基本的には 3 か月単位でローテーションするプログラムを選択しています。 |
| 指導医数<br>(常勤医) | 日本内科学会指導医 36 名、日本内科学会総合内科専門医 34 名、<br>日本消化器病学会消化器専門医 3 名，日本循環器学会循環器専門医 5 名，<br>日本内分泌学会専門医 3 名，日本糖尿病学会専門医 3 名，<br>日本腎臓病学会専門医 1 名，日本呼吸器学会呼吸器専門医 3 名，<br>日本血液学会血液専門医 6 名，日本神経学会神経内科専門医 3 名，<br>日本アレルギー学会専門医（内科）2 名，日本リウマチ学会専門医 2 名，<br>日本感染症学会専門医 1 名，日本救急医学会救急科専門医 2 名，<br>老年医学会専門医 1 名,肝臓学会専門医 3 名,消化器内視鏡学会専門医 2 名、がん薬物療法専門医 2 名、ほか（2024 年 3 月） |
| 外来・入院患者数 | 外来患者（新患）1756 名（1 ヵ月平均）、入院患者（新入院）1095 名（1 ヵ月平均）2022 年度 |
| 経験できる疾患群 | きわめて稀な症例を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができます。 |
| 経験できる技術・技能 | 技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。 |
| 経験できる地域医療・診療連携 | 急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診、病病連携なども経験できます。 |
| 学会認定施設<br>(内科系) | 日本内科学会認定医制度教育病院<br>日本消化器病学会認定施設<br>日本呼吸器学会認定施設<br>日本糖尿病学会認定教育施設<br>日本腎臓学会研修施設<br>日本アレルギー学会認定教育施設<br>日本消化器内視鏡学会認定指導施設<br>日本循環器学会認定循環器専門医研修施設<br>日本老年医学会認定施設<br>日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設<br>日本血液学会認定研修施設 |

| | |
|---|---|
| | 日本神経学会専門医制度認定教育施設<br>日本呼吸器内視鏡学会認定施設<br>日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設<br>ICD/両室ペーシング植え込み認定施設<br>日本臨床腫瘍学会認定研修施設<br>日本感染症学会認定研修施設　など |

## 40. 名古屋掖済会病院

| | |
|---|---|
| 認定基準<br>【整備基準 24】<br>1）専攻医の環境 | ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。<br>・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。<br>・名古屋掖済会病院常勤医師として労務環境が保障されています。<br>・メンタルヘルスに適切に対処する部署（人事課）があります。<br>・ハラスメント委員会が病院内に整備されています。<br>・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、シャワー室、仮眠室、当直室が整備されています。<br>・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。 |
| 認定基準<br>【整備基準 24】<br>2）専門研修プログラムの環境 | ・指導医が 25 名在籍しています。<br>・内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者（副院長）、プログラム管理者（診療部長）（ともに総合内科専門医かつ指導医）にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。<br>・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修センターを設置します。<br>・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2023 年度実績 4 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。<br>・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。<br>・CPC を定期的に開催（2023 年度実績 7 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。<br>・地域参加型のカンファレンス（病診連携システム勉強会、中川区医師会胸部画像勉強会、中川区医師会腹部画像勉強会）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。<br>・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講（2023 年度開催実績 1 回）を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。<br>・日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センターが対応します。 |
| 認定基準<br>【整備基準 24】<br>3)診療経験の環境 | ・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、全分野（少なくても 7 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。（上記）<br>・70 疾患群のうちほぼ全疾患（少なくても 35 以上の疾患群）について研修できます。<br>・専門研修に必要な剖検（2023 年度実績 7 体）を行っています。 |
| 認定基準<br>【整備基準 24】<br>4)学術活動の環境 | ・臨床研究に必要な図書室などを整備しています。<br>・倫理委員会を設置し、定期的に開催しています。<br>・治験管理室を設置し、定期的に受託研究審査会を開催しています。<br>・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表をしています。（2023 年度実績 17 演題） |

| | |
|---|---|
| 指導責任者 | 島　浩一郎<br>【内科専攻医へのメッセージ】<br>名古屋掖済会病院は名古屋市南西部にあり,東海地区ではじめて認可された救命救急センターを併設した高度急性期病院であります.年間約 10,000 例の救急車搬入実績があり,救急疾患を含めた内科専門医研修に必要なほとんどの症例を, 7 つの診療科(循環器内科,呼吸器内科,脳神経内科,消化器内科,糖尿病・内分泌内科,腎臓内科,血液内科、リウマチ内科)の豊富な経験を有する上級医の指導のもと経験することが可能です. 新制度発足以前より後期研修医の希望に配慮したフレキシブルなローテート研修を行ってきており内科総合的な研修体制を整えてきた実績があります.各診療科のカンファレンスは充実しています. 19 床の緩和ケア病床を有する癌拠点病院でもあり,常勤病理医も 2 名在籍しており,キャンサーボードなどの多職種の検討会も多く実施されておりチーム医療を推進しております. |
| 指導医数<br>(常勤医) | 日本内科学会指導医 25 名、日本内科学会総合内科専門医 16 名、日本消化器病学会専門医 3 名、日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医 3 名、日本循環器学会循環器専門医 6 名、日本糖尿病学会専門医 1 名、日本内分泌学会専門医 2 名、日本腎臓病学会専門医 2 名、日本透析医学会透析専門医 2 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 5 名、日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医 4 名、日本血液学会血液専門医 3 名、日本神経学会神経内科専門医 5 名、日本認知症学会専門医 1 名、日本脳卒中学会専門医 1 名、日本臨床神経生理学会専門医 1 名、日本アレルギー学会専門医(内科)3 名、日本救急医学会専門医(内科以外)8 名 |
| 外来・入院患者数 | 外来患者 26,282 名(1 ヶ月平均)　　入院患者 15,998 名(1 ヶ月平均延数) |
| 経験できる疾患群 | きわめて稀な症例を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができます。 |
| 経験できる技術・技能 | 技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。 |
| 経験できる地域医療・診療連携 | 急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診、病病連携なども経験できます。 |
| 学会認定施設<br>(内科系) | 日本内科学会専門医教育指定病院<br>日本消化器病学会認定施設<br>日本循環器学会専門医研修施設<br>日本呼吸器学会認定医認定施設<br>日本血液学会認定医研修施設<br>日本腎臓病学会専門医研修施設<br>日本透析医学会専門医教育関連施設<br>日本静脈経腸栄養学会認定 NST 稼働施設 |

| | |
|---|---|
| | 日本神経学会認定教育施設<br>日本アレルギー学会認定教育施設<br>日本救急医学会救専門医研修施設<br>日本呼吸器内視鏡学会認定医認定施設<br>日本臨床腫瘍学会認定研修施設<br>日本消化器内視鏡学会認定指導施設<br>日本がん治療認定医機構認定研修施設<br>日本胆道会指導施設<br>日本糖尿病学会認定教育施設<br>日本高血圧学会専門医認定施設<br>日本プライマリ・ケア学会認定研修施設<br>日本内分泌学会認定教育施設<br>日本心血管インターベンション治療学会認定研修施設<br>IDC/両室ペーシング植え込み認定施設<br>日本緩和医療学会認定研修施設<br>日本脳卒中学会専門医研修教育病院<br>日本アフェレシス学会認定施設<br>日本臨床神経整理学会認定施設<br>日本不整脈心電認定不整脈専門医研修施設<br>など |

41. 名古屋記念病院

| | |
|---|---|
| 認定基準<br>【整備基準 23】<br>1)専攻医の環境 | ･初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。<br>･研修に必要な図書室とインターネット環境があります。<br>･名古屋記念病院常勤医師として労務環境が保障されています。<br>･メンタルストレスに適切に対処する部署（産業医および臨床心理士、職員課担当者）があります。<br>･職場環境調整委員会が名古屋記念病院内に整備されています。<br>･女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています.<br>･敷地内に院内保育所があり、利用可能です。 |
| 認定基準<br>【整備基準 23】<br>2)専門研修プログラムの環境 | ･指導医は 10 名在籍しています。<br>･内科専門研修プログラム管理委員会にて基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。<br>･医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2023 年度実施 12 回）し、専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。<br>･CPC を定期的に開催（2023 年度実績 5 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。<br>･地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。<br>･プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 |
| 認定基準<br>【整備基準 23/31】<br>3)診療経験の環境 | ・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくても 7 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。（上記）<br>･70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくても 35 以上の疾患群）について研修できます。（上記）<br>･専門研修に必要な剖検（2023 年度 3 体）を行っています。 |
| 認定基準<br>【整備基準 23】<br>4)学術活動の環境 | ･臨床研究に必要な図書室、写真室などを整備しています。<br>･倫理委員会を設置し、定期的に開催（2023 年度実績 12 回）しています。<br>･治験管理室を設置し、定期的に受託研究審査会を開催しています。<br>･日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表をしています。 |
| 指導責任者 | 椎野　憲二<br>【内科専攻医へのメッセージ】<br>名古屋記念病院は、愛知県名古屋医療圏東名古屋地区の中心的な急性期病院であり、地域医療支援病院です。地域から信頼される病院づくりをめざして救急医療に力を入れています。地域の実情に合わせた実践的な医療も行えるように訓 |

| | |
|---|---|
| | 練され、基本的臨床能力獲得後は必要に応じた可塑性のある内科専門医として東海地方を幅広く支える内科専門医の育成を行います。主担当医として、入院から退院〈初診および外来診療・入院～退院・通院〉、あるいは在宅医療まで経時的に、診断・治療の流れを経験し、チーム医療の実践を通して、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医の育成をめざします。 |
| 指導医数<br>（常勤医） | 日本内科学会指導医 10 名，日本内科学会総合内科専門医 14 名、<br>日本消化器病学会消化器専門医 4 名，日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医 3 名、日本肝臓学会肝臓専門医 1 名、日本循環器学会循環器専門医 3 名，<br>日本糖尿病学会専門医 2 名，日本内分泌学会内分泌代謝科専門医 2 名<br>日本腎臓病学会専門医 2 名，日本呼吸器学会呼吸器専門医 4 名，日本血液学会血液専門医 4 名，日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医 2 名、日本アレルギー学会アレルギー専門医 2 名、日本リウマチ学会専門医 2 名，　日本救急医学会救急科専門医 1 名ほか |
| 外来･入院患者数 | 外来延べ患者 60,585 名/年　入院患者 3,667 名/年 |
| 経験できる疾患群 | きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。 |
| 経験できる技術･技能 | 技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。 |
| 経験できる地域医療・診療連携 | 急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携、在宅医療なども経験できます。 |
| 学会認定施設<br>（内科系） | 日本内科学会認定医制度教育病院<br>日本消化器病学会認定施設<br>日本消化器内視鏡学会指導施設<br>日本呼吸器学会認定施設<br>日本呼吸器内視鏡学会関連施設<br>日本循環器学会研修施設<br>日本血液学会研修施設<br>日本腎臓学会研修施設<br>日本透析医学会認定施設<br>日本内分泌学会認定教育施設<br>日本糖尿病学会認定教育施設<br>日本リウマチ学会教育施設<br>日本臨床腫瘍学会認定研修施設<br>日本緩和医療学会認定研修施設<br>日本がん治療認定医機構認定研修施設　など |

## 42. 名古屋共立病院

| | |
|---|---|
| 認定基準<br>【整備基準 24】<br>1) 専攻医の環境 | ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。<br>・シニアレジデントもしくは指導医診療医として労務環境が保障されます。<br>・メンタルヘルス、ハラスメント等に関して適切な相談、助言ができるよう、社内および社外にも倫理相談窓口が設置されています。<br>・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、シャワー室、仮眠室、当直室が整備されています。<br>・敷地内に院内保育所があり、病児保育、病後児保育を含め利用可能です。 |
| 認定基準<br>【整備基準 24】<br>2) 専門研修プログラムの環境 | ・指導医が 4 名在籍しています(下記)。<br>・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。<br>・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。(2023 年度実績　医療安全 4 回、感染対策 2 回)<br>・研修施設群合同カンファレンス(2023 年度予定)を定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。<br>・CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。<br>・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。(2023 年度実績 4 回) |
| 認定基準<br>【整備基準 24】<br>4)学術活動の環境 | 日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表をしています。(2021 年度実績 1 演題、2022 年度実績 1 演題) |
| 指導責任者 | 春日弘毅<br>【内科専攻医へのメッセージ】<br>腎臓内科、循環器内科、消化器内科の常勤体制です。グループで 3000 名の透析患者を診療しており、保存期から透析期を通じて、腎疾患患者の合併症を対策を含めた、総合的な診療を経験できます。また、循環器内科では多くの冠動脈疾患の治療を手掛け、更に血管外科、形成外科、皮膚科などとチームを形成し、糖尿病や腎不全患者で特に問題となっている PAD に対するトータルマネージメントを経験できます。癌診療についても、消化器内科を中心とした外来化学療法、放射線外科でのガンマナイフ、ノバリスによる定位放射線治療、ハイパーサーミア治療などを実施しており、他の施設ではあまり経験できない治療法も経験できます。<br>一方で、地域の病院として、グループ内に回復期リハビリテーション病院、療養型病院、老人保健施設、グループホーム、小規模多機能事務所、介護付き有料老人ホーム、デイサービスセンター、訪問看護ステーションなどを持ち、急性期から回復期、慢性期、在宅 |

| | |
|---|---|
| | 医療と施設での医療などの連携を経験することができます。<br>大規模総合病院では体験できない、より地域の患者さんに近い位置での医療の実務を学ぶことができ、一方で腎臓、循環器、消化器領域の専門医を目指す医師には、十分な症例と手技などを含めた専門的な経験をすることが可能です。 |
| 指導医数<br>(常勤医) | 日本内科学会指導医 4 名、日本内科学会総合専門医 7 名、日本消化器病学会専門医 4 名、日本循環器学会専門医 3 名、日本腎臓学会専門医 3 名、日本肝臓学会専門医 1 名 |
| 外来・入院患者数 | 外来患 6088 名(1 ヵ月平均延数)　　入院患者 3626 名(1 ヵ月平均延数)　2022 年度 |
| 経験できる疾患群 | 13 領域、70 疾患群の内、総合内科Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、消化器、循環器、代謝、腎臓、膠原病、感染症 1、3、救急について、経験することができます。 |
| 経験できる技術・技能 | 技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。 |
| 経験できる地域医療・診療連携 | 急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診、病病連携なども経験できます。 |
| 学会認定施設<br>(内科系) | 日本内科学会認定医制度教育関連病院<br>日本腎臓病学会認定教育施設<br>日本循環器学会認定循環器専門医研修施設<br>日本透析医学会認定医制度認定施設<br>日本消化器学会認定施設<br>日本消化器内視鏡学会指導施設<br>日本がん治療認定医機構認定研修施設<br>ステントグラフト実施施設<br>日本心血管インターベンション治療学会研修施設<br>日本肝臓学会認定施設(2022.4.1～認定) |

## 43. 名古屋セントラル病院

| | |
|---|---|
| 認定基準<br>【整備基準 24】<br>2）専門研修プログラムの環境 | ・指導医が 11 名在籍しています（下記）。<br>・卒後臨床研修管理委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。<br>・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。<br>・CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。（2023 年度実績 2 回）<br>・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 |
| 認定基準<br>【整備基準 24】<br>3)診療経験の環境 | カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科を除く、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病、感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 |
| 認定基準<br>【整備基準 24】<br>4)学術活動の環境 | 日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表を予定しています。各領域学会講演会あるいは同地方会での学会発表を奨励しています。 |
| 指導責任者 | 曽村富士<br>【内科専攻医へのメッセージ】<br>当院は大正 8 年設立の名古屋鉄道診療所を起源とし、国鉄民営化後東海旅客鉄道（JR 東海）が引き継ぎ、平成 18 年 7 月に名古屋セントラル病院となりました。<br>先端医療機器の導入などを充実した病院設備と特色ある病院経営のもと予防医療から救急医療を含めた急性期医療までを展開しています。標榜診療科 16 科（うち内科系 7 科）、病床数 198 床、医師数約 60 人と比較的小規模な急性期総合病院として、専門的治療を特色とした付加価値の高い病院づくりを行っています。<br>医療人の育成をミッションのひとつに定め、平成 16 年に医師臨床研修病院の指定を受けて以降毎年定員（現在 5 人）に近い初期研修医を採用し、専門医教育施設としての認定も多数受け専門医研修体制を整えています。内科系各診療科では各分野に専門医・指導医を配し学会施設認定を受け、小規模ながら症例は多彩で内科専門医研修に必要なほぼすべての領域を経験することが可能です。当院は病床数の規定で連携施設ながら基幹施設と同様に後期研修の主要部分をカバーでき、移動を伴う必須研修の連携施設としても専攻医の多様なニーズに対応できます。 |
| 指導医数<br>（常勤医） | 日本内科学会指導医 11 名、日本内科学会総合内科専門医 7 名、日本消化器病学会消化器専門医 4 名、日本循環器学会循環器専門医 4 名、日本内分泌学会専門医 2 名、日本腎臓学会専門医 3 名、日本血液学会血液専門医 1 名、日本リウマチ学会専門医 1 名、 |

| | |
|---|---|
| | 日本糖尿病学会専門医 2 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 3 名、日本神経内科学会専門医 1 名　など |
| 外来・入院患者数 | 外来患者 45,474 名　新規入院患者 2,440 名　（2023 年度） |
| 経験できる疾患群 | 神経、消化器、循環器、呼吸器、腎臓、内分泌・代謝、血液にそれぞれ専門医・指導医あり入院・外来でほぼ全般に経験可能。救急、感染症、膠原病、アレルギーも経験可能。 |
| 経験できる技術・技能 | 技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。 |
| 経験できる地域医療・診療連携 | 急性期医療全般。 |
| 学会認定施設(内科系) | 日本内科学会認定医制度教育関連病院<br>日本血液学会認定血液研修施設<br>日本呼吸器学会認定施設<br>日本循環器学会認定循環器専門医研修関連施設<br>日本消化器病学会認定施設<br>日本神経学会准教育施設<br>日本腎臓学会研修施設<br>日本リウマチ学会教育施設<br>日本がん治療認定医機構認定研修施設<br>日本呼吸器内視鏡学会専門医制度関連認定施設<br>日本消化器内視鏡学会指導医施設<br>日本透析医学界専門医制度教育関連施設 |

## 44. 名古屋第一病院

| | |
|---|---|
| 認定基準<br>【整備基準 24】<br>1）専攻医の環境 | ・初期臨床研修制度の基幹型臨床研修病院、協力型臨床研修病院、NPO 法人卒後臨床研修評価機構認定病院です。<br>・研修に必要な図書やインターネット環境が整備されています。<br>・専攻医、指導医には適切な労務環境が保障されています。<br>・メンタルヘルス相談室の設置、精神科リエゾンチームの活動等メンタルストレスに対処できる体制が取られています。<br>・ハラスメントに対処する部署が整備されています。<br>・女性医師が安心して勤務できるよう休憩室、更衣室、シャワー室、当直室等に配慮されています。<br>・敷地内に院内保育があります。 |
| 認定基準<br>【整備基準 24】<br>2）専門研修プログラムの環境 | ・指導医が 24 名在籍しています。<br>・専門研修管理委員会、内科プログラム管理委員会を院内に設置し、関連施設との連携を図っています。<br>・内科研修委員会は施設内で研修する専攻医の研修の進捗状況を管理し、基幹施設のプログラム管理委員会と連携を図っています。<br>・各委員会の事務局は教育研修推進室におき、専攻医の全体的管理をおこないます。<br>・医療倫理・医療安全・感染対策に関する講習会・研修会を定期的に開催し、専攻医および指導医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。（2023 年度実績　医療倫 1 回、医療安全 5 回、感染対策 2 回）<br>・基本領域専門医の認定および更新にかかる共通講習を定期的に開催し、専攻医および指導医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。（2023 年度実績　医療倫理 1 回、医療安全 2 回、医療経済 0 回）<br>・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。<br>・CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。（2023 年度実績 15 回）<br>・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。<br>・施設実地調査に対応可能です。 |
| 認定基準<br>【整備基準 24】<br>3）診療経験の環境 | ・カリキュラムに示す内科領域 13 分野（総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病、感染症および救急）のうち総合内科と膠原病を除く 11 分野（消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、感染症および救急）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。<br>・専門研修に必要な剖検（2023 年度実績 16 件）を行っています。 |
| 認定基準 | ・倫理審査委員会が設置されています。 |

| | |
|---|---|
| 【整備基準 24】<br>4)学術活動の環境 | ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表をしています。 |
| 指導責任者 | 後藤洋二<br>【内科専攻医へのメッセージ】<br>当院ではごく希少な疾患を除き、内科学会で研修目標とする 67 分野、200 症例以外にも内科全領域の疾患を幅広く経験する事ができます。豊富な臨床経験を持つ指導医のもとで基礎的な疾患から、高度な知識や技術を必要とする疾患まで診断と治療技術を学ぶ事ができます。造血細胞移植センターを持つ血液内科では国内有数の数を誇る骨髄移植、循環器内科では心臓外科ともタイアップしたインターベンション治療、消化器内科では ESD を始めとする高度な内視鏡治療技術、拡大内視鏡を用いた精査な内視鏡診断を学ぶ事ができます。呼吸器内科では肺癌を始めとする化学療法、急性期の呼吸管理、気管支鏡による最先端の診断治療を学ぶことができます。脳神経内科では脳卒中急性期医療および神経変性疾患などの多数の神経内科疾患も幅広く経験できます。腎臓内科では腎疾患の身でなく、数多くの膠原病症例も経験できます。この他の内科各分野でも最先端の診断、治療技術を経験できます。3 次救命救急センターを持ち、内科各分野を始めとする、高度な救急医療を経験する事ができます。災害救護にも豊富な経験を持っています。栄養サポートチーム、院内感染対策チーム、呼吸器・モニター管理チーム、緩和ケアチーム等、多職種からなるチーム医療にも積極的に参加することができます。 |
| 指導医数<br>(常勤医) | 日本内科学会指導医 24 名、総合内科専門医 23 名、日本消化器病学会専門医 6 名、日本循環器学会専門医 5 名、日本内分泌学会専門医 2 名、日本糖尿病学会専門医 2 名、日本腎臓病学会専門医 3 名、日本呼吸器学会専門医 4 名、日本血液学会専門医 4 名、日本神経学会専門医 3 名、日本アレルギー学会専門医 1 名、日本感染症学会専門医 1 名、日本救急医学会専門医 3 名　ほか |
| 外来・入院患者数 | 外来患者数 19,779 名(1 ヵ月平均)　　入院患者数 28,873 名(1 ヵ月平均) |
| 経験できる疾患群 | きわめて稀な症例を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができます。 |
| 経験できる技術・技能 | 技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。 |
| 経験できる地域医療・診療連携 | 急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診、病病連携なども経験できます。 |

| | |
|---|---|
| 学会認定施設<br>(内科系) | 日本腎臓病学会研修施設<br>日本透析医学会教育関連認定施設<br>日本甲状腺学会認定専門医施設<br>日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設<br>日本糖尿病学会認定教育施設<br>日本遺伝性腫瘍学会遺伝性腫瘍研修施設<br>公益財団法人日本骨髄バンク非血縁者間骨髄採取認定施設<br>日本造血・免疫細胞療法学会非血縁者間造血幹細胞移植認定診療科（血液内科）<br>日本血液学会新専門医制度専門研修認定施設<br>日本神経学会専門医教育施設<br>日本認知症学会専門医教育施設<br>日本てんかん学会研修施設<br>日本脳卒中学会認定研修教育病院、一時脳卒中センター<br>日本循環器学会専門医研修施設<br>日本不整脈心電学会専門医研修施設<br>日本心血管インターベンション治療学会研修施設<br>日本不整脈心電学会経皮的カテーテル心筋冷凍焼灼術（クライオバルーン）施設基準<br>補助人工心臓治療関連学会協議会 IMPELLA 補助循環用ポンプカテーテル実施施設<br>日本呼吸器内視鏡学会認定施設<br>日本アレルギー学会アレルギー専門医教育研修施設<br>日本感染症学会認定研修施設<br>日本消化器内視鏡学会指導施設<br>日本消化器病学会認定施設<br>日本臨床栄養代謝学会実地修練認定教育施設（NST 専門療法士認定教育施設）<br>日本肝臓学会認定施設<br>日本臨床代謝学会 NST 稼働施設<br>日本超音波医学会専門医研修施設<br>日本消化管学会胃腸科指導施設<br>公益財団法人日本骨髄バンク非血縁者間末梢血幹細胞採取認定施設<br>日本輸血・細胞治療学会輸血機能評価認定制度（I&A 制度）<br>日本臨床腫瘍学会認定研修施設（連携施設）<br>日本がん治療認定医機構認定研修施設 |

## 45. 名古屋第二病院

| | |
|---|---|
| 認定基準<br>【整備基準 24】<br>1) 専攻医の環境 | ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。<br>・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。<br>・シニアレジデントもしくは指導医診療医として労務環境が保障されています。<br>・メンタルヘルスに適切に対処する部署(健康対策室)があります。<br>・ハラスメント委員会が整備されています。<br>・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。<br>・敷地内に院内保育所があり、病児保育、病後児保育を含め利用可能です。 |
| 認定基準<br>【整備基準 24】<br>2) 専門研修プログラムの環境 | ・指導医が 14 名在籍しています(下記)。<br>・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。<br>・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。(2023 年度実績　医療倫理 2 回、医療安全 6 回、感染対策 4 回)<br>・研修施設群合同カンファレンス(2023 年度 1 回)を定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。<br>・CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。(2023 年度実績 10 回)<br>・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。(2023 年度実績 22 回) |
| 認定基準【整備基準24】3)診療経験の環境 | カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 |
| 認定基準【整備基準24】4)学術活動の環境 | 日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表をしています。 |
| 指導責任者 | 糖尿病・内分泌内科部長　東慶成 |
| 指導医数<br>(常勤医) | 日本内科学会指導医 14 名、日本内科学会総合内科専門医 33 名、日本消化器病学会消化器専門医 9 名、日本循環器学会循環器専門医 10 名、日本内分泌学会専門医 4 名、日本糖尿病学会専門医 4 名、日本腎臓病学会専門医 6 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 6 名、日本血液学会血液専門医 5 名、日本神経学会神経内科専門医 4 名、日本アレルギー学会専門医(内科)1 名、日本感染症学会専門医 1 名、日本救急医学会救急科専門医 7 名 |
| 外来・入院患者数 | 外来患者 27,164 名(1 ヵ月平均実数),入院患者 1,889 名(1 ヵ月平均実数) |

| | |
|---|---|
| 経験できる疾患群<br><br>経験できる技術・技能 | きわめて稀な疾患、アレルギー、膠原病を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができます。<br>技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。 |
| 経験できる地域医療・診療連携 | 急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。 |
| 学会認定施設<br>(内科系) | 胸部ステントグラフト実施施設、腹部ステントグラフト実施施設、浅大腿動脈ステントグラフト実施施設<br>日本アフェレシス学会認定施設<br>日本アレルギー学会認定アレルギー専門医教育研修施設<br>日本がん治療認定医機構認定研修施設<br>日本プライマリ・ケア学会認定研修施設<br>日本緩和医療学会認定研修施設<br>日本肝臓学会認定施設<br>日本血液学会認定血液研修施設<br>日本呼吸器学会認定医制度施設<br>日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医制認定施設<br>日本高血圧学会専門医認定施設<br>日本循環器学会認定循環器専門医研修施設<br>日本消化管学会認定胃腸科指導施設<br>日本消化器病学会専門医制度指定修練施設<br>日本消化器内視鏡学会認定専門医制度指導施設<br>日本消化器病学会専門医修練施設<br>日本神経学会認定医制度教育施設<br>日本腎臓病学会認定研修施設<br>日本胆道学会認定指導医制度指導施設<br>日本糖尿病学会認定教育施設<br>日本透析医学会認定医制度認定施設<br>日本内科学会認定医制度教育病院<br>日本内分泌学会認定教育施設<br>日本認知症学会教育施設<br>日本脳卒中学会研修教育病院<br>日本脳卒中学会認定一次脳卒中センター<br>日本不整脈学会・日本心電学会認定不整脈専門医研修施設<br>日本輸血・細胞治療学会認定医制度指定施設<br>日本臨床腫瘍学会認定研修施設 |

## 46. 西尾市民病院

| | |
|---|---|
| 認定基準<br>【整備基準 24】<br>1）専攻医の環境 | ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。<br>・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。<br>・常勤医師として労務環境が保障されています。<br>・メンタルヘルスに適切に対処します。<br>・ハラスメント委員会が西尾市役所内に整備されています。<br>・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室・仮眠室等が整備されています。<br>・敷地内に院内保育所があり、病児保育を含め利用可能です。 |
| 認定基準<br>【整備基準 24】<br>2）専門研修プログラムの環境 | ・指導医が 5 名在籍しています。<br>・内科専門研修委員会は、基幹施設・連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。<br>・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。（2023 年度　医療安全 4 回、感染 2 回）<br>・研修施設群合同カンファレンスに定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。<br>・CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。（2023 年度実績 3 回）<br>・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 |
| 認定基準<br>【整備基準 24】<br>3)診療経験の環境 | ・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科を除く消化器・循環器・内分泌・代謝・腎臓・呼吸器・血液・神経・アレルギー・膠原病・感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例を診察しています。 |
| 認定基準<br>【整備基準 24】<br>4)学術活動の環境 | ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表をしています。<br>・臨床研究に必要な図書室などを整備しています。<br>・倫理委員会を設置し、定期的に開催しています。<br>・治験審査委員会を設置し、定期的に開催しています。 |
| 指導責任者 | 田中俊郎<br>【内科専門医へのメッセージ】<br>一部常勤医の居ないサブスペシャリティーが有るものの、それ以上は研修に充分な症例数が有り、充実した内科研修をおくることができる。<br>また、総合内科の臓器にとらわれない疾患検索、全身管理や治療を学ぶことが出来る。<br>当院は二次救急指定では有るが、年間 4,500 台前後の救急車搬入があり、うち半数近くが内科疾患による受診である。<br>常勤医の在職する科に関しては待機制も整っており、緊急検査・治療にも原則 24 時間対 |

| | |
|---|---|
| | 応している。 |
| 指導医数<br>(常勤医) | 日本内科学会指導医 5 名、日本内科学会総合内科専門医 2 名、<br>日本消化器病学会消化器専門医 1 名、日本循環器学会循環器専門医 4 名、日本内分泌学会専門医 1 名、日本糖尿病学会専門医 1 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 1 名、日本神経学会神経内科専門医 1 名、ほか |
| 外来・入院患者数 | 外来患者 671 名(1 ヵ月平均)　　入院患者 247 名(1 ヵ月平均延数) |
| 経験できる疾患群 | きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができます。 |
| 経験できる技術・技能 | 技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。 |
| 経験できる地域医療・診療連携 | 急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診、病病連携なども経験できます。<br>主に、プライマリケアに重点をおいた研修を行います。 |
| 学会認定施設<br>(内科系) | 日本内科学会認定医制度教育関連病院<br>日本消化器病学会認定施設<br>日本呼吸器学会認定施設<br>日本アレルギー学会認定教育施設<br>日本循環器学会認定循環器専門医研修施設<br>日本がん治療認定医機構認定研修施設 |

## 47. 西知多総合病院

| | |
|---|---|
| 認定基準<br>【整備基準 24】<br>1）専攻医の環境 | ・初期臨床研修制度大学型研修指定病院です。<br>・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。<br>・常勤医師もしくは医員として労務環境が保障されます。<br>・メンタルストレスに適切に対処する部署（人事管理室）があります。<br>・ハラスメント委員会が病院内に整備されています。<br>・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、シャワー室、仮眠室、当直室が整備されています。<br>・敷地内に院内保育所があり、病児保育、病後児保育を含め利用可能です。 |
| 認定基準<br>【整備基準 24】<br>2）専門研修プログラムの環境 | ・指導医が 7 名在籍しています（下記）。<br>・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。<br>・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。（2022 年度実績　医療倫理 0 回、医療安全 4 回、感染対策 3 回）<br>・研修施設群合同カンファレンス（2022 年度 1 回）を定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。<br>・CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。（2022 年度実績 1 回）<br>・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 |
| 認定基準<br>【整備基準 24】<br>3)診療経験の環境 | カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科を除く、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病、感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。<br>・専門研修に必要な剖検（2022 年度実績 5 体）を行っています。 |
| 認定基準<br>【整備基準 24】<br>4)学術活動の環境 | 日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表をしています。（2021 年度実績 1 演題） |
| 指導責任者 | 牧野光恭<br>【内科専攻医へのメッセージ】<br>当施設は平成27年 5 月に開院した知多半島北西部地域の中核病院で、この地域の救急・急性期医療を担って地域連携を推進しております。機器は最新のものが多く入っており、検査や治療も迅速に対応可能で ICU 管理も充実しております。研修は初期研修を含め意向合わせた柔軟なもので、診療科間の垣根も低く症例数も豊富なため、個人の希望に応じた充実した研修が可能です。 |

| | |
|---|---|
| 指導医数<br>(常勤医) | 日本内科学会指導医 7 名、日本内科学会総合内科専門医 13 名、日本消化器病学会消化器病専門医 3 名、日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門 3 名、日本循環器学会循環器専門医 5 名、日本糖尿病学会糖尿病専門医 2 名、日本内分泌学会内分泌代謝科専門医 1 名、日本腎臓病学会腎臓専門医 4 名、日本透析医学会透析専門医 1 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 2 名、日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医 2 名、日本アレルギー専門学会アレルギー専門医 2 名 |
| 外来・入院患者数 | 外来患者 16,850 名(1 ヵ月平均)　　入院患者 9,604 名(1 ヵ月平均延数) |
| 経験できる疾患群 | きわめて稀な症例を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができます。 |
| 経験できる技術・技能 | 技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。 |
| 経験できる地域医療・診療連携 | 急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診、病病連携なども経験できます。 |
| 学会認定施設<br>(内科系) | 日本内科学会認定医制度教育関連施設<br>日本消化器病学会専門医制度関連施設<br>日本呼吸器学会認定施設<br>日本腎臓病学会研修施設<br>日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設<br>日本循環器学会認定循環器専門医研修施設<br>日本脳卒中学会一次脳卒中センター(PSC)<br>日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設<br>日本呼吸器内視鏡学会認定気管支鏡認定施設<br>日本急性血液浄化学会認定指定施設<br>日本透析医学会教育関連施設<br>日本糖尿病学会認定教育施設<br>日本胆道学会指導施設<br>日本内分泌学会認定教育施設<br>日本神経学会准教育施設 |

## 48. 浜松医療センター

| | |
|---|---|
| 認定基準<br>【整備基準 24】<br>1) 専攻医の環境 | ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。<br>・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。<br>・シニアレジデントもしくは指導医診療医として労務環境が保障されます。<br>・メンタルヘルスに適切に対処する部署（健康管理室）があります。<br>・ハラスメント委員会が整備されています。<br>・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、シャワー室、仮眠室、当直室が整備されています。<br>・敷地内に院内保育所があり、病児保育、病後児保育を含め利用可能です。 |
| 認定基準<br>【整備基準 24】<br>2) 専門研修プログラムの環境 | ・指導医が 26 名在籍しています（下記）。<br>・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。<br>・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。（2023 年度実績　医療倫理 2 回、医療安全 8 回、感染対策 6 回）<br>・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。<br>・CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。（2023 年度実績 12 回）<br>・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。（2023 年度実績 49 回） |
| 認定基準<br>【整備基準 24】<br>3)診療経験の環境 | カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 |
| 認定基準<br>【整備基準 24】<br>4)学術活動の環境 | 日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表をしています。（2023 年度実績 4 演題） |
| 指導責任者 | 武藤真広<br>【内科専攻医へのメッセージ】<br>浜松医療センターは静岡県西部医療圏の中核病院として、主に急性期疾患の診断・治療を担っています。”安心・安全な、地域に信頼される病院”を基本理念として日常診療をおこなっています。救急救命センターでの救急搬送の受入数や循環器・消化器・呼吸器・血液・感染症の症例数は当地域のもっとも多い病院の一つになっています。いわゆる coomon desease はもちろんのこと、比較的まれな疾患群の経験も十分に可能と考えてい |

| | |
|---|---|
| | ます。 |
| 指導医数<br>(常勤医) | 日本内科学会指導医 26 名、日本内科学会総合専門医 11 名、日本消化器病学会専門医 7 名、日本循環器学会専門医 7 名、日本内分泌学会専門医 1 名、日本糖尿病学会専門医 2 名、日本腎臓病学会専門医 2 名、日本呼吸器学会専門医 4 名、日本血液学会専門医 3 名、日本神経学会専門医 3 名、日本アレルギー学会専門医 1 名、日本リウマチ学会専門医 2 名、日本感染症学会専門医 1 名、日本救急医学会専門医 1 名 |
| 外来・入院患者数 | 外来患者 19644 名(1 ヵ月平均)　　入院患者 13685 名(1 ヵ月平均延数) |
| 経験できる疾患群 | きわめて稀な症例を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができます。 |
| 経験できる技術・技能 | 技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。 |
| 経験できる地域医療・診療連携 | 急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診、病病連携なども経験できます。 |
| 学会認定施設<br>(内科系) | 日本内科学会認定医制度教育病院<br>日本消化器病学会認定施設<br>日本呼吸器学会認定施設<br>日本糖尿病学会認定教育施設<br>日本腎臓病学会研修施設<br>日本アレルギー学会認定教育施設<br>日本消化器内視鏡学会認定指導施設<br>日本循環器学会認定循環器専門医研修施設<br>日本老年医学会認定施設<br>日本肝臓学会認定施設<br>日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設<br>日本透析医学会認定医制度認定施設<br>日本血液学会認定研修施設<br>日本大腸肛門病学会専門医修練施設<br>日本神経学会専門医制度認定研修教育施設<br>日本脳卒中学会認定研修施設<br>日本神経学会専門医研修施設<br>日本内科学会認定専門医研修施設<br>日本老年医学会教育研修施設<br>日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設<br>日本東洋医学会研修施設 |

| | |
|---|---|
| | IDC/両室ペーシング植え込み認定施設<br>日本臨床腫瘍学会認定研修施設<br>日本感染症学会認定研修施設<br>日本がん治療認定医機構認定研修施設<br>日本高血圧学会高血圧専門医認定施設<br>ステントグラフト実施施設<br>日本緩和医療学会専門医認定制度認定研修施設<br>日本認知症学会教育施設<br>日本心血管インターベンション治療学会研修施設<br>など |

## 49. 知多半田総合医療センター

| | |
|---|---|
| 認定基準<br>【整備基準 24】<br>1）専攻医の環境 | ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。<br>・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。<br>・地方独立行政法人知多半田総合医療機構の常勤医師として労務環境が保障されています。<br>・メンタルヘルスに適切に対処します。<br>・ハラスメント委員会が設置されています。<br>・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。<br>・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。 |
| 認定基準<br>【整備基準 24】<br>2）専門研修プログラムの環境 | ・指導医が 12 名在籍しています。<br>・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。<br>・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し（2023 年度実績 14 回）、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。<br>・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。<br>・CPC を定期的に開催（2023 年度実績 4 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。<br>・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 |
| 認定基準<br>【整備基準 24】<br>3)診療経験の環境 | カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 |
| 認定基準<br>【整備基準 24】<br>4)学術活動の環境 | 日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2023 年度実績 6 演題）をしています。 |
| 指導責任者 | 山本　寿彦<br>【内科専攻医へのメッセージ】<br>知多半田総合医療センターは、2025 年 4 月に半田市立半田病院と常滑市民病院が経営統合し、新築移転して開院する病院です。2 つの離島を含む知多半島医療圏の中心的な急性期病院であり、近隣医療圏にある連携施設とで内科専門研修を行い、地域住民に信頼される内科専門医を目指します。<br>主担当医として、入院から退院（初診・入院～退院・通院）」まで、診断・治療の |

| | |
|---|---|
| | 流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医を育成しています。 |
| 指導医数<br>(常勤医) | 日本内科学会指導医 12 名、日本内科学会総合内科専門医 13 名、<br>日本消化器病学会専門医 8 名、日本循環器学会専門医 5 名、<br>日本呼吸器学会専門医 3 名、日本腎臓病学会専門医 3 名、<br>日本糖尿病学会専門医 1 名、日本内分泌学会専門医 1 名、<br>日本神経学会専門医 1 名、日本アレルギー学会専門医 1 名、<br>日本リウマチ学会専門医 1 名、日本救急医学会専門医 3 名 |
| 外来・入院患者数 | 外来患者 16.898 名(1 ヵ月平均)　　入院患者 11,192 名(1 ヵ月平均延数) |
| 経験できる疾患群 | きわめて稀な症例を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。 |
| 経験できる技術・技能 | 技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。 |
| 経験できる地域医療・診療連携 | 急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診、病病連携なども経験できます。 |
| 学会認定施設<br>(内科系) | 日本内科学会認定医制度教育病院<br>日本消化器病学会専門医制度認定施設<br>日本循環器学会認定循環器専門医研修施設<br>日本呼吸器学会認定施設<br>日本腎臓病学会研修施設<br>日本脳卒中学会認定研修教育病院<br>日本救急医学会救急科専門医指定施設<br>日本がん治療認定医機構認定研修施設<br>日本消化器内視鏡学会認定指導施設<br>日本肝臓学会専門医関連施設<br>植え込み型徐細動器/両室ペーシング植え込み認定施設<br>日本心血管インターベンション治療学会認定研修施設<br>日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設<br>日本高血圧学会高血圧専門医認定施設<br>日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医制度認定施設<br>日本透析医学会認定医制度認定施設<br>腹部ステントグラフト実施施設<br>など |

## 50. 東名古屋病院

| | |
|---|---|
| 認定基準<br>【整備基準 24】<br>1）専攻医の環境 | ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。<br>・独立行政法人国立病院機構常勤（または非常勤）医師として労務環境が保障されます。<br>・ハラスメントに適切に対応する部署（管理課担当職員）があります。<br>・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、シャワー室、仮眠室、当直室が整備されています。<br>・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。 |
| 認定基準<br>【整備基準 24】<br>2）専門研修プログラムの環境 | ・指導医（日本内科学会）が 11 名在籍しています（下記）。<br>・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。<br>・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2023 年度実績　医療倫理 1 回、医療安全 2 回、感染対策 2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。<br>・研修施設群合同カンファランス（2024 年度予定）を定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。<br>・CPC を定期的に開催（2023 年度実績 2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。<br>・地域参加型のカンファランスを定期的に開催（2023 年度実績 2 回）し、専攻医に受講を義務付けそのための時間的余裕を与えます。 |
| 認定基準<br>【整備基準 24】<br>3）診療経験の環境 | カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、脳神経内科、呼吸器内科の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 |
| 認定基準<br>【整備基準 24】<br>4）学術活動の環境 | 日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2023 年度実績 1 演題）を予定しています。 |
| 指導責任者 | 中川　拓<br>【内科専攻医へのメッセージ】<br>独立行政法人国立病院機構東名古屋病院は名古屋市の東部にあり日進市に隣接しています。急性期一般病棟 42 床、回復期リハビリテーション病棟 60 床、結核病棟 40 床、神経難病・障害者病棟 137 床、重度心身障害児（者）病棟 50 床、の計 329 床を有し周辺地域および近隣の県市からも患者を受け入れ医療を展開しています。また高齢化社会・在宅医療推進の観点から地域包括ケアシステムの構築が重要であり、名古屋市医師会と共同で当該地区のシステム構築をおこなっています。当院は神経難病・脳卒中を核とする神経内科領域および感染症・慢性呼吸不全呼吸器管理を核とする呼吸器内科領域の |

| | |
|---|---|
| | スタッフおよび診療患者数の充実を特徴としており、他では得られない知識や技術を修得することができます。名古屋大学医学部付属病院・名古屋医療センター・中部ろうさい病院を基幹施設とする内科専門医研修プログラムの連携施設として内科専門研修をおこない、内科専門医の育成をおこないます。 |
| 指導医数<br>(常勤医) | 日本内科学会指導医 11 名、日本内科学会総合専門医 12 名<br>日本消化器病学会専門医 1 名<br>日本呼吸器学会指導医 3 名・専門医 4 名<br>日本呼吸器内視鏡学会専門医 1 名<br>日本結核・非結核性抗酸菌症学会指導医 5 名<br>日本神経学会指導医 6 名・専門医 8 名 |
| 外来・入院患者数 | 外来患者 3,100 名(1 ヵ月平均)　　入院患者 264 名(1 日平均) |
| 経験できる疾患群 | きわめて稀な症例を除いて、研修手帳にある神経内科領域および呼吸器内科領域の症例を幅広く経験することができます。 |
| 経験できる技術・技能 | 技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。 |
| 経験できる地域医療・診療連携 | 急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診、病病連携なども経験できます。当院は当該地区の地域包括ケアシステム構築に参加している病院です。 |
| 学会認定施設<br>(内科系) | 日本内科学会認定医制度教育関連病院<br>日本神経学会専門医制度教育施設<br>日本脳卒中学会認定研修施設<br>日本呼吸器学会認定施設<br>など |

## 51. 碧南市民病院

| | |
|---|---|
| 認定基準<br>【整備基準 24】<br>1) 専攻医の環境 | ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。<br>・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。<br>・碧南市民病院常勤医師として労務環境が保障されています。<br>・メンタルヘルスに適切に対処します。<br>・ハラスメントに適切に対処します。<br>・女性専攻医が安心して勤務できるように、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。<br>・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。 |
| 認定基準<br>【整備基準 24】<br>2) 専門研修プログラムの環境 | ・指導医が 7 名在籍しています。<br>・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。<br>・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催(2022 年度実績 医療倫理 1 回、医療安全 2 回、感染対策 2 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。<br>・CPC を定期的に開催(2022 年度実績 4 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。<br>・地域参加型のカンファレンス(ケースカンファレンス)を定期的に開催(2022 年度実績 4 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 |
| 認定基準<br>【整備基準 24】<br>3)診療経験の環境 | ・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、全分野(少なくても 7 分野以上)で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。<br>・70 疾患群のうちほぼ全疾患群について研修できます。 |
| 認定基準<br>【整備基準 24】<br>4)学術活動の環境 | ・臨床研究に必要な図書室などを整備しています。<br>・倫理委員会を設置し、講演会も定期的に開催(2022 年度実績 1 回(動画配信))しています。<br>・日本内科学会講演会あるいは同地方会に学会発表(2022 年度実績 2 演題)しています。 |
| 指導責任者 | 土井英樹<br>【内科専攻医へのメッセージ】<br>碧南市民病院は愛知県西三河南部西医療圏における二次救急医療機関です。また、地域包括ケア病棟を有しており、急性期医療のみならず、超高齢社会にむけて地域に根ざした病診・病病連携にも力を入れています。<br>各専門領域のみではなく、主担当医として、社会的背景、療養環境調整も包括する全人的医療を実践できる内科専門医となれるよう教育に力を入れています。 |
| 指導医数 | 日本内科学会指導医 7 名、日本内科学会総合内科専門医 8 名、 |

| | |
|---|---|
| (常勤医) | 日本消化器病学会消化器専門医 2 名、日本循環器学会循環器専門医 2 名、日本糖尿病学会専門医 1 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 2 名、日本神経学会神経内科専門医 5 名、日本アレルギー学会専門医(内科)2 名、日本リウマチ学会専門医 1 名　ほか |
| 外来・入院患者数 | 外来患者 545 名(1 日平均)　　入院患者 151 名(1 日平均) |
| 経験できる疾患群 | きわめて稀な症例を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができます。 |
| 経験できる技術・技能 | 技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。 |
| 経験できる地域医療・診療連携 | 急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診、病病連携なども経験できます。<br>主に、プライマリケアに重点をおいた研修を行います。 |
| 学会認定施設(内科系) | 専門研修プログラム(内科領域)連携施設<br>日本呼吸器学会認定施設<br>日本アレルギー学会認定教育施設<br>日本循環器学会認定循環器専門医研修施設<br>日本神経学会専門医制度認定研修教育施設<br>日本脳卒中学会認定研修施設<br>日本がん治療認定医機構認定研修施設 |

52. 南生協病院

| | |
|---|---|
| 認定基準<br>【整備基準 24】<br>1) 専攻医の環境 | ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。<br>・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。<br>・シニアレジデントもしくは指導医診療医として労務環境が保障されます。<br>・メンタルヘルスに適切に対処する部署(健康管理室)があります。<br>・ハラスメント委員会が整備されています。<br>・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、シャワー室、仮眠室、当直室が整備されています。<br>・敷地内に院内保育所があり、病児保育、病後児保育を含め利用可能です。 |
| 認定基準<br>【整備基準 24】<br>2) 専門研修プログラムの環境 | ・指導医が 8 名在籍しています(下記)。<br>・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。<br>・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。(2023 年度実績 医療倫理 4 回、医療安全 10 回、感染対策 10 回)<br>・研修施設群合同カンファレンス(2023 年度予定)を定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。<br>・CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。(2023 年度実績 5 回)<br>・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。(2023 年度予定 3 回) |
| 認定基準<br>【整備基準 24】<br>4)学術活動の環境 | 日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表をしています。(2023 年度実績 5 演題) |
| 指導責任者 | プログラム統括責任者 水野裕元 副統括責任者 長田芳幸<br>【内科専攻医へのメッセージ】<br>南生協病院は 2010 年に現在の南大高駅前に移転ました。移転では「地域の協同でつくる 健康なまちづくり支援病院」をかかげ地域住民の意見を集めました。その結果、「あいちまちなみ賞」「福祉建築賞」他を「地域住民の声を集めた病院」として評価されました。移転後は緑区を中心とした名古屋南部地域の二次急性期医療を担い救急搬送、外来患者数が増加しています。また、同じ法人内に回復期リハ病院、在宅診療所、4 つの内科系診療所および訪問看護ステーション、老人保健施設、高齢者住宅など医療・介護の多機能の複数の施設を有しており、病病連携、病診連携および施設との連携や地域住民との交流にも力を入れています。地域の高齢化をうけて、「病院で治す」から「地域で治し支える」医療・介護の地域住民を巻き込んだ実践は、2014 年には厚生労働省の「地域包括ケ |

| | |
|---|---|
| | ア実践 100 のモデル」にも選ばれました。このような背景があり、当院では入院中のみではなく地域の生活まで幅広い視野を養う研修が可能です。 |
| 指導医数<br>(常勤医) | 日本内科学会指導医 8 名、日本内科学会総合内科専門医 6 名、日本消化器病学会専門医 3 名、日本循環器学会専門医 2 名、日本糖尿病学会専門医 1 名、日本腎臓病学会専門医 1 名 |
| 外来・入院患者数 | 外来患者 15,398 名(1 ヵ月平均)　　入院患者 453 名(1 ヵ月平均延数) |
| 経験できる疾患群 | きわめて稀な症例を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができます。 |
| 経験できる技術・技能 | 技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。 |
| 経験できる地域医療・診療連携 | 急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診、病病連携なども経験できます。 |
| 学会認定施設<br>(内科系) | 日本内科学会認定医制度教育病院<br>日本消化器病学会認定施設<br>日本消化器内視鏡学会認定指導施設<br>日本循環器学会認定循環器専門医研修施設<br>日本肝臓学会認定施設<br>日本内科学会認定専門医研修施設<br>日本緩和医療学会専門医認定制度認定研修施設<br>など |

53. 名城病院

| | |
|---|---|
| 認定基準<br>【整備基準 24】<br>1）専攻医の環境 | ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。<br>・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。<br>・名城病院常勤医師として労務環境が保障されています。<br>・メンタルストレスに適切に対処する部署（健康管理室）があります。<br>・ハラスメント委員会が名城病院に整備されています。<br>・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、<br>シャワー室、当直室が整備されています。<br>・名城病院職員が利用可能な保育施設があります。 |
| 認定基準<br>【整備基準 24】<br>2）専門研修プログラムの環境 | ・指導医が 5 名在籍しています。<br>・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。<br>・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2023 年度実績　医療倫理 1 回、医療安全 2 回、感染対策 2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。<br>・研修施設群合同カンファレンス（2023 年度実績 2 回）を定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。<br>・CPC を定期的に開催（2023 年度実績 4 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。<br>・地域参加型のカンファレンス（2022 年度実績 2 回）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 |
| 認定基準<br>【整備基準 24】<br>3)診療経験の環境 | カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、循環器、呼吸器、腎臓、代謝、感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 |
| 認定基準<br>【整備基準 24】<br>4）学術活動の環境 | 日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2023 年度実績 4 演題）をしています。 |
| 指導責任者 | 水谷太郎<br>【内科専攻医へのメッセージ】<br>名城病院は名古屋市中区に位置する総病床数 326 床（急性期一般病棟 279 床、地域包括ケア病棟 47 床）の北・西・中・東区地域における中心的な急性期病院の一つです。春日井市民病院を基幹施設とする内科専門研修プログラムの連携施設として内科専門研修を行い，内科専門医の育成を行います．名古屋市の第二次救急医療体制の一翼を担っており、特に内科系は積極的に救急患者を受入れています。また愛知県から地域医療 |

| | |
|---|---|
| | 支援病院の認定を受けており、地域の診療所との医療連携を経験することができます。また地域包括ケア病棟では、急性期の治療が終了し在宅医療へ移行するまでの患者さんの診療も経験することができます。<br>基本的な検査や治療手技は指導医のもとで専攻医が積極的に行う教育体制をとっており、主治医として個々の患者の病状に応じた治療と、説明・対話を重視した患者満足度の高い診療を目指します。消化器内科では、内視鏡センターを設置し上部・下部消化器内視鏡検査や治療、小腸カプセル内視鏡、ERCP 関連の治療、ラジオ波焼灼療法、肝動脈塞栓療法等を、循環器科では、24 時間体制であらゆる循環器救急疾患の診療から慢性期までの管理と、PCI、EVT、ペースメーカー留置やカテーテルアブレーションなどのインターベンション治療を、呼吸器内科では、呼吸器疾患全般への迅速かつ適切な対応を目標にしており、バーチャル気管支鏡の使用や多職種連携による包括的呼吸リハビリテーションおよび人工呼吸器・NPPV 等の呼吸管理法を、腎臓内科では、末期腎不全から透析導入、維持透析に至る診療の流れを、糖尿病・内分泌内科では糖尿病の治療や合併症評価、周術期における血糖管理、内分泌疾患の診断や治療をそれぞれ経験できます。 |
| 指導医数<br>(常勤医) | 日本内科学会指導医 5 名、日本内科学会総合内科専門医 8 名、日本消化器病学会消化器専門医 6 名、日本循環器学会循環器専門医 6 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 3 名、日本肝臓学会専門医 2 名、日本腎臓学会指導医 1 名、日本透析医学会指導医 1 名、日本糖尿病学会糖尿病専門医・研修指導医 2 名、日本内分泌学会内分泌代謝科専門医 1 名 |
| 外来・入院患者数 | 外来患者 8974 名(1 ヵ月平均)　　入院患者 7009 名(1 ヵ月平均延数) |
| 経験できる疾患群 | きわめて稀な症例を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができます。 |
| 経験できる技術・技能 | 技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。 |
| 経験できる地域医療・診療連携 | 急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診、病病連携なども経験できます。 |
| 学会認定施設<br>(内科系) | 日本内科学会認定制度教育関連病院<br>日本消化器病学会認定施設<br>日本呼吸器学会認定施設<br>日本内分泌学会認定教育施設<br>日本透析医学会教育関連施設<br>日本消化器内視鏡学会認定指導施設<br>日本循環器学会認定循環器専門医研修施設<br>日本がん治療認定医機構認定研修施設 |

54. 名鉄病院

| | |
|---|---|
| 認定基準<br>【整備基準 24】<br>2）専門研修プログラムの環境 | ・指導医が 16 名在籍しています。<br>・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。（2023 年度実績　医療倫理 1 回、医療安全 12 回、感染対策 4 回）<br>・CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。（2023 年度実績 5 回）<br>・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。（2023 年度実績 7 回） |
| 認定基準<br>【整備基準 24】<br>4)学術活動の環境 | 日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 2 演題の学会発表をしています。（2022 年度実績 6 演題） |
| 指導責任者 | 前田惠子<br>【内科専攻医へのメッセージ】<br>内科全般に common disease を中心に豊富な症例を経験できます。救急は二次救急ですが、二次救急病院としては症例は極めて豊富です。軽症から重症まで幅広い症例を経験できます。診療科毎の垣根が低く、すぐ病院に慣れ、あなたの能力を十分発揮できます。 |
| 指導医数<br>(常勤医) | 日本内科学会指導医 5 名、日本内科学会総合専門医 11 名、<br>日本消化器病学会専門医 5 名、日本循環器学会専門医 7 名、<br>日本内分泌学会専門医 2 名、日本糖尿病学会専門医 4 名、<br>日本呼吸器学会専門医 1 名、日本神経学会専門医 3 名、<br>日本腎臓病学会専門医 1 名 |
| 外来・入院患者数 | 外来患者 16,829 名（1 ヵ月平均）　　入院患者 9,095 名（1 ヵ月平均延数） |
| 学会認定施設<br>(内科系) | 日本内科学会認定医制度教育病院<br>日本消化器病学会認定施設<br>日本糖尿病学会認定教育施設<br>日本消化器内視鏡学会認定指導施設<br>日本循環器学会認定循環器専門医研修施設<br>日本肝臓学会認定施設<br>日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設<br>日本神経学会専門医制度認定研修教育施設<br>日本脳卒中学会認定研修施設<br>日本内分泌学会内分分泌代謝科認定教育施設<br>日本動脈硬化学会専門医制度教育施設　など |

## 55. 八千代病院

| | |
|---|---|
| 認定基準<br>【整備基準 24】<br>1）専攻医の環境 | ・初期臨床研修制度連携型研修指定病院です。<br>・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。<br>・八千代病院常勤医師として労務環境が保障されます。<br>・メンタルヘルスに適切に対処します。<br>・女性専攻医が安心して勤務できるように、更衣室、シャワー室、仮眠室、当直室が整備されています。<br>・近隣の職員寮敷地内に院内保育所があり、利用することが可能です。 |
| 認定基準<br>【整備基準 24】<br>2）専門研修プログラムの環境 | ・指導医が 10 名在籍しています（下記）。<br>・内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者、プログラム管理者、各診療部長）にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会と連携を図ります。<br>・基幹施設内においても研修する専攻医の研修を管理する内科専門医研修委員会を設置します。<br>・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2022 年度実績　医療倫理 1 回、医療安全 2 回、感染対策 2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。<br>・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。<br>・CPC を定期的に開催（2022 年度実績 1 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。<br>・地域参加型のカンファレンス（内科体験学習集談会、救急合同カンファレンス、安城市医師会との講演会・症例検討会）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。<br>・JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 |
| 認定基準<br>【整備基準 24】<br>3)診療経験の環境 | ・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。<br>・70 疾患群のうちほぼ全疾患群について研修できます。（上記）<br>・専門研修に必要な剖検（2022 年度実績 1 体）を行っています。 |
| 認定基準<br>【整備基準 24】<br>4)学術活動の環境 | ・臨床研修に必要な図書室などを整備しています。<br>・倫理委員会を設置し、講演会も定期的に開催しています。<br>・治験管理室を設置し、定期的に受託研究審査会を開催しています。<br>・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表をしています。<br>・その他各専門学会などに 2022 年度発表は、演題 4、著書・論文は 0 でした。 |
| 指導責任者 | 白井修<br>【内科専攻医へのメッセージ】 |

| | |
|---|---|
| | 八千代病院は、愛知県西三河南部西医療圏の急性期病院であり、名古屋大学の関連施設として、豊田厚生病院、江南厚生病院の連携施設として内科専門研修を行い、地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。もともと小規模ながら多くの院長・教授を輩出した病院であり研修医から各専門科の垣根なくアットホームな感覚で研修ができます。医師免許を取得してから６年間に医師として技量と責任と度胸を十分に学んでいただきたく思います。 |
| 指導医数<br>(常勤医) | 日本内科学会指導医 5 名、日本内科学会総合専門医10 名、日本消化器病学会指導医2名、専門医 4 名、日本循環器学会専門医3名、日本糖尿病学会指導医 1 名、専門医 4 名、日本内分泌代謝学会指導医 1 名、専門医 2 名、日本腎臓病学会専門 2 名、日本呼吸器学会専門医 2 名、日本神経学会専門医 1 名、日本肝臓学会専門医 2 名、日本救急医学会専門医 2 名、日本アレルギー学会専門医 3 名 |
| 外来・入院患者数 | 外来患者 251 名(1 日平均)　　入院患者 72 名(1 日平均) |
| 経験できる疾患群 | きわめて稀な症例を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。 |
| 経験できる技術・技能 | 技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。 |
| 経験できる地域医療・診療連携 | 急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診、病病連携なども経験できます。 |
| 学会認定施設<br>(内科系) | 日本内科学会認定医制度教育関連病院<br>日本消化器病学会専門医制度認定施設<br>日本消化器内視鏡学会指導施設<br>日本消化管学会胃腸科指導施設<br>日本カプセル内視鏡学会指導施設<br>日本肝臓学会関連施設<br>日本循環器学会専門医研修関連施設<br>日本糖尿病学会認定教育施設<br>日本アレルギー学会アレルギー専門医教育研修施設<br>日本内分泌学会認定教育施設<br>日本甲状腺学会認定専門医施設　など |

## 56. 国立長寿医療研究センター

| | |
|---|---|
| 認定基準<br>【整備基準 24】<br>1) 専攻医の環境 | ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。<br>・シニアレジデントもしくは指導医診療医として労務環境が保障されます。<br>・メンタルヘルスに適切に対処する部署（労務管理室）があります。<br>・ハラスメント委員会が整備されています。<br>・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、シャワー室、仮眠室、当直室が整備されています。<br>・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。 |
| 認定基準<br>【整備基準 24】<br>2) 専門研修プログラムの環境 | ・内科指導医が 29 名在籍しています（下記）。<br>・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。<br>・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。（2023 年度実績　医療倫理 1 回、医療安全 2 回、感染対策 2 回）<br>・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。<br>・CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。（2023 年度実績 4 回）<br>・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。（2023 年度実績 3 回） |
| 認定基準<br>【整備基準 24】<br>3)診療経験の環境 | カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 |
| 認定基準<br>【整備基準 24】<br>4)学術活動の環境 | 日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表をしています。（2023 年度実績 4 演題） |
| 指導責任者 | 松浦俊博<br>【内科専攻医へのメッセージ】<br>高齢者医療の専門施設であり、今後増加する高齢者に対する総合的な研修が可能です。36 人の内科医のうち 21 名が総合内科専門医で 20 名が臨床研修指導医であり強力な指導医態勢です。また研究センターであることから、将来臨床研究をしていきたいと希望される先生には関連研修会も多く魅力的な環境と思います。 |
| 指導医数<br>(常勤医) | 日本内科学会指導医 29 名、日本内科学会総合専門医 21 名、日本消化器病学会専門医 5 名、日本循環器学会専門医 5 名、日本糖尿病学会専門医 5 名、日本内分泌学会内 |

| | |
|---|---|
| | 分泌専門医 1 名、日本呼吸器学会専門医 2 名、日本血液学会専門医 1 名、日本神経学会専門医 8 名、日本アレルギー学会専門医 1 名、日本老年医学会専門医 8 名 |
| 外来・入院患者数 | 646.6 名（1 日平均外来患者数）<br>266.8 名（1 日平均在院患者数） |
| 経験できる疾患群 | きわめて稀な症例を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができます。 |
| 経験できる技術・技能 | 技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。 |
| 経験できる地域医療・診療連携 | 急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診、病病連携なども経験できます。 |
| 学会認定施設<br>(内科系) | 日本内科学会認定医制度教育病院<br>日本消化器病学会認定施設<br>日本内分泌学会連携医療施設<br>日本呼吸器学会認定施設<br>日本アレルギー学会認定教育施設<br>日本老年医学会認定施設<br>日本血液学会専門研修認定施設<br>日本神経学会専門医制度教育施設<br>日本認知症学会専門医制度教育施設<br>日本糖尿病学会認定教育施設<br>日本循環器病学会循環器専門医研修施設<br>など |

## 57. 藤田医科大学病院

| | |
|---|---|
| 認定基準<br>【整備基準 24】<br>1）専攻医の環境 | ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。<br>・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。<br>・シニアレジデントもしくは指導医診療医として労務環境が保障されています。<br>・メンタルヘルスに適切に対処する部署（健康管理室）があります。<br>・ハラスメント委員会が整備されています。<br>・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。<br>・敷地内に院内保育所があり、病児保育、病後児保育を含め利用可能です。 |
| 認定基準<br>【整備基準 24】<br>2）専門研修プログラムの環境 | ・指導医が 59 名在籍しています。（下記）<br>・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。<br>・医療倫理・医療安全・感染対策に関する認定共通講習を開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。<br>・研修施設群合同カンファレンスに定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。（2022 年度実績 17 回）<br>・CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。<br>・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 |
| 認定基準<br>【整備基準 24】<br>3)診療経験の環境 | カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科を除く、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病、感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 |
| 認定基準<br>【整備基準 24】<br>4)学術活動の環境 | 日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表をしています。（2022 年度実績 6 演題） |
| 指導責任者 | 冨田章裕<br>【内科専攻医へのメッセージ】<br>藤田医科大学病院には 12 の内科系診療科（救急医学・総合内科,循環器内科、呼吸器内科・アレルギー科、消化器内科、血液内科、リウマチ・膠原病内科、腎臓内科、内分泌・代謝・糖尿病内科、臨床腫瘍科、脳神経内科、認知症・高齢診療科、感染症科）があります．また，高度救命救急センター（NCU,CCU,救命 ICU,GICU,ER,災害外傷センター）も充実しており、各科とも救急患者の受け入れを積極的に行っています。藤田医科大学病院における入院、外来診療症例数はきわめて豊富であり、内科疾患の全般を網羅的に経 |

| | |
|---|---|
| | 験できる環境にあります。大学病院、特定機能病院としての専門的高度先進医療から尾張東部医療圏の中核病院としての一般臨床、救急医療まで幅広い症例を経験することが可能です。院内では各科のカンファレンスも充実しており、またキャンサーボードやゲノム医療などの多職種合同カンファレンスほか、アレルギー研究会など科を越えた勉強会検討会も数多く実施しております。藤田医科大学病院は、内科専攻医の学びたい気持ちを育む環境の提供に日々心がけています。 |
| 指導医数<br>(常勤医)<br>2024 年 4 月 1 日現在 | 日本内科学会指導医 59 名、日本内科学会総合内科専門医 55 名、日本消化器病学会消化器専門医 18 名、日本循環器学会循環器専門医 17 名、日本内分泌学会専門医 7 名、日本糖尿病学会専門医 8 名、日本腎臓病学会専門医 8 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 18 名、日本血液学会血液専門医 10 名、日本神経学会神経内科専門医 7 名、日本アレルギー学会専門医(内科)1 名、日本リウマチ学会専門医 3 名、日本感染症学会専門医 4 名、日本救急医学会救急科専門医 18 名 |
| 外来・入院患者数 | 外来患者 3,507.5 名(2022 年度一日平均)　　入院患者 1,331.0 名(2022 年度一日平均) |
| 経験できる疾患群 | きわめて稀な症例を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができます。 |
| 経験できる技術・技能 | 技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。 |
| 経験できる地域医療・診療連携 | 急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診、病病連携なども経験できます。 |
| 学会認定施設<br>(内科系) | 日本内科学会認定制度専門研修プログラム<br>日本リウマチ学会教育施設<br>日本感染症学会研修施設<br>日本甲状腺学会認定専門医施設<br>日本消化器病学会認定施設<br>日本呼吸器学会専門研修プログラム<br>日本糖尿病学会認定教育施設<br>日本腎臓病学会教育施設<br>日本アレルギー学会認定教育施設<br>日本消化器内視鏡学会認定指導施設<br>日本循環器学会認定循環器専門医研修施設<br>日本老年医学会認定施設<br>日本肝臓学会認定施設<br>日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設<br>日本透析医学会認定医制度認定施設 |

| | |
|---|---|
| | 日本血液学会認定研修施設<br>日本神経学会専門医制度認定教育施設<br>日本脳卒中学会認定研修教育病院<br>日本呼吸器内視鏡学会認定施設<br>日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設<br>日本臨床腫瘍学会認定研修施設<br>日本がん治療認定医機構認定研修施設<br>日本高血圧学会高血圧専門医研修施設<br>日本緩和医療学会認定研修施設<br>日本心血管インターベンション治療学会研修施設 |

参考. 名古屋大学医学部附属病院

| | |
|---|---|
| 認定基準<br>【整備基準 24】<br>1）専攻医の環境 | ・初期臨床研修制度大学型研修指定病院です。<br>・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。<br>・医員として労務環境が保障されます。<br>・メンタルヘルスに適切に対処します。<br>・ハラスメントに適切に対処します。<br>・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、シャワー室、仮眠室、当直室が整備されています。<br>・敷地内に院内保育所があり、病児保育、病後児保育を含め利用可能です。 |
| 認定基準<br>【整備基準 24】<br>2）専門研修プログラムの環境 | ・指導医が 76 名在籍しています（下記）。<br>・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。<br>・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。（2022 年度実績　医療倫理 0 回、医療安全 3 回、感染対策 3 回）<br>・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。<br>・CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。（2022 年度実績 7 回） |
| 認定基準<br>【整備基準 24】<br>3)診療経験の環境 | カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 |
| 認定基準<br>【整備基準 24】<br>4)学術活動の環境 | 日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表をしています。 |
| 指導責任者 | 川嶋啓揮<br>【内科専攻医へのメッセージ】<br>当施設は名大病院基幹プログラムを作成しています。一度病態内科のホームページ(https://www.med.nagoya-u.ac.jp/naika/)をご覧いただければと思います。名古屋大学の内科専門医育成の考え方を理解いただけると考えています。施設カテゴリーでは、”アカデミア”と呼ばれるものに分類されることが多いです。名大病院へ異動を行なう研修を行なうメリットは、【アカデミアへのアーリー・エクスポージャー】ができることだと思います。平成 28 年 1 月に名大病院は「臨床研究中核病院」に認定されました。皆さんが初期研修・内科専攻医研修期間の臨床経験から芽生えた臨 |

| | |
|---|---|
| | 床的課題を解決する方法を、この【アカデミアへのアーリー・エクスポージャー】からイメージをつかんでもらえるとよいと考えています。 |
| 指導医数<br>(常勤医) | 日本内科学会指導医 76 名、日本内科学会総合内科専門医 112 名、日本消化器病学会専門医 53 名、日本循環器学会専門医 38 名、日本内分泌学会専門医 19 名、日本糖尿病学会専門医 17 名、日本腎臓病学会専門医 31 名、日本呼吸器学会専門医 28 名、日本血液学会専門医 21 名、日本神経学会専門医 50 名、日本アレルギー学会専門医 1 名、日本老年医学会専門医 9 名　ほか |
| 外来・入院患者数 | 外来患者 42,683 名（1 ヵ月平均）　　入院患者 1,929 名（1 ヵ月平均延数） |
| 経験できる疾患群 | きわめて稀な症例を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができます。 |
| 経験できる技術・技能 | 技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。 |
| 経験できる地域医療・診療連携 | 急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診、病病連携なども経験できます。 |
| 学会認定施設<br>(内科系) | 日本内科学会認定医制度教育病院<br>日本消化器病学会認定施設<br>日本呼吸器学会認定施設<br>日本糖尿病学会認定教育施設<br>日本腎臓病学会研修施設<br>日本アレルギー学会認定教育施設<br>日本循環器学会認定循環器専門医研修施設<br>日本老年医学会認定施設<br>日本肝臓学会認定施設<br>日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設<br>日本透析医学会認定医制度認定施設<br>日本血液学会認定血液研修施設<br>日本大腸肛門病学会専門医修練施設<br>日本神経学会専門医制度認定研修教育施設<br>日本脳卒中学会認定研修施設<br>日本呼吸器内視鏡学会認定施設<br>日本内科学会認定専門医研修施設<br>日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設<br>日本東洋医学会研修施設<br>日本臨床腫瘍学会認定研修施設 |

| | |
|---|---|
| | 日本肥満学会認定肥満症専門病院<br>日本感染症学会認定研修施設<br>日本がん治療認定医機構認定研修施設<br>日本高血圧学会高血圧専門医認定施設<br>日本緩和医療学会専門医認定制度認定研修施設<br>日本認知症学会教育施設<br>日本心血管インターベンション治療学会研修施設<br>など |

新専門医制度　内科領域

# 名古屋大学医学部附属病院
# 基幹プログラム

# 名古屋大学医学部附属病院
# 内科専門研修プログラム

# 名大病院内科専門研修プログラム
# 指導医マニュアル

**1) 専攻医研修マニュアルの記載内容に対応したプログラムにおいて期待される指導医の役割**

・専攻医 1 人に対して 1 人の担当指導医（メンター）が名大病院内科専門研修プログラム委員会により決定されます。

・担当指導医は、専攻医が web にて専攻医登録評価システム（J-OSLER）にその研修内容を登録するので、その履修状況の確認をシステム上で行なってフィードバックの後にシステム上で承認をします。フィードバック、および、承認が滞らないように、この作業は日常臨床業務の中で順次行なっていきます。

・担当指導医は、専攻医がそれぞれの年次で登録した疾患群、症例の内容について、都度、評価・承認します。

・担当指導医は専攻医と十分なコミュニケーションを取り、J-OSLER での専攻医による症例登録の評価や名大病院内科専門研修プログラム委員会からの報告などにより研修の進捗状況を把握します。専攻医はローテーション診療科の研修責任者と面談して、専攻医が経験すべき症例について報告・相談します。担当指導医とローテーション診療科の研修責任者は、専攻医が充足していないカテゴリー内の疾患を可能な範囲で経験できるように、外来・病棟医長等と主担当医の割り振りを調整します。

・担当指導医はローテーション診療科の研修責任者と協議して、知識、技能の評価を行ないます。

・担当指導医は専攻医が専門研修（専攻医）2 年修了時までに合計 29 症例の病歴要約を作成することを促進して、内科専門医ボードによる査読・評価で受理（アクセプト）されるように病歴要約について確認して、形成的な指導を行ないます。

・内科専攻医は、研修開始から 12 カ月の期間で 2 カ月毎のローテーション研修を行ないます。各内科専攻医の担当指導医は、ローテーション診療科の研修責任者と密に連携をとって、担当内科専攻医が適切に症例を経験できるように調整を行ないます。また、研修手帳内の疾患群項目表に含まれる疾患群の中に含まれる 2 カ月毎のローテーション研修期間内においても経験しない症例については、J-OSLER などを活用して各内科専攻医の経験症例数の集積状況を把握しながら、2 カ月毎のローテーション研修以外に 3 年間の研修期間を通じて担当内科専攻医が主担当医として症例経験できる支援を行ないます。

・研修開始から 12(~18)カ月の期間でのローテーション研修を行なうことによって特定の分野に偏らない内科全分野において主担当者として 56 疾患群、160 症例以上を症例登録して、内科専門医ボードによる評価に合格できる 29

症例の病歴要約が作成できるように支援していきます。この研修によって、本プログラム内に参画する連携施設への異動を伴う研修の際に、経験症例登録にとらわれない研修ができる環境を整えます。結果、さまざまな環境に対応できる内科キャリアパスを構築できることが期待されます。また、連携病院において初期研修を行なった後に本プログラムへ参加する場合には、その病院からプログラムを開始していく選択を許容しています。その場合研修開始から 12 カ月の研修期間での経験症例数に応じて、残りの経験必要症例を算出します。基幹病院である名大病院での原則 12 カ月以上の研修を通じて算出された必要症例を経験できる環境を整えています。その結果、当基幹プログラムに参加した内科専攻医全員が 56 疾患群、160 症例以上を症例登録して、内科専門医ボードによる評価に合格できる 29 症例の病歴要約が作成できるように支援していきます。

・本内科研修プログラムは 12 カ月以上の異動を伴う必須研修を含んでいます。異動を伴う必須研修は内科専門研修 3 年目（physician scientist コースは内科専門研修 2 年目）を想定していますが、その期間内での研修時期、研修期間、研修施設数は、各内科専攻医によって様々であります。各内科専攻医が異動を伴う必須研修を行ないつつ、研修 2 年修了時までに合計 29 症例の病歴要約の作成と必須症例経験を円滑に遂行するためには、担当指導医が一貫して支援することが望ましいと考えます。この体制を支援するために、名大病院内科専門研修プログラム管理委員会は定期的なプログラム委員会会議で、連携施設の研修委員長と密に連携を保ち、担当指導医の支援を行ないます。円滑な指導が困難な場合には、連携施設の研修委員長との協議の上適切な担当指導医の配置を考慮します。

**2) 専門研修プログラムにおける年次到達目標と評価方法、ならびにフィードバックの方法と時期**

・年次到達目標は、内科専門研修において求められる「疾患群」、「症例数」、「病歴提出数」に示すとおりです。

・担当指導医は、研修プログラム管理委員会と協働して、3 カ月ごとに J-OSLER にて専攻医の研修実績と到達度を適宜追跡して、専攻医による J-OSLER への記入を促します。また、各カテゴリー内の研修実績と到達度が充足していない場合は該当疾患の診療経験を促します。

・担当指導医は、研修プログラム管理委員会と協働して、6 カ月ごとに病歴要約作成状況を適宜追跡して、専攻医による病歴要約の作成を促します。また、各カテゴリー内の病歴要約が充足していない場合は該当疾患の診療経験を促します。

・担当指導医は、研修プログラム管理委員会と協働して、6 カ月ごとにプログラムに定められている所定の学術活動の記録と各種講習会出席を追跡します。
・担当指導医は、卒後臨床研修・キャリア形成支援センターと協働して、毎年 8 月と 2 月とに自己評価と指導医評価、ならびに、360 度評価を行ないます。評価終了後、1 カ月以内に担当指導医は専攻医にフィードバックを行ない、形成的に指導します。2 回目以降は、以前の評価についての省察と改善とが図られたか否かを含めて、担当指導医はフィードバックを形成的に行なって、改善を促します。

**3) 個別の症例経験に対する評価方法と評価基準**

・担当指導医はローテーション期間中の subspecialty 上級医と十分なコミュニケーションを取り、J-OSLER での専攻医による症例登録の評価を行ないます。
・J-OSLER での専攻医による症例登録に基づいて、当該患者の電子カルテの記載、退院サマリ作成の内容などを吟味して、主担当医として適切な診療を行なっていると第三者が認めうると判断する場合に合格として、担当指導医が承認を行ないます。
・主担当医として適切に診療を行なっていると認められない場合には不合格として、担当指導医は専攻医に J-OSLER での当該症例登録の削除、修正などを指導します。

**4) J-OSLER の利用方法**

・専攻医による症例登録と担当指導医が合格とした際に承認します。
・担当指導医による専攻医の評価、メディカルスタッフによる 360 度評価および専攻医による逆評価などを専攻医に対する形成的フィードバックに用います。
・専攻医が作成し、担当指導医が校閲し適切と認めた病歴要約全 29 症例を専攻医が登録したものを担当指導医が承認します。
・専門研修施設群とは別の日本内科学会査読委員によるピアレビューを受け、指摘事項に基づいた改訂を専攻医がアクセプトされるまでの状況を確認します。
・専攻医が登録した学会発表や論文発表の記録、出席を求められる講習会等の記録について、各専攻医の進捗状況をリアルタイムで把握します。担当指導医と研修プログラム管理委員会はその進捗状況を把握して年次ごとの到達目標に達しているか否かを判断します.

・担当指導医は、J-OSLER を用いて研修内容を評価して、修了要件を満たしているかを判断します。

**5) 逆評価と J-OSLER を用いた指導医の指導状況把握**

専攻医による J-OSLER を用いた無記名式逆評価の集計結果を、担当指導医、施設の研修委員会、および、プログラム管理委員会が閲覧します。集計結果に基づき、名大病院内科専門研修プログラムや指導医、あるいは、研修施設の研修環境の改善に役立てます。

**6) 指導に難渋する専攻医の扱い**

必要に応じて、臨時（毎年 8 月と 2 月とに予定の他に）で、J-OSLER を用いて専攻医自身の自己評価、担当指導医による内科専攻医評価およびメディカルスタッフによる 360 度評価（内科専門研修評価）を行ない、その結果を基に名大病院内科専門研修プログラム管理委員会で協議を行ない、専攻医に対して形成的に適切な対応を試みます。状況によっては、担当指導医の変更や在籍する専門研修プログラムの異動勧告などを行ないます。

**7) プログラムならびに各施設における指導医の待遇**

名大病院給与規定によります。

**8) FD 講習の出席義務**

厚生労働省や日本内科学会の指導医講習会の受講を推奨します。
指導者研修（FD）の実施記録として、J-OSLER を用います。

**9) 日本内科学会作製の冊子「指導の手引き」（仮称）の活用**

内科専攻医の指導にあたり、指導法の標準化のため、日本内科学会作製の手引きを熟読して、形成的に指導します。

**10) 研修施設群内で何らかの問題が発生して、施設群内で解決が困難な場合の相談先**

日本専門医機構内科領域研修委員会を相談先とします。

**11) その他**

特になし。

新専門医制度　内科領域

# 名古屋大学医学部附属病院
# 基幹プログラム

# 名古屋大学医学部附属病院
# 内科専門研修プログラム

# 名大病院内科専門研修プログラム
# 内科専攻医研修マニュアル

**1. 研修後の医師像と終了後に想定される勤務形態や勤務先**

本プログラムが提案する内科領域 subspecialty 専門医コース、あるいは、physician scientist 養成コースの研修を終えた際には、下記の勤務形態が予想されます。

1) 総合内科的視点を持った専門領域の subspecialist： 病院で内科系 subspecialty、例えば消化器内科や循環器内科に所属して、内科系の全領域に広い知識・洞察力を持つ総合内科医（generalist）の視点から、内科系 subspecialist として診療を実践します。
2) 臨床的課題を克服する physician scientist: トランスレーショナル研究の素養を備えて臨床研究を遂行できる physician scientist としてのキャリアパスを描けます。

**2. 専門研修の期間**

内科専門医は 2 年間の初期臨床研修後に設けられた専門研修 3 年間の研修で育成されます。

**3. 研修施設群の各施設名**

基幹病院：名古屋大学医学部附属病院
連携施設：57 名大内科関連病院 (参照; 名古屋大学医学部附属病院内科専門研修プログラム別添資料: 連携施設情報)

**4. プログラムに関わる委員会と委員、および指導医名**

1）研修プログラム管理運営体制

本プログラムを履修する内科専攻医の研修について責任を持って管理するプログラム管理委員会を名古屋大学医学部附属病院に設置して、その委員長と各内科から 1 名ずつ管理委員を選任します。また、連携施設の研修委員長も管理委員として参画いたします。

プログラム管理委員会の下部組織として、基幹病院および連携施設に専攻医の研修を管理する研修委員会を置き、研修委員長が統括します。

2）指導医一覧

別途用意します。

**5. 各施設での研修内容と期間**

本プログラムでは、内科領域 subspecialty 専門医コース、あるいは、physician scientist 養成コースを提案しています。研修開始から 12 (~18) カ月の期間内で、カリキュラムに定める 70 疾患群のうち、56 疾患群、160 症例

以上を経験できる工夫として、専攻医登録評価システム（J-OSLER）に登録することを目標とします。研修開始から 12 (~18)カ月の期間で症例を経験することにより、連携施設において経験症例登録にとらわれない研修を選択することができるようになります。
病病連携や病診連携を依頼・受ける立場を経験することにより、地域医療を実施します。その結果、皆さんの深みある内科専門医としてのキャリアパス形成にも役立つと考えます。この考えのもと、複数施設での研修を行なうことが望ましく、全てのコースにおいてその経験を積みます。本プログラムは、さまざまな規模の病院への異動を伴う必須研修を通じて身につける全人的な内科的医療の実践に必要な知識と技能を備えた内科領域全般の診療能力を深めることを期待したいと考えています。
異動を伴う必須研修の期間は、12 カ月以上必要です。
年次毎の研修計画と 2 カ月ごとの研修の週間スケジュール例を下記に示します。

## 基幹施設での研修を重点的に行う場合

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1年目 | groupA | | groupB | | groupC | | groupD | | groupE | | groupF | |
| 2年目 | 基幹病院での内科研修・<br>physician scientistコース選択者は連携病院での異動を伴う必須研修 | | | | | | | | プログラムに対する調整期間 | | | |
| 3年目 | 連携病院での異動を伴う必須研修・physician scientistとして大学院博士課程進学 | | | | | | | | | | | |

**groupA-F:**
**グループ化したローテーション**

**groupA(11):「消化器」9、Ⅲ（腫瘍）1、総合内科Ⅰ（一般）1、**
**groupB(14):「循環器」10、「救急」4、**
**groupC(14):「呼吸器」8、「アレルギー」2、「感染症」4、**
**groupD(10):「神経」9、Ⅱ（高齢者）1、**
**groupE(9):「腎臓」7、「膠原病および類縁疾患」2、**
**groupF(12):「内分泌」4、「代謝」5、「血液」3、**

- 各専攻医に対する指導医は、不足の疾患群の把握を行い、必要症例数を経験させる
- 連携病院での異動を伴う必須研修期間は12ヶ月
- 異動を伴う必須研修施設と研修時期は専攻医研修2年目の後半に調整を図る
- 選択カリキュラム数（1個・複数）およびその期間は自由度を持たせる
- 3年目にはsubspecialty研修やphysician scientistとしての大学院博士課程進学などの選択を行うとともに、内科症例の継続的な経験を行う。

## 連携施設での研修を重点的に行う場合

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1年目 | 連携施設での研修 | | | | | | | | | | | |
| 2年目 | 基幹病院での異動を伴う必須研修 | | | | | | | | プログラムに対する調整期間 | | | |
| 3年目 | 基幹病院での異動を伴う必須研修・physician scientistとして大学院博士課程進学 | | | | | | | | | | | |

- 連携施設から本プログラムへエントリーする場合には1年目には連携施設で研修を開始して必要症例を経験することを想定する。
- 基幹病院への異動を伴う必須研修の時期は、原則専攻医研修2年目の後半に調整を図る。
- 1年目での連携施設における研修で経験できなかった疾患群については、2年目以降での基幹病院での研修によって該当疾患群の症例を積極的に経験することとする
- 基幹病院での異動を伴う必須研修期間は12ヶ月以上を想定する
- 3年目にはsubspecialty研修やphysician scientistとしての大学院博士課程進学などの選択を行うとともに、内科症例の継続的な経験を行う。

週間スケジュール例：循環器内科の週間スケジュール例

| | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土・日 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 午前 | 集中治療室患者の回診・症例検討 | 集中治療室患者の回診・症例検討 | 集中治療室患者の回診・症例検討 | 集中治療室患者の回診・症例検討 | 集中治療室患者の回診・症例検討 | 緊急カテーテル検査・治療への参加 |
| | 心エコー実習 | 心不全カテーテル検査 | 心筋シンチ　セミナー | 心エコー実習 | 心エコー実習 | |
| | 専門外来 | 肺高血圧カテーテル検査・治療 | 虚血性疾患カテーテル検査・治療 | 不整脈疾患カテーテル検査・治療 | 虚血性疾患カテーテル検査・治療 | |
| 午後 | 虚血性疾患カテーテル検査・治療 | 総回診 | 虚血性疾患カテーテル検査・治療 | 不整脈疾患カテーテル検査・治療 | 不整脈疾患カテーテル検査・治療 | |
| | 心臓外科とのカンファレンス・循環器症例検討会、抄読会・医局会 | 循環器病棟 | 不整脈疾患カテーテル検査・治療 | | 循環器病棟 | |
| | | 集中治療室患者の回診・症例検討 | 集中治療室患者の回診・症例検討 | 集中治療室患者の回診・症例検討 | 集中治療室患者の回診・症例検討 | |
| | 緊急カテーテル検査・治療への参加 | | | | | |

・ローテーション診療科夜間当番・待機当番・救急当番をローテーション上級医の指導・承認のもと経験します。
・当直を経験します。
・主たる担当医となっている症例については、毎日診察を行ない、カルテ記載と必要な評価・指示をすることは当然の業務として含まれています。

### 6. 主要な疾患の年間診療件数

内科専門研修カリキュラムに掲載されている主要な疾患については、名大病院の DPC 病名を基本とした各内科診療科における疾患群別の入院患者数

（平成 27 年度）を調査して、ほぼ全ての疾患群が充足されることが見込まれます（10 の疾患群は外来での経験を含めるものとします)。ただし、研修期間内に全疾患群の経験ができるように誘導する仕組みも必要であり、初期研修時での症例をもれなく登録すること、外来での疾患頻度が高い疾患群を診療できるシステム（外来症例割当システム）を構築することで必要な症例経験を積むことができます。

**7. 年次ごとの症例経験到達目標を達成するための具体的な研修の目安**

本プログラムでは内科領域 subspecialty 専門医コースと physician scientist 養成コースの 2 コースを準備しています。コース選択後も他のコースへの移行も認められます。

本プログラムが提案する 2 コースでは、まず、標準的かつ全人的な内科的医療の実践に必要な知識と技能をできる限り深く修得できるように、豊富な臨床経験を持つ指導医の適切な指導の下で研修を行ないます。この期間は 2 コースに共通しています。研修開始から 12 カ月の期間で 2 カ月毎のローテーション研修を行ないます。各 2 カ月間の研修は、症例登録に必要な疾患群の中で関連する疾患群を日頃診療する可能性の高い診療科が共同指導体制を構築して、期間内により多くの症例を経験できるように配慮しています。このローテーション研修を行なうことによって特定の分野に偏らない内科全分野において主担当者として 56 疾患群、160 症例以上を症例登録して、内科専門医ボードによる評価に合格できる 29 症例の病歴要約が作成できるように指導していきます。経験症例数の集積状況を把握しながら、原則研修 3 年目は 12 カ月の異動を伴う必須研修を行ないます。その時期と研修方法は、専攻医の希望と指導医からあがる報告をもとに専攻医研修 2 年目後半に研修プログラム管理委員会が調整を図ります。

**1) 内科領域 subspecialty 専門医コース**

希望する subspecialty 領域を重点的に研修するコースです。2-8)の項に示した【初期研修期間における内科症例の取り扱いについての考え方】と同様に、豊富な臨床経験を持つ subspecialty 領域の専門医による適切な指導の下で自発的に研修を行なうこととします。内科専攻研修期間に研修した subspecialty 領域の経験症例を subspecialty 研修の経験症例として登録できます。

**2) physician scientist コース**

本プログラムは、その研修期間中に特定の分野に偏らない内科全分野において主担当者として 56 疾患群、160 症例以上を症例登録して、内科専門医ボードによる評価に合格できる 29 症例の病歴要約が作成できたと認められる内科専攻医に対して専攻医 3 年目に大学院進学を認めるコースです。臨床研究の期間も専攻医の研修期間として認められます。自主性のある専攻医がカリキュラムに定める全 70 疾患群、計 200 症例の経験できる環境をサポートします。Physician scientist コースを希望の場合は原則異動研修を専攻医 2 年目までに 12 ヶ月行うこととなります。

研究室風景

**8. 自己評価と指導医評価、ならびに、360 度評価を行なう時期とフィードバックの時期**

1) 専攻医による自己評価とプログラムの評価

日々の診療・教育的行事において指導医から受けたアドバイス・フィードバックに基づき、weekly summary discussion を行ない、研修上の問題点や悩み、研修の進め方、キャリア形成などについて考える機会を持ちます。毎年 3 月に現行プログラムに関するアンケート調査を行ない、専攻医の満足度と改善点に関する意見を収集し、次期プログラムの改訂の参考とします。アンケート用紙は別途定めます。

2) 指導医による評価と 360 度評価

指導医およびローテーション先の上級医は専攻医の日々のカルテ記載と、専攻医が web 版の研修手帳に登録した当該科の症例登録を経時的に評価して、症例要約の作成についても指導します。また、技術・技能についての評

価も行ないます。年に 1 回以上、目標の達成度や各指導医・メディカルスタッフの評価に基づき、研修責任者は専攻医の研修の進行状況の把握と評価を行ない、適切な助言を行ないます。毎年、指導医とメディカルスタッフによる複数回の 360 度評価を行ない、態度の評価が行なわれます。

**9. プログラム修了の基準**

専攻医研修 3 年目の 3 月に研修手帳を通して経験症例、技術・技能の目標達成度について最終的な評価を行ないます。29 例の病歴要約の合格、所定の講習受講や研究発表なども判定要因になります。最終的には指導医による総合的評価に基づいてプログラム管理委員会によってプログラムの修了判定が行なわれます。

**10. 専門医申請に向けての手順**

J-OSLER を用います。同システムでは以下を web ベースで日時を含めて記録します。具体的な入力手順については内科学会 HP から”専攻研修のための手引き”をダウンロードして、参照してください。

・専攻医は全 70 疾患群の経験と 200 症例以上を主担当医として経験することを目標に、通算で最低 56 疾患群、160 症例以上の研修内容を登録します。指導医はその内容を評価して、合格基準に達したと判断した場合に承認を行ないます。

・指導医による専攻医の評価、メディカルスタッフによる 360 度評価、専攻医による逆評価を入力して記録します。

・全 29 症例の病歴要約を指導医が校閲後に登録して、専門研修施設群とは別の日本内科学会病歴要約評価ボード（仮称）によるピアレビューを受け、指摘事項に基づいた改訂をアクセプトされるまでシステム上で行ないます。

・専攻医は学会発表や論文発表の記録をシステム上に登録します。

・専攻医は各専門研修プログラムで出席を求められる講習会等（例：CPC、地域連携カンファレンス、医療倫理・医療安全・感染対策講習会）の出席をシステム上に登録します。

**11. プログラムにおける待遇**

専攻医の勤務時間、休暇、当直、給与等の勤務条件に関しては、労働基準法を順守して、名大病院および連携施設の専攻医就業規則及び給与規則に従います。異動を伴う必須研修の場合には、病院間の調整で定めた就労規則と給与規則に従って内科専門研修を行ないます。専攻医の心身の健康維持の配慮については各施設の研修委員会と労働安全衛生委員会で管理します。特に

精神衛生上の問題点が疑われる場合は臨床心理士によるカウンセリングを行ないます。専攻医は採用時に上記の労働環境、労働安全、勤務条件の説明を受けます。プログラム管理委員会では各施設における労働環境、労働安全、勤務に関して報告されて、これらの事項について総括的に評価します。

**12. プログラムの特色**

1) 本プログラムは、東海医療圏において【臓器別のサブスペシャルティ領域に支えられた高度な急性期医療の役割と地域の病診・病病連携の中核としての役割】を担っている名大病院が基幹施設として、57 施設の名大内科関連病院が連携病院として参画することによって構成される内科専門研修プログラムであります。
2) 本プログラムは、名大病院が基幹病院になることにより、将来的に東海医療圏において内科医として臨床を研鑽したいと考える全国からの医学生・初期研修医の受け皿となり、多様な内科専門医としてのキャリアパスを全力でサポートするものであります。
3) 本プログラムは、二つの内科専門研修コースを設けて名大病院の特徴を生かした内科専門医を養成します。一つは、高度な内科領域 subspecialty 専門医を育成するための橋渡しとなる subspecialty 専門医コースであります。もうひとつは、次代を担う医療開拓を行なえる physician scientist 養成コースであります。
4) 基幹施設である名大病院で、研修開始から 12 (~18)カ月の期間でローテーション研修を行なうことによって特定の分野に偏らない内科全分野において主担当者として 56 疾患群、160 症例以上を症例登録ができるようにします。そして可能な限り 70 疾患群、200 症例以上の経験できることを目標とします。専攻医 2 年修了時点で、指導医による形成的な指導を通じて、内科専門医ボードによる評価に合格できる 29 症例の病歴要約を作成できるようにします。
5) 研修開始から 12 (~18)カ月の期間で症例を経験することにより、経験症例登録にとらわれず本プログラム内に参画する多種多様な地域に根ざした連携施設での最低 12 ヵ月間の研修を選択することができます。さらに状況に応じて中核病院での研修の追加も可能です。これによって、さまざまな環境に対応できる内科キャリアパスを構築できます。
6) 本プログラムに参画している連携病院において初期研修を行なった後に本プログラムへ参加する場合には、原則、その病院からプログラムを開始していく選択を許容します。研修期間での経験症例数に応じて、基幹病院である名大病院での原則 12 カ月以上の研修を行なうこととします。

**13. 継続した subspecialty 領域の研修**

希望する subspecialty 領域を重点的に研修するコースです。研修プログラム 2-8)の項に示した【初期研修期間における内科症例の取り扱いについての考え方】と同様に、豊富な臨床経験を持つ subspecialty 領域の専門医による適切な指導の下で自発的に研修を行なうこととします。内科専攻研修期間に研修した subspecialty 領域の経験症例の一部を subspecialty 研修の経験症例として登録できます。

**14. 逆評価の方法とプログラム改良姿勢**

毎年 3 月に現行プログラムに関するアンケート調査を行ない、専攻医の満足度と改善点に関する意見を収集して、次期プログラムの改訂の参考とします。アンケート用紙は別途定めます。

**15. 研修施設群内で何らかの問題が発生して、施設群内で解決が困難な場合**

日本専門医機構内科領域研修委員会に相談します。

週間スケジュール：

1) 循環器内科の週間スケジュール

**循環器内科**

<table>
<tr><th></th><th>月</th><th>火</th><th>水</th><th>木</th><th>金</th><th>土・日</th></tr>
<tr><td rowspan="3">午前</td><td>集中治療室患者の回診・症例検討</td><td>集中治療室患者の回診・症例検討</td><td>集中治療室患者の回診・症例検討</td><td>集中治療室患者の回診・症例検討</td><td>集中治療室患者の回診・症例検討</td><td rowspan="7">緊急カテーテル検査・治療への参加</td></tr>
<tr><td>心エコー実習</td><td rowspan="2">心不全カテーテル検査<br>肺高血圧カテーテル検査・治療</td><td>心筋シンチ セミナー</td><td>心エコー実習</td><td>心エコー実習</td></tr>
<tr><td>専門外来</td><td>虚血性疾患カテーテル検査・治療</td><td>不整脈疾患カテーテル検査・治療</td><td>虚血性疾患カテーテル検査・治療</td></tr>
<tr><td rowspan="4">午後</td><td>虚血性疾患カテーテル検査・治療</td><td>総回診</td><td>虚血性疾患カテーテル検査・治療</td><td rowspan="2">不整脈疾患カテーテル検査・治療</td><td>不整脈疾患カテーテル検査・治療</td></tr>
<tr><td rowspan="2">心臓外科とのカンファレンス・<br>循環器症例検討会、<br>抄読会・医局会</td><td>循環器病棟</td><td>不整脈疾患カテーテル検査・治療</td><td>循環器病棟</td></tr>
<tr><td>集中治療室患者の回診・症例検討</td><td>集中治療室患者の回診・症例検討</td><td>集中治療室患者の回診・症例検討</td><td>集中治療室患者の回診・症例検討</td></tr>
<tr><td colspan="5">緊急カテーテル検査・治療への参加</td></tr>
</table>

2) 血液内科・糖尿病・内分泌内科の週間スケジュール

**血液内科 糖尿病・内分泌内科**

<table>
<tr><th></th><th>月</th><th>火</th><th>水</th><th>木</th><th>金</th><th>土・日</th></tr>
<tr><td rowspan="3">午前</td><td>血液内科病棟業務</td><td>糖尿病・内分泌内科病棟業務</td><td>糖尿病・内分泌内科病棟業務</td><td>血液内科病棟業務</td><td>糖尿病・内分泌内科病棟業務</td><td rowspan="7">週末待機(1/1M、ローテート１ヶ月目糖内、２ヶ月目血内)</td></tr>
<tr><td rowspan="2">受持患者情報の把握</td><td>糖尿病・内分泌内科教授回診</td><td rowspan="2">受持患者情報の把握</td><td>血液内科教授回診</td><td rowspan="2">受持患者情報の把握</td></tr>
<tr><td>受持患者情報の把握</td><td>受持患者情報の把握</td></tr>
<tr><td rowspan="4">午後</td><td>糖尿病・内分泌内科病棟業務</td><td>血液内科病棟業務</td><td>血液内科病棟業務</td><td>血液内科病棟業務</td><td>糖尿病・内分泌内科病棟業務</td></tr>
<tr><td>甲状腺穿刺細胞診</td><td rowspan="2"></td><td></td><td>甲状腺穿刺細胞診</td><td>糖尿病教室</td></tr>
<tr><td>糖尿病・内分泌内科症例検討会、<br>血液内科症例検討会</td><td>糖尿病・内分泌内科症例検討会</td><td></td><td>指導教員とのdiscussion1/2w</td></tr>
<tr><td colspan="5">待機当番 1/w(奇数週 糖内、偶数週 血内)</td></tr>
</table>

## 3) 消化器内科・化学療法部の週間スケジュール

**消化器内科・化学療法部**

| | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土・日 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 午前 | 抄読会・外来化学療法室カンファ | 消化器内科<br>一般検査<br>（腹部 US、<br>内視鏡検査など） | 消化器内科<br>一般検査<br>（腹部 US、<br>内視鏡検査など） | 消化器内科<br>一般検査<br>（腹部 US、<br>内視鏡検査など） | 消化器内科<br>一般検査<br>（腹部 US、<br>内視鏡検査など） | 緩和ケア講習会（年1回） |
| | 緩和ケアチーム<br>回診 | | | | | |
| | 外来化学療法室・<br>病棟回診 | | | | | |
| 午後 | 外来化学療法室・<br>病棟回診 | 消化器内科<br>専門的内視鏡<br>検査・治療 | 消化器内科<br>専門的検査・治療<br>（内視鏡治療、カテーテル治療など） | 消化器内科<br>専門的検査・治療<br>（内視鏡治療、カテーテル治療など） | 消化器内科<br>専門的内視鏡<br>検査・治療 | 消化器内科レジデントセミナー（年 2 回） |
| | 化学療法部カンファ | | | | | |
| | 消化器内科カンファ | | | | | |

## 4) 脳神経内科・老年科の週間スケジュール

**脳神経内科**

| | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土・日 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 午前 | 申し送り及び<br>カンファレンス | 申し送り及び<br>カンファレンス | 申し送り及び<br>カンファレンス | 申し送り及び<br>カンファレンス | 申し送り及び<br>カンファレンス | 神経学会地方会（年 3 回、可能な範囲で参加） |
| | 電気生理検査<br>自律神経検査 | 電気生理検査<br>自律神経検査 | 病棟回診<br>救急外来対応 | 専門外来 | 病棟回診<br>救急外来対応 | |
| 午後 | 病棟回診<br>救急外来対応 | 入院患者検討会<br>総回診<br>症例検討会 | 病棟回診 | 病棟回診<br>救急外来対応 | 病棟回診 | |

**老年内科**

| | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土・日 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 午前 | 老年内科カンファ | 老年内科カンファ | 老年内科カンファ | 老年内科カンファ | 老年内科カンファ | |
| | 老年内科病棟回診、<br>週末緊急入院患者アセスメント | 老年内科病棟回診 | 老年内科専門外来 | 老年内科日直研修<br>（点滴等管理、<br>呼吸器等管理、<br>褥瘡処置等） | 老年内科病棟回診 | |
| 午後 | 老年内科病棟回診、<br>週末緊急入院患者アセスメント（高齢者総合機能評価実習） | 老年内科病棟回診 | 老年内科病棟回診 | 老年内科総回診/<br>嚥下機能検査研修 | 神経内科・老年科<br>病棟回診 | 休日日直総回診<br>同行、休日救急入院対応研修 |
| | | 老年内科抄読会 | | | 認知機能評価研修 | |
| | 認知症カンファレンス | 老年内科症例<br>検討会 | | | 退院時カンファ<br>（ケアマネ、訪問看護師等も参加） | |

5) 呼吸器内科・中央感染制御部の週間スケジュール

| | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土・日 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 午前 | SICU 回診*<br>血液培養<br>陽性症例の<br>診療・検討* | 呼吸器内科<br>症例カンファ<br>抄読会 | 呼吸器内科<br>症例カンファ<br>抄読会 | 呼吸器内科<br>症例カンファ<br>抄読会 | 呼吸器内科<br>症例カンファ<br>抄読会 | |
| | | 気管支鏡検査 | 教授回診 | 気管支鏡検査 | 病棟回診 | |
| 午後 | 呼吸器内科病棟回診<br><br>6 分間歩行試験 | 気管支鏡検査<br>病棟回診 | TDM ミーティング*<br>感染対策ラウンド*<br>感染対策コアミーティング* | 呼吸器<br>専門外来<br><br>病棟回診 | 呼吸器<br>専門外来<br><br>病棟回診 | 呼吸器学会<br>東海地方会<br>（年 2 回、可能な範囲で参加） |
| | 肺炎入院<br>症例カンファ | 呼吸器内科<br>総合カンファ | 症例検討会* | | Tumor board<br>Multi-disciplinary discussion<br>呼吸器内科外科・放射線科<br>合同カンファ | |

6) 腎臓内科・膠原病・総合診療科　のスケジュール

**腎臓内科・総合診療科**

| | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土・日 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 午前 | 総合診療科<br>病棟カンファ・外来担当 | 総合診療科<br>病棟カンファ・外来担当 | 総合診療科<br>病棟カンファ | 腎臓内科<br>腎病理カンファ | 腎臓内科<br>抄読会 | |
| | | | 腎臓内科<br>教授回診 | | 総合診療科<br>外来担当 | |
| 午後 | 腎臓内科<br>病棟業務 | 腎臓内科<br>病棟業務・透析カンファ | 腎臓内科<br>病棟業務 | 総合診療科<br>外来カンファ | 腎臓内科<br>病棟業務 | |
| | | 腎臓内科<br>病理検討会 | | | 腎臓内科<br>症例検討会 | |